

病院年報

第4巻
(令和元年度)



独立行政法人 地域医療機能推進機構

大阪病院

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院年報第4巻

巻 頭 言

令和2(2020)年3月末に山崎芳郎病院長が退任され、4月1日より独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院(JCHO大阪病院)の病院長に就任しました。宜しくお願い申し上げます。この度、令和元年度の当院の活動をふり返り、JCHO大阪病院年報第4巻を発刊させて頂けること大変うれしく思います。

今年、令和2年～2020年が明けると、日本だけでなく世界中がCOVID-19感染症のPandemicで大変な状況になりました。医療が大混乱に陥っただけでなく、社会・経済活動にストップが掛かり多くの企業が大打撃を受け、社会生活も個人の生活も一変しました。このCOVID-19の流行で企業関係ではテレワークが増え、病院や大学ではネットでの会議や講義が日常化しました。買い物もネット経由の購買が増えました。例えば、アメリカで2016年のネットの食品販売は全食品販売の約4%でした。当時ネット販売は急速に増えると見積もられ、10年後には20%になると考えられていました。しかし、COVID-19の影響で、瞬間風速かも知れませんが、20%を超えた様で、デジタル化が加速しています。9月に発足した菅内閣は、日本のデジタル化をおおいに進めるとのことですが、JCHO大阪病院もそれを先取りするかたちでデジタル化を進めています。その第一歩として本年報も印刷物は控え、デジタルで発信させて頂くことになりました。

さて、JCHO大阪病院は、旧大阪厚生年金病院の伝統と文化を引き継ぎながら平成26(2014)年4月1日の改組に伴い、JCHOに参加、大阪市西部の地域医療を支える公的病院として再出発して今年で6年目になります。この間に独立行政法人の中期計画は第一期が終わり、その成果を踏まえた第二期中期計画が始まりました。

現在、日本は少子高齢化に加え人口減少が大きな問題となっています。これを踏まえ、厚労省を中心に地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、そして医師偏在対策を実現すべく「三位一体」改革が進みつつあります。この中で、JCHO大阪病院は、地域医療支援病院として、そして救急指定病院・大阪府がん診療拠点病院・人間ドック健診認定施設として、整形外科疾患に加え虚血性心疾患・脳卒中・がん等の生活習慣病の予防と治療、周産期医療、地域に根ざした救急医療に集力し、質の高い安全で安心な医療を提供し地域貢献を目指しております。同時に、附属看護専門学校を持ち、トップクラスの臨床研修病院として、次世代を担う優秀な医療者も育成しております。

本年報の作成に当たり、病院の診療実績、各部署の業務内容・成績、そして医事・経理統計を整理しました。当院の診療活動に対する地域の皆様方のご理解・ご支援を頂くとともに、忌憚りの無いご意見に対して改善すべき点は、可及的に善処して参りたいと思います。

今後とも皆様方のあたたかいご支援とご助言を心よりお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構 大阪病院 病院長 西田 俊 朗

INDEX

■理 念	1
■病院概要	2
■施設基準	2
■学会認定	5
■沿革	6
■職員数	7
■附属施設	7
■組織図	8
■医事統計	9
■病歴統計	21
■部門概要	47
■各種委員会	129
■業績	131

JCHOの理念

我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

JCHO大阪病院の理念

1. 高度で安全な医療を目指します。
2. 患者さんの立場に立って、心温まるケアに専念します。
3. 近隣のかかりつけ医と連携し、地域の医療と福祉を推進します。
4. 職員全員が働きやすい職場づくりをすすめます。

地域医療支援病院としての基本方針

1. 小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2. 母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3. 各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4. 内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5. 慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6. 脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7. 心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8. 生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9. 各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10. 地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11. 職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

【病院概要】

開設者： 独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病院名： 独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病院長： 山崎 芳郎

所在地： 大阪府大阪市福島区福島4丁目2番78号

開設年月日： 平成26年4月1日

許可病床数： 565床（一般病床）

特殊病床： 特定集中治療室（ICU） 12床

脳卒中ケアユニット（SCU） 9床

新生児特定集中治療室（NICU） 9床

継続保育治療室（GCU） 6床

開放型病床15床を含む

標榜科： 整形外科、リウマチ科、形成外科、リハビリテーション科、外科、消化器外科（内視鏡）、呼吸器外科（内視鏡）、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、内科、消化器内科（内視鏡）、呼吸器内科（内視鏡）、腎臓内科（人工透析）、糖尿病内分泌内科、循環器内科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、小児科、新生児内科、神経精神科、脳神経内科、放射線診断科、放射線治療科、歯科・歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、救急科

【施設基準】

令和2年3月31日現在

入院基本料	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
入院基本料等加算	総合入院体制加算2
	超急性期脳卒中加算
	診療録管理体制加算1
	医師事務作業補助体制加算1（25対1）
	急性期看護補助体制加算（50対1）
	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	緩和ケア診療加算
	栄養サポートチーム加算

入院基本料等加算	医療安全対策加算 1
	感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)(抗菌薬適正使用支援加算)
	患者サポート体制充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩管理加算
	総合評価加算
	呼吸ケアチーム加算
	後発医薬品使用体制加算 2
	病棟薬剤業務実施加算 1
	病棟薬剤業務実施加算 2
	データ提出加算 2
	入退院支援加算 1 (地域連携診療計画加算)
	認知症ケア加算 1
	精神疾患診療体制加算
特定入院料	特定集中治療室管理料 3
	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	新生児特定集中治療室管理料 2
	小児入院医療管理料 2
指導管理	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	がん患者指導管理料イ
	がん患者指導管理料ロ
	外来緩和ケア管理料
	糖尿病透析予防指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料
	地域連携小児夜間・休日診療料 1
	地域連携夜間・休日診療料
	院内トリアージ実施料
	夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
	外来放射線照射診療料
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料の注 2 に掲げる相談体制充実加算
	開放型病院共同指導料
	がん治療連携計画策定料
	肝炎インターフェロン治療計画料
	ハイリスク妊産婦連携指導料 1
	薬剤管理指導料
	医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2	
在宅医療	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
	在宅療養後方支援病院
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリング加算
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
検 査	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
	HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)

検 査	検体検査管理加算（Ⅰ）
	検体検査管理加算（Ⅳ）
	胎児心エコー法
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	ヘッドアップティルト試験
	神経学的検査
	小児食物アレルギー負荷検査
	内服・点滴誘発試験
画像診断	画像診断管理加算 2
	CT撮影及びMRI撮影
	冠動脈CT撮影加算
	心臓MRI撮影加算
	乳房MRI撮影加算
	小児鎮静下MRI撮影加算
	頭部MRI撮影加算
投 薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注 射	外来化学療法加算 1
	無菌製剤処理料
リハビリ	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
	がん患者リハビリテーション料
処 置	人工腎臓
	導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
手 術 他	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる）
	乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
	経カテーテル大動脈弁置換術
	胸腔鏡下弁形成術
	胸腔鏡下弁置換術
	経皮的中隔心筋焼灼術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術

手術他	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
	腹腔鏡下肝切除術
	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
	生体腎移植術
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
	輸血管管理料Ⅰ
	貯血式自己血輸血管管理体加算
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	麻酔管理料（Ⅰ）
	麻酔管理料（Ⅱ）
	放射線治療専任加算
	外来放射線治療加算
	高エネルギー放射線治療
	1回線量増加加算
	強度変調放射線治療（IMRT）
	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
	体外照射呼吸性移動対策加算
	定位放射線治療
	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
	保険医療機関間の連携による病理診断
	病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算	
食事療養	入院時食事療養（Ⅰ）
歯科	地域歯科診療支援病院歯科初診料
	歯科外来診療環境体制加算2
	クラウン・ブリッジ維持管理料
	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
	歯科口腔リハビリテーション料2
	CAD/CAM冠

【医学会認定研修等施設一覧】

厚生労働省臨床研修指定病院

日本内科学会認定医教育病院

日本リハビリテーション医学会研修施設

日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設

日本小児科学会小児科専門医研修支援施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本脳神経外科学会専門医研修プログラム
関連施設

日本整形外科学会専門医研修施設

日本形成外科学会認定医研修施設

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本医学放射線学会専門医修練機関
 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
 日本病理学会病理専門医研修認定施設
 日本呼吸器学会認定施設
 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 日本消化器病学会専門医認定施設
 日本肝臓学会認定施設
 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（内科・小児科）
 日本糖尿病学会認定教育施設
 日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）
 日本神経学会専門医教育施設
 日本リウマチ学会教育施設
 呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
 日本消化器外科学会専門医修練施設
 日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定認定施設
 日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設
 日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
 日本集中治療医学会専門医研修施設
 日本放射線腫瘍学会認定施設
 日本手外科学会認定基幹研修施設
 脊椎脊髓外科専門医基幹研修施設

日本大腸肛門病学会認定施設
 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
 日本透析医学会専門医認定施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
 日本核医学会専門医教育病院
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本臨床細胞学会教育研修施設
 日本高血圧学会専門医認定施設
 日本脳卒中学会専門医研修教育病院
 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
 日本IVR学会専門医修練施設認定施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
 日本食道学会全国登録認定施設
 食道外科専門医準認定施設
 日本不整脈学会不整脈専門医研修施設
 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
 日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
 日本病院総合診療医学会認定施設
 日本消化管学会胃腸科指導施設
 日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
 日本膵臓学会認定指導施設

【沿革】

昭和27年 10月	大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床）
29年 3月	外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科 新設334床
30年 4月	改築増床 計375床に
32年 7月	総合病院名称使用の承認
33年 4月	増改築増床 計560床に 福島小学校分校 併設（H22.12まで） 厚生年金病院大阪高等看護学院 開院
34年 4月 10月	下福島中学校分校 併設（H22.12まで） 神経精神科・放射線科 新設
36年 4月	麻酔科 新設
38年 4月	リウマチ科・災害外科 新設
43年 7月	臨床研修指定機関となる
45年 9月	脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設

48年 12月	病院新築工事着工（旧病院）
56年 3月	すべての新改築工事完了（旧病院）
57年 3月	10床増床 計570床に
平成 7年 2月	阪神・淡路大震災 医療支援活動
8年 2月	救急告示病院として認定
9年 3月	ICU・救急処置室 開設
12年 4月 10月	開放型病床の承認（15床） 院外処方全面発行開始
13年 7月	地域医療連絡室設置
16年 3月 4月	オーダーリングシステム導入 産科オープンシステム開始
18年 4月 10月	DPC 対象病院に指定 SCU（脳卒中ケアユニット）新設 許可病床数変更570床→565床
19年 4月 12月	院内保育園設置 地域医療支援病院の承認
20年 5月	電子カルテシステム導入
22年 4月	大阪府がん診療拠点病院の指定
23年 4月	東日本大震災 医療支援活動
25年 2月	耐震建替工事着工
26年 4月	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 改組
27年 4月 5月	新病院竣工式 新病院診療開始
28年 4月	新病院グランドオープン
令和 1年 9月	一次脳卒中センター認定
2年 4月	40床休床 NICU9床→6床、GCU6床→0 13階東45床/西45床→13階東60床 9階西46床→45床

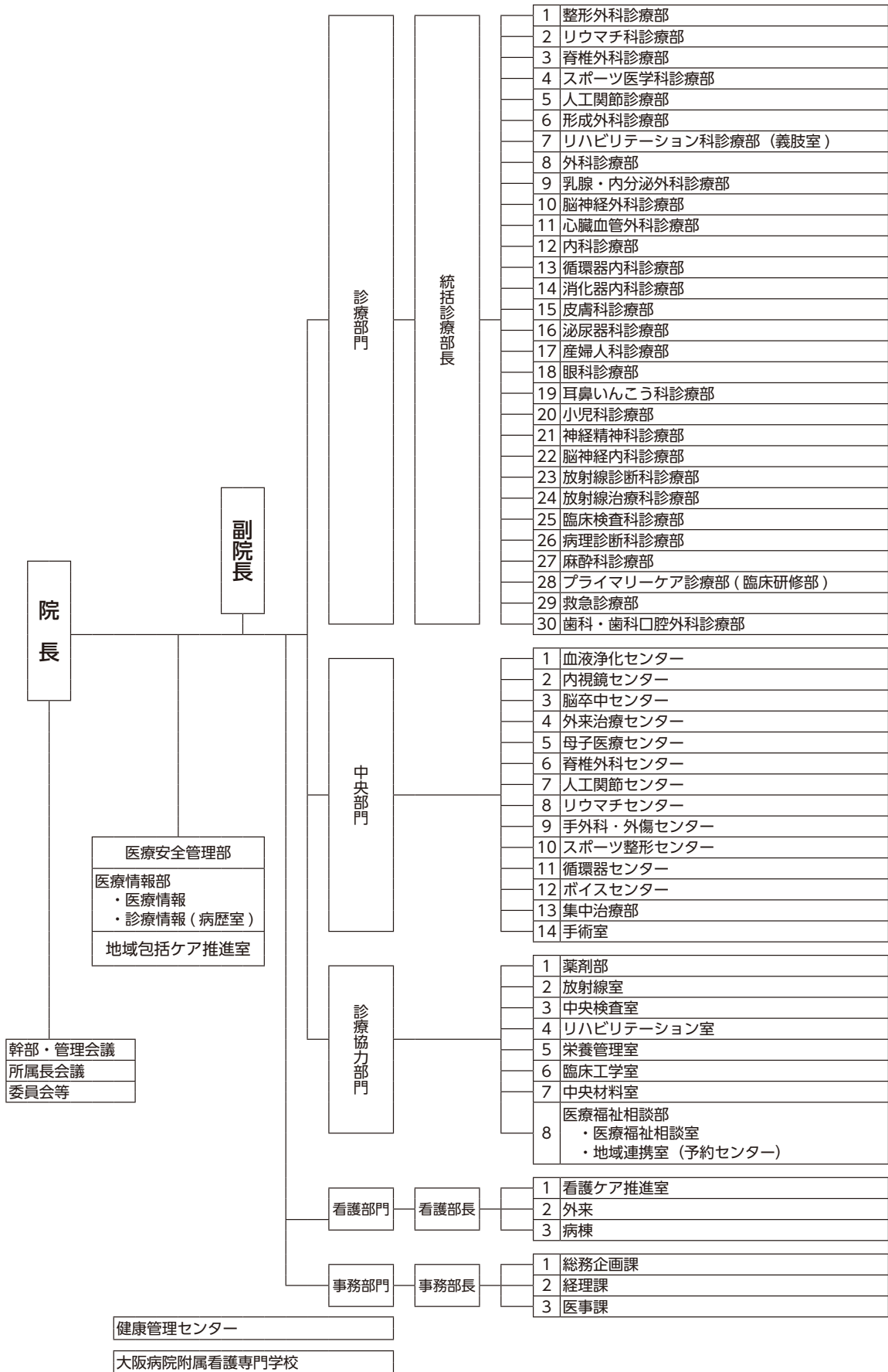
【職員数】

令和2年3月1日現在

	区分	医療職	医技職 福祉職	看護職	事務職	療養 介助職	技能職	合計
病院	常勤	190.0	173.0	505.0	52.0	27.0	11.0	958.0
	非常勤	44.0	2.9	5.8	22.9	8.4	0.0	44.0
	小計	194.0	175.9	510.8	74.9	35.4	11.0	1002.0
学校	区分	教育職	事務職					合計
	常勤	10.0	1.0					11.0
	非常勤	0.0	0.0					0.0
	小計	10.0	1.0					11.0
合計(人)		204	176.9	510.8	74.9	35.4	11.0	1013.1

【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校





医事統計



■科別外来患者数【2019年度】

外来診療日：242日

診療科	新患	再来	合計	1日平均患者数		
				新患	再来	合計
整形外科	3,794	31,043	34,837	15.7	128.3	144.0
形成外科	519	3,175	3,694	2.1	13.1	15.3
リハビリテーション科	0	5,807	5,807	0.0	24.0	24.0
外科	291	11,887	12,178	1.2	49.1	50.3
乳腺内分泌外科	655	10,466	11,121	2.7	43.2	46.0
心臓血管外科	24	1,374	1,398	0.1	5.7	5.8
脳神経外科	885	3,971	4,856	3.7	16.4	20.1
内科	1,498	38,475	39,973	6.2	159.0	165.2
消化器内科	1,345	32,076	33,421	5.6	132.5	138.1
循環器科	690	19,686	20,376	2.9	81.3	84.2
皮膚科	649	12,021	12,670	2.7	49.7	52.4
泌尿器科	307	11,179	11,486	1.3	46.2	47.5
産婦人科	1,714	19,818	21,532	7.1	81.9	89.0
眼科	836	19,916	20,752	3.5	82.3	85.8
耳鼻いんこう科	767	6,546	7,313	3.2	27.0	30.2
小児科	1,721	8,012	9,733	7.1	33.1	40.2
神経精神科	95	8,704	8,799	0.4	36.0	36.4
脳神経内科	422	4,900	5,322	1.7	20.2	22.0
放射線診断科	525	328	853	2.2	1.4	3.5
放射線治療科	8	2,564	2,572	0.0	10.6	10.6
歯科・歯科口腔外科	1,690	3,115	4,805	7.0	12.9	19.9
合計	18,435	255,063	273,498	76.2	1,054.0	1,130.2

■病棟別患者数

366日

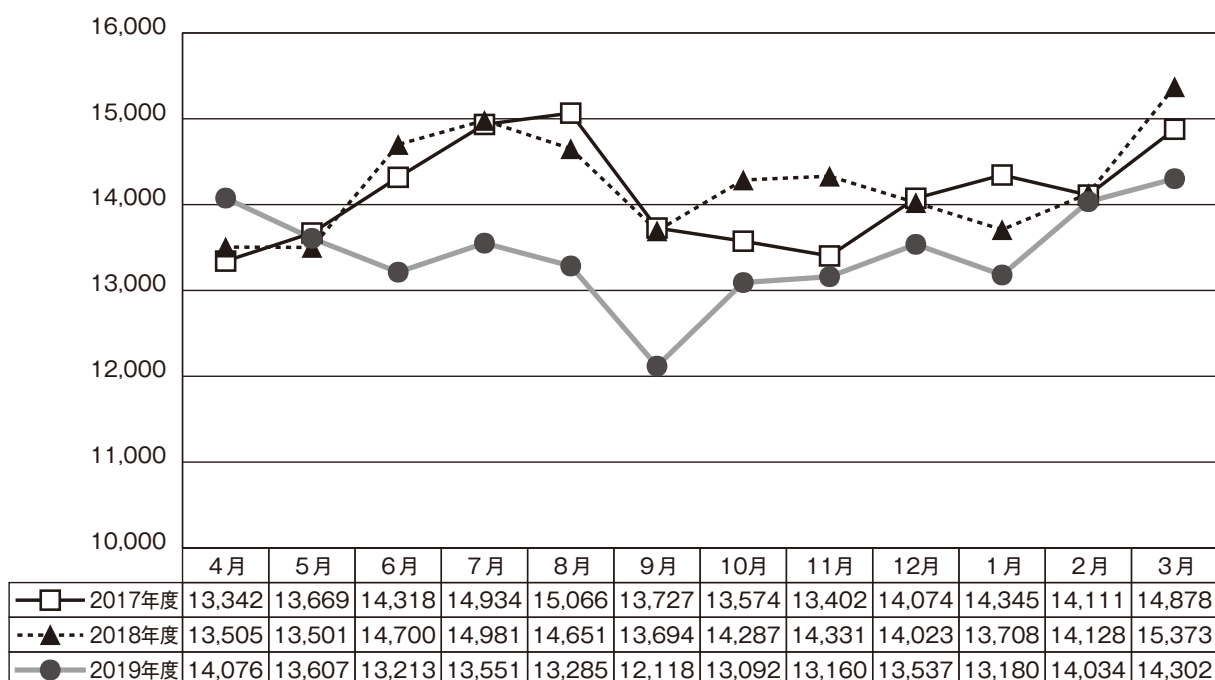
病棟名	取扱患者数	1日平均患者数
8階東	5,994	16.4
8階西	5,336	14.6
8階南	11,284	30.8
9階東	11,867	32.4
9階西	13,884	37.9
10階東	13,047	35.6
10階西	13,576	37.1
11階東	13,120	35.8
11階西	14,305	39.1
12階東	14,043	38.4
12階西	14,257	39.0
13階東	12,729	34.8
13階西	11,311	30.9
ICU	2,072	5.7
SCU	3,046	8.3
NICU	1,284	3.5
合計	161,155	440.3

■診療科別入院患者数【2019年度】

入院日数：366日

診療科	繰越延患者数	新入院患者数	退院患者数		在院延患者数	取扱患者数	1日平均患者数	平均在院日数
			死亡	退院				
整形	106	1,843	1	1,887	38,823	40,711	111.5	20.8
形成	6	183	1	188	1,918	2,107	5.8	10.3
外科	38	1,106	43	1,100	13,485	14,628	40.1	12.0
乳腺	9	237	8	232	2,807	3,047	8.3	11.8
心外	8	147	0	161	3,794	3,955	10.8	24.6
脳外	28	385	17	359	9,246	9,622	26.4	24.3
内科	46	1,476	62	1,345	23,992	25,399	69.6	16.6
消内	39	2,274	39	2,229	15,077	17,345	47.5	6.6
循環	23	957	13	907	9,065	9,985	27.4	9.7
皮膚	15	176	1	181	2,361	2,543	7.0	13.2
泌尿	9	379	2	384	3,703	4,089	11.2	9.7
産婦	20	1,310	4	1,303	8,325	9,632	26.4	6.4
眼科	6	980	0	971	3,266	4,237	11.6	3.3
耳鼻	6	282	2	281	2,120	2,403	6.6	7.5
小児	17	992	0	994	5,639	6,633	18.2	5.7
脳内	20	261	3	271	4,278	4,552	12.5	16.0
歯科	0	57	0	57	210	267	0.7	3.7
合計	396	13,045	196	12,850	148,109	161,155	441.5	11.4

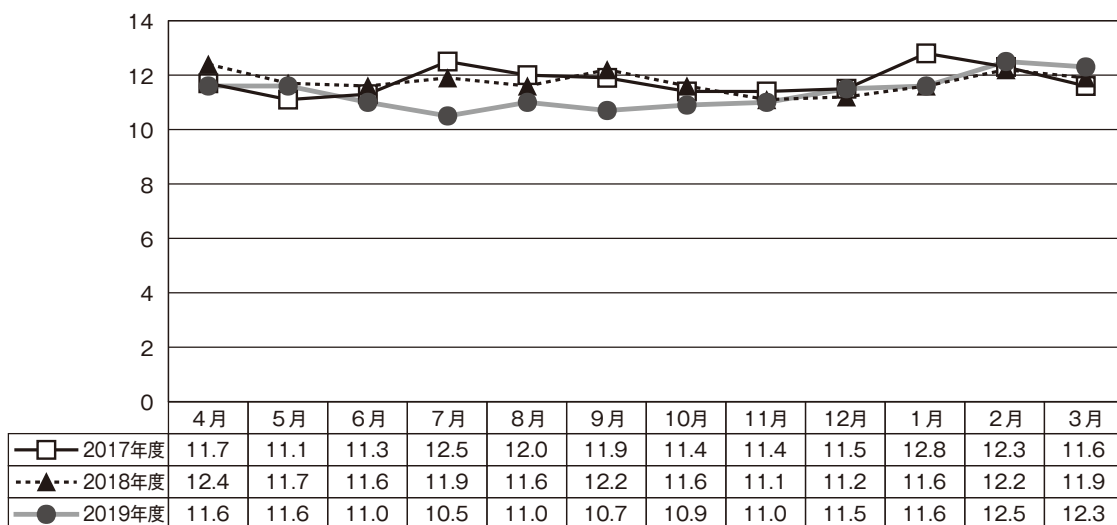
■入院延患者数の推移



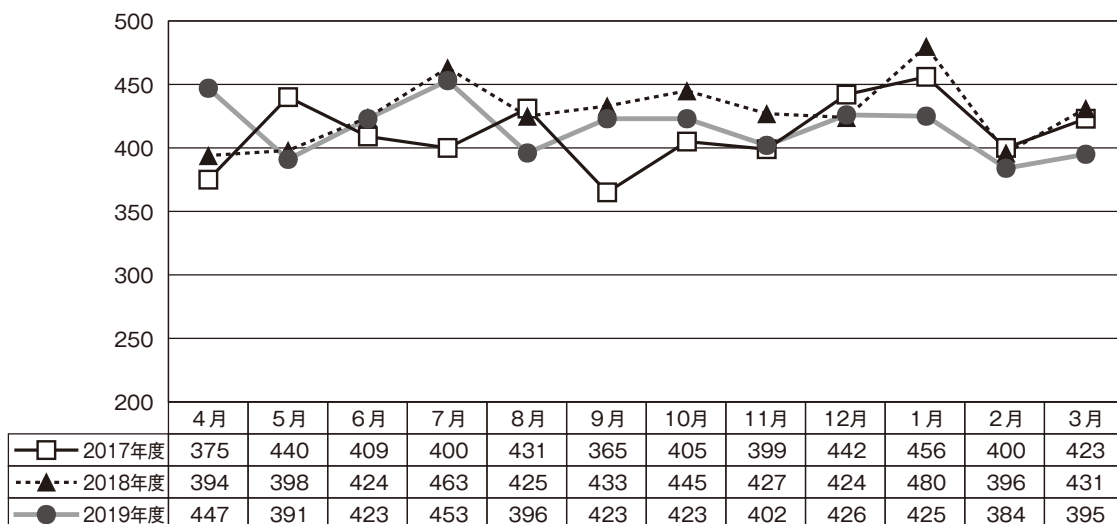
【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	3,574	3,301	3,098	3,704	3,602	3,210	3,268	3,555	3,570	3,040	3,257	3,532	40,711
形 成	141	105	136	226	223	143	193	154	130	136	228	292	2,107
外 科	1,232	1,141	1,152	1,131	1,281	1,209	1,243	1,193	1,297	1,146	1,275	1,328	14,628
乳 腺	233	271	229	231	269	156	284	202	216	336	283	337	3,047
心 外	312	333	322	367	230	269	359	351	357	266	332	457	3,955
脳 外	916	947	877	629	588	532	813	796	670	904	934	1,016	9,622
内 科	2,241	2,305	2,267	2,169	1,956	1,706	1,847	1,981	2,194	2,232	2,338	2,163	25,399
消 内	1,850	1,469	1,511	1,453	1,486	1,271	1,433	1,420	1,341	1,461	1,425	1,225	17,345
循 環	715	721	822	695	674	831	827	723	956	1,016	981	1,024	9,985
皮 膚	274	334	230	195	303	131	132	173	177	142	236	216	2,543
泌 尿	200	238	380	328	416	294	359	322	328	456	420	348	4,089
産 婦	800	843	823	831	829	874	732	780	818	606	770	926	9,632
眼 科	297	327	332	399	318	327	316	327	331	423	434	406	4,237
耳 鼻	244	258	222	189	227	218	208	202	144	140	164	187	2,403
小 児	574	545	580	650	501	632	624	537	505	441	525	519	6,633
脳 内	430	456	204	340	335	310	429	426	486	423	409	304	4,552
歯 科	43	13	28	14	47	5	25	18	17	12	23	22	267
合 計	14,076	13,607	13,213	13,551	13,285	12,118	13,092	13,160	13,537	13,180	14,034	14,302	161,155

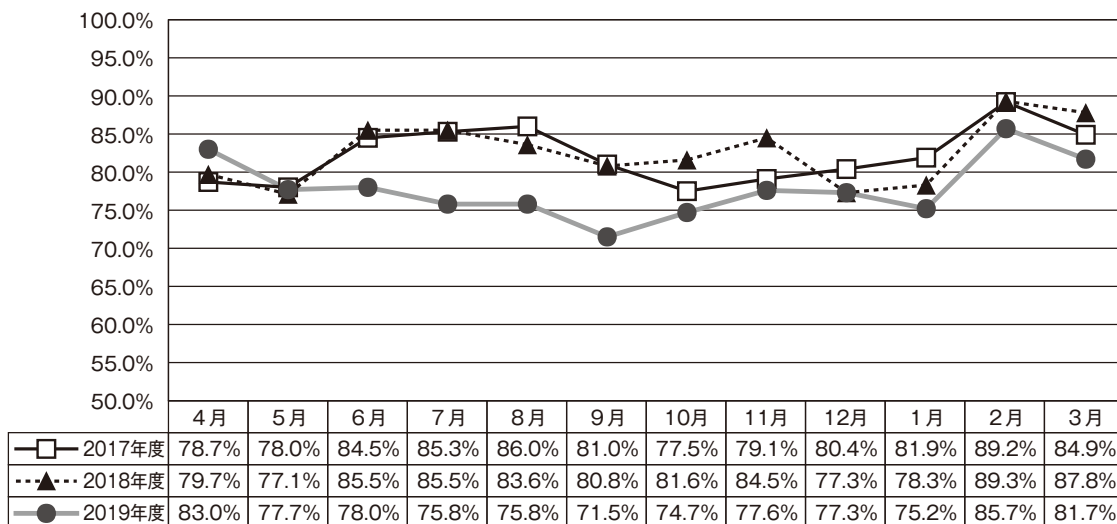
1. 平均在院日数



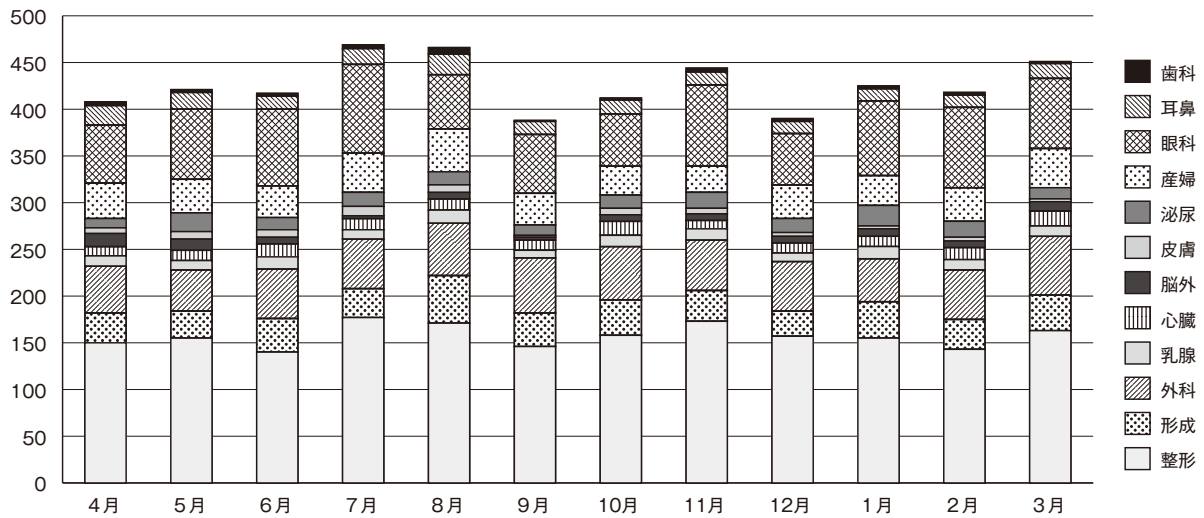
2. 直入患者数の推移



3. 病床稼働率



■診療科別手術件数(手術室実施分)【2019年度】



【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	150	155	140	177	171	146	158	173	157	155	143	163	1,888
形 成	32	29	36	31	51	36	38	33	27	39	32	38	422
外 科	50	44	53	53	56	59	57	54	53	46	53	63	641
乳 腺	11	10	13	10	14	8	12	12	9	13	11	11	134
心 外	10	11	14	12	12	11	15	9	11	11	13	16	145
脳 外	14	12	7	3	7	3	7	7	7	8	7	10	92
皮 膚	6	8	8	10	8	2	7	6	4	3	4	3	69
泌 尿	10	20	13	15	14	11	14	17	15	22	17	12	180
産 婦	38	36	34	42	46	34	31	28	36	32	36	42	435
眼 科	62	75	82	95	58	63	56	87	55	80	86	75	874
耳 鼻	21	18	14	17	22	14	15	14	13	13	13	16	190
歯 科	4	3	3	4	7	1	2	4	3	3	3	2	39
合 計	408	421	417	469	466	388	412	444	390	425	418	451	5,109

【2018年度】

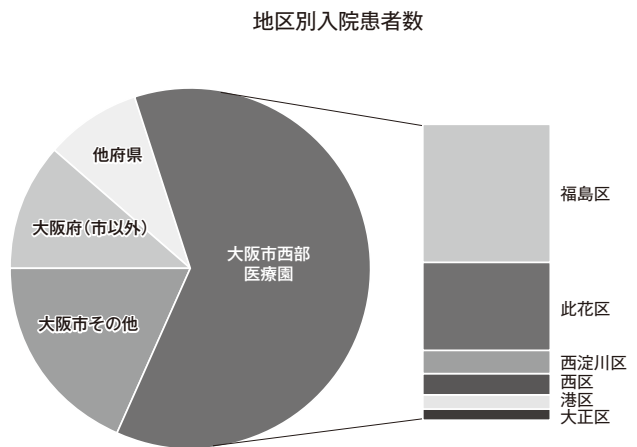
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	134	140	144	149	160	129	157	168	155	162	152	160	1,810
形 成	27	44	45	40	62	36	38	49	26	29	34	38	468
外 科	60	57	69	62	69	47	73	56	53	58	52	53	709
乳 腺	13	13	14	6	9	11	17	10	11	7	14	10	135
心 外	12	12	14	13	15	13	18	20	21	15	14	13	180
脳 外	9	4	9	6	7	6	6	8	8	6	11	9	89
皮 膚	7	6	8	9	7	6	10	9	7	6	6	5	86
泌 尿	10	16	17	16	10	18	19	19	18	14	13	16	186
産 婦	21	26	39	29	36	30	34	36	32	25	34	48	390
眼 科	61	86	83	66	61	63	76	88	72	87	95	81	919
耳 鼻	22	17	18	20	27	15	26	20	22	18	22	22	249
歯 科	2	0	4	3	5	4	2	3	2	4	2	4	35
合 計	378	421	464	419	468	378	476	486	427	431	449	459	5,256

【2017年度】

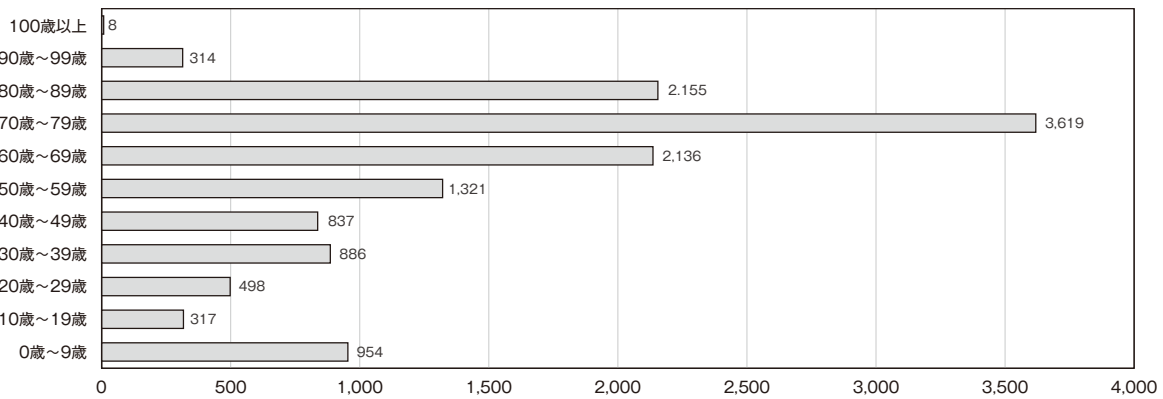
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
整 形	117	145	167	148	163	137	163	140	122	151	132	158	1,743
形 成	38	37	32	36	38	30	37	32	31	34	29	29	403
外 科	64	64	56	53	61	63	60	67	61	52	58	45	704
乳 腺	16	7	16	16	20	12	7	8	17	10	10	15	154
心 外	9	12	11	8	8	6	10	11	7	7	7	6	102
脳 外	10	9	5	7	8	8	7	6	11	8	3	7	89
皮 膚	9	10	7	9	17	12	17	9	13	8	12	18	141
泌 尿	13	15	22	16	18	13	11	18	19	13	16	13	187
産 婦	33	29	33	33	38	31	27	29	26	33	30	26	368
眼 科	99	93	87	77	75	66	86	90	71	76	78	57	955
耳 鼻	10	10	21	22	31	21	14	17	22	20	19	26	233
歯 科	4	0	5	4	4	1	1	1	2	4	1	4	31
合 計	422	431	462	429	481	400	440	428	402	416	395	404	5,110

■診療科別住所地別入院患者数【2019年度】

診療科	大阪市							その他 大阪府	他府県	合計
	福島区	此花区	西淀川区	西区	港区	大正区	その他			
整形外科	205	149	94	78	51	50	490	440	331	1,888
形成外科	50	47	12	3	4	1	39	23	11	190
外科	402	284	59	42	21	25	163	86	60	1,142
乳腺内分泌外科	38	33	11	8	8	12	61	47	25	243
心臓血管外科	31	33	9	9	19	11	38	12	6	168
脳神経外科	108	93	30	13	13	6	67	35	15	380
内科	417	377	64	54	53	40	228	97	66	1,396
消化器内科	634	571	92	62	44	70	372	213	197	2,255
循環器内科	276	196	79	40	48	31	151	79	35	935
皮膚科	60	42	8	4	3	2	42	13	6	180
泌尿器科	132	79	18	15	7	8	63	35	31	388
産婦人科	536	98	29	84	49	18	301	108	86	1,309
眼科	194	184	76	16	10	7	173	199	118	977
耳鼻いんこう科	87	64	9	9	5	7	47	28	26	282
小児科	489	71	19	129	42	10	135	40	55	990
脳神経内科	77	59	19	10	6	5	47	25	17	265
歯科・歯科口腔外科	16	13	5	1	3	1	8	7	3	57
合計	3,752	2,393	633	577	386	304	2,425	1,487	1,088	13,045



■年齢階層別新入院患者数【2019年度】



【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	89	71	92	96	83	101	81	77	59	72	64	69	954
10歳～19歳	19	21	18	43	30	26	34	22	41	23	16	24	317
20歳～29歳	39	41	40	43	45	42	56	41	35	37	33	46	498
30歳～39歳	82	86	66	84	87	76	68	62	50	62	77	86	886
40歳～49歳	76	74	72	76	88	67	72	59	61	60	64	68	837
50歳～59歳	116	110	101	96	105	101	116	112	100	119	115	130	1,321
60歳～69歳	182	178	189	184	167	162	182	196	165	183	182	166	2,136
70歳～79歳	298	294	317	341	292	280	302	306	302	328	263	296	3,619
80歳～89歳	179	172	185	202	152	167	179	184	176	200	187	172	2,155
90歳～99歳	21	25	26	22	28	22	28	21	35	36	28	22	314
100歳以上	1	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	8
合計	1,102	1,073	1,106	1,187	1,078	1,044	1,118	1,082	1,024	1,121	1,029	1,081	13,045

【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	58	56	84	91	67	82	76	75	61	79	54	88	871
10歳～19歳	23	14	19	30	47	20	22	19	27	30	12	30	293
20歳～29歳	30	34	36	42	53	39	54	40	38	31	46	38	481
30歳～39歳	50	60	69	97	93	79	83	78	67	68	69	94	907
40歳～49歳	59	63	61	74	84	66	79	80	67	82	68	68	851
50歳～59歳	97	102	123	98	120	114	95	121	107	131	101	98	1,307
60歳～69歳	199	208	208	195	174	193	218	215	183	211	194	207	2,405
70歳～79歳	284	337	303	324	316	254	347	334	266	331	305	315	3,716
80歳～89歳	183	181	202	202	151	155	166	188	181	207	200	182	2,198
90歳～99歳	28	22	35	34	28	27	27	25	21	25	27	25	324
100歳以上	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	5
合計	1,011	1,077	1,140	1,187	1,134	1,029	1,169	1,175	1,019	1,195	1,076	1,146	13,358

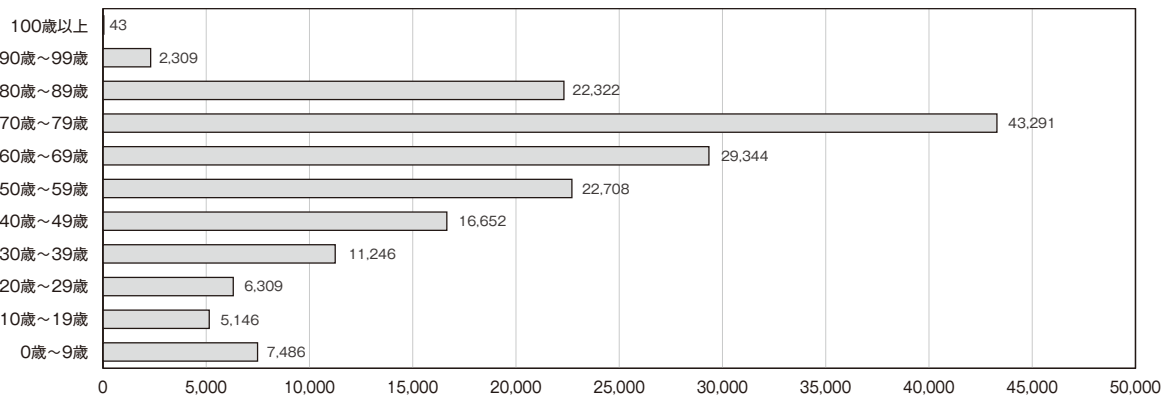
【2017年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	66	71	74	68	92	62	66	70	82	60	54	60	825
10歳～19歳	13	30	16	29	26	23	30	20	32	25	17	42	303
20歳～29歳	34	29	35	43	41	33	38	46	34	39	52	41	465
30歳～39歳	65	87	96	85	100	75	82	74	76	76	81	84	981
40歳～49歳	77	88	79	89	98	70	62	65	68	60	66	75	897
50歳～59歳	98	111	105	95	123	96	110	98	103	110	121	119	1,289
60歳～69歳	198	252	261	246	207	178	241	220	178	226	198	209	2,614
70歳～79歳	286	305	305	280	293	296	299	304	280	330	277	327	3,582
80歳～89歳	165	156	180	159	168	164	158	178	177	186	152	169	2,012
90歳～99歳	27	31	12	17	14	13	27	16	19	32	23	22	253
100歳以上	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	0	5
合計	1,029	1,160	1,163	1,112	1,163	1,010	1,113	1,093	1,049	1,145	1,041	1,148	13,226

【2016年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	20	12	9	15	18	10	18	12	11	18	12	15	170
10歳～19歳	40	31	39	37	56	45	29	36	38	22	31	54	458
20歳～29歳	56	34	45	70	53	44	62	49	56	42	46	57	614
30歳～39歳	105	97	97	94	111	96	102	94	98	92	70	88	1,144
40歳～49歳	71	79	71	89	77	76	66	80	90	69	85	93	946
50歳～59歳	129	100	118	108	123	107	102	120	131	99	127	132	1,396
60歳～69歳	246	195	240	236	217	207	219	209	221	180	197	236	2,603
70歳～79歳	281	239	321	322	300	248	274	295	310	237	305	343	3,475
80歳～89歳	179	146	181	180	138	170	157	154	174	163	171	180	1,993
90歳～99歳	18	29	28	30	33	35	28	24	28	26	27	45	351
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,145	962	1,149	1,181	1,126	1,038	1,057	1,073	1,157	948	1,071	1,243	13,150

■年齢階層別外来実患者数の推移【2019年度】



【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	735	184	682	750	688	668	688	673	687	647	513	571	7,486
10歳～19歳	411	389	387	498	617	352	399	376	485	409	354	469	5,146
20歳～29歳	563	531	519	607	552	508	510	531	498	447	499	544	6,309
30歳～39歳	1,007	979	964	972	941	943	1,005	880	926	893	849	887	11,246
40歳～49歳	1,489	1,410	1,478	1,476	1,420	1,358	1,420	1,333	1,374	1,310	1,258	1,326	16,652
50歳～59歳	1,944	1,882	1,929	1,956	1,888	1,811	2,002	1,883	1,943	1,816	1,755	1,899	22,708
60歳～69歳	2,706	2,513	2,537	2,570	2,352	2,398	2,542	2,380	2,407	2,351	2,289	2,299	29,344
70歳～79歳	3,858	3,633	3,751	3,796	3,460	3,606	3,728	3,540	3,608	3,454	3,414	3,443	43,291
80歳～89歳	2,031	1,896	1,883	1,965	1,766	1,851	1,882	1,858	1,828	1,901	1,728	1,733	22,322
90歳～99歳	198	198	179	197	170	193	200	200	181	209	184	200	2,309
100歳以上	10	4	5	3	4	2	6	4	0	2	0	3	43
合計	14,952	13,619	14,314	14,790	13,858	13,690	14,382	13,658	13,937	13,439	12,843	13,374	166,856

【2018年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	600	707	561	713	758	644	698	615	676	631	586	676	7,865
10歳～19歳	410	349	335	479	611	306	373	347	489	400	336	570	5,005
20歳～29歳	427	458	442	485	570	482	514	504	515	582	538	625	6,142
30歳～39歳	915	976	959	969	965	909	1,075	999	1,017	937	961	990	11,672
40歳～49歳	1,264	1,354	1,332	1,357	1,402	1,317	1,527	1,406	1,452	1,388	1,383	1,452	16,634
50歳～59歳	1,721	1,807	1,840	1,823	1,833	1,705	1,951	1,934	1,828	1,842	1,821	1,956	22,061
60歳～69歳	2,435	2,376	2,453	2,489	2,464	2,249	2,685	2,429	2,408	2,547	2,427	2,603	29,565
70歳～79歳	3,529	3,506	3,679	3,577	3,542	3,303	3,725	3,563	3,511	3,393	3,486	3,625	42,439
80歳～89歳	2,003	1,987	1,999	2,037	1,860	1,840	2,075	1,998	1,877	1,849	1,793	1,879	23,197
90歳～99歳	218	218	227	222	216	202	225	210	190	170	159	196	2,453
100歳以上	3	4	2	3	4	3	5	2	2	3	3	4	38
合計	13,525	13,742	13,829	14,154	14,225	12,960	14,853	14,007	13,965	13,742	13,493	14,576	167,071

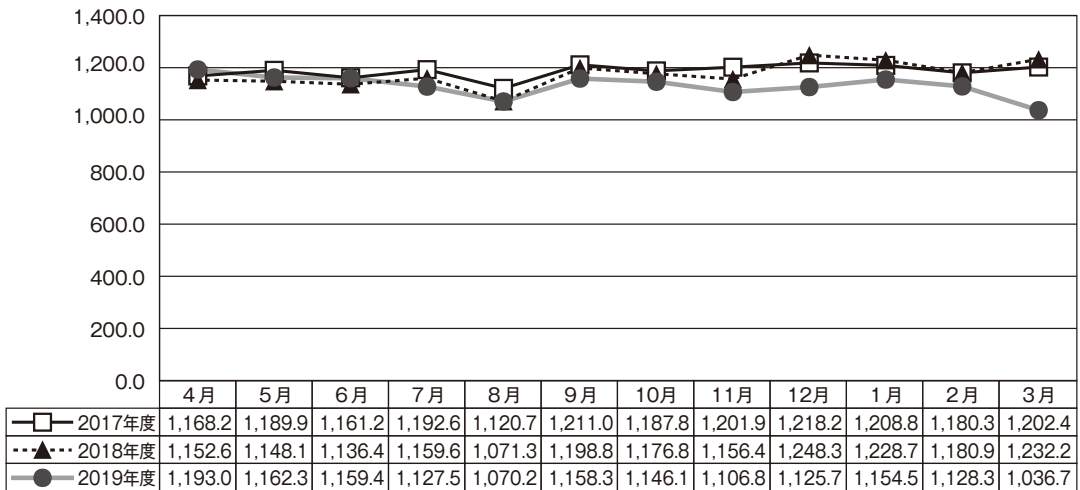
【2017年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	639	640	716	677	741	672	675	722	749	667	562	760	8,220
10歳～19歳	323	340	342	406	565	346	350	363	417	388	314	500	4,654
20歳～29歳	543	533	621	557	642	604	559	523	560	567	547	628	6,884
30歳～39歳	1,075	1,078	1,134	1,079	1,086	1,075	1,127	1,059	1,104	1,084	1,038	1,081	13,020
40歳～49歳	1,413	1,344	1,501	1,425	1,447	1,432	1,467	1,427	1,504	1,419	1,468	1,503	17,350
50歳～59歳	1,798	1,720	1,882	1,778	1,796	1,851	1,836	1,748	1,800	1,783	1,836	1,976	21,804
60歳～69歳	3,174	2,996	3,267	3,098	3,069	3,017	3,085	2,897	2,904	2,910	2,893	3,060	36,370
70歳～79歳	3,355	3,497	3,487	3,400	3,199	3,379	3,579	3,602	3,426	3,349	3,397	3,478	41,148
80歳～89歳	1,759	1,679	1,755	1,722	1,639	1,700	1,764	1,698	1,765	1,705	1,756	1,899	20,841
90歳～99歳	130	125	177	135	145	112	131	119	140	149	138	169	1,670
100歳以上	2	1	2	0	1	1	1	1	1	1	1	2	14
合計	14,211	13,953	14,884	14,277	14,330	14,189	14,574	14,159	14,370	14,022	13,950	15,056	171,975

【2016年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～9歳	634	645	729	687	750	678	670	721	762	665	559	765	8,265
10歳～19歳	340	335	359	412	582	341	367	358	434	401	331	520	4,780
20歳～29歳	556	531	616	555	637	602	557	536	555	565	560	626	6,896
30歳～39歳	1,081	1,084	1,140	1,074	1,097	1,084	1,140	1,075	1,110	1,079	1,049	1,094	13,107
40歳～49歳	1,428	1,353	1,503	1,438	1,449	1,445	1,492	1,436	1,516	1,438	1,463	1,516	17,477
50歳～59歳	1,811	1,742	1,891	1,785	1,818	1,874	1,847	1,760	1,819	1,794	1,846	1,971	21,958
60歳～69歳	3,185	3,008	3,280	3,112	2,984	3,033	3,102	2,915	2,923	2,930	2,914	3,082	36,468
70歳～79歳	3,377	3,303	3,482	3,440	3,255	3,400	3,482	3,407	3,278	3,218	3,337	3,572	40,551
80歳～89歳	1,661	1,678	1,764	1,618	1,636	1,740	1,758	1,742	1,756	1,695	1,661	1,913	20,622
90歳～99歳	137	125	169	142	131	131	141	123	148	145	128	174	1,694
100歳以上	0	2	1	2	1	1	1	1	0	1	1	2	13
合計	14,210	13,806	14,934	14,265	14,340	14,329	14,557	14,074	14,301	13,931	13,849	15,235	171,831

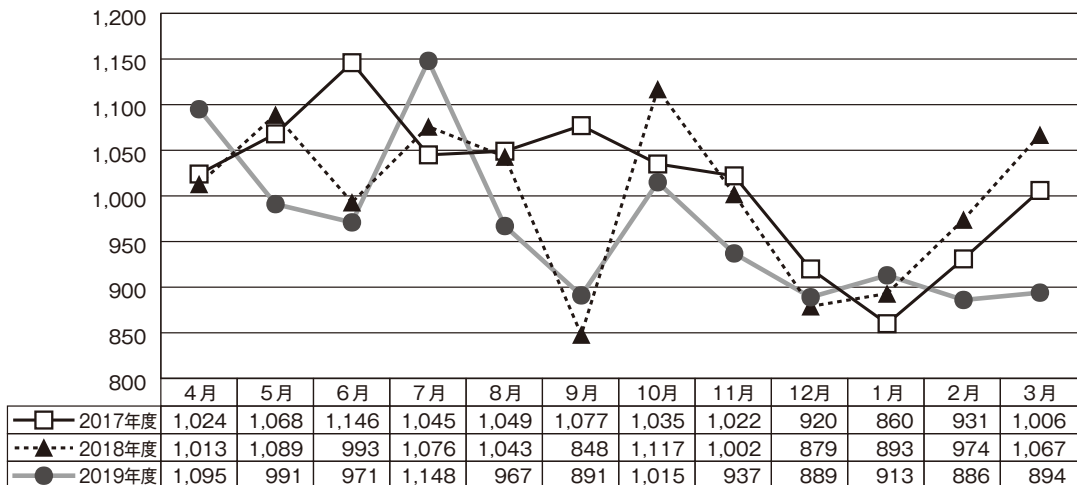
■ 1日平均外来患者数の推移



【2019年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来日数	21	20	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	242
整形	146.3	148.1	154.6	147.9	135.0	146.9	143.9	140.4	141.4	147.7	142.3	133.8	144.0
形成	12.4	14.8	13.0	15.5	17.3	17.4	16.6	14.2	14.7	15.8	15.5	16.0	15.3
リハ	25.1	26.7	24.5	20.9	23.4	25.3	24.5	24.1	25.3	25.2	23.0	20.5	24.0
外科	54.0	48.7	48.9	49.5	46.1	52.3	52.2	50.2	49.1	53.7	52.4	47.2	50.4
乳腺	47.6	46.0	45.4	46.2	42.6	45.9	50.9	45.2	47.5	47.1	44.7	42.5	46.0
心外	6.4	6.0	5.0	5.3	4.9	6.5	6.2	6.2	6.3	5.1	6.3	5.4	5.8
脳外	20.7	20.5	19.7	18.9	17.2	22.2	20.0	22.7	20.0	19.8	19.6	20.0	20.1
内科	166.2	169.1	170.4	160.1	163.4	163.9	170.0	160.8	165.9	176.5	171.7	146.5	165.4
消内	145.3	136.6	149.7	137.2	123.2	146.2	143.4	134.0	136.5	139.5	142.2	125.3	138.3
循環	92.9	84.7	80.4	83.7	75.2	89.6	89.3	85.5	86.9	85.1	80.1	77.1	84.2
皮膚	57.5	59.9	58.1	56.8	60.0	48.9	49.1	46.9	49.0	50.3	46.9	43.7	52.3
泌尿	62.0	47.2	45.9	42.9	44.1	51.4	46.1	46.5	47.6	45.2	44.3	46.2	47.5
産婦	90.0	91.2	91.6	89.7	83.2	92.4	91.3	85.3	88.5	90.7	87.6	86.6	89.0
眼科	90.9	93.3	88.0	84.0	76.8	89.3	83.0	86.3	85.6	88.6	87.3	77.5	85.9
耳鼻	36.5	35.0	32.4	29.9	26.8	29.9	27.4	30.2	31.3	30.3	27.8	25.3	30.2
小児	42.4	41.3	38.3	41.2	44.2	39.8	39.5	37.7	43.1	40.6	38.3	35.9	40.2
神経	37.1	36.1	35.4	35.8	36.9	37.9	36.0	36.9	36.4	37.7	36.4	34.0	36.4
脳内	23.7	23.0	22.3	24.8	19.0	22.2	21.4	22.0	21.1	22.9	22.1	19.6	22.0
放診	4.5	3.6	4.3	3.8	3.4	3.6	3.2	3.2	3.2	3.0	3.8	2.8	3.5
放治	11.3	10.0	11.8	13.5	8.0	6.6	12.0	10.2	8.6	11.1	13.2	11.0	10.6
歯科	20.2	20.8	20.0	19.9	19.3	20.1	19.8	19.0	18.2	18.5	22.7	20.0	19.9
合計	1193.0	1162.3	1159.4	1127.5	1070.2	1158.3	1146.1	1106.8	1125.7	1154.5	1128.3	1036.7	1130.2

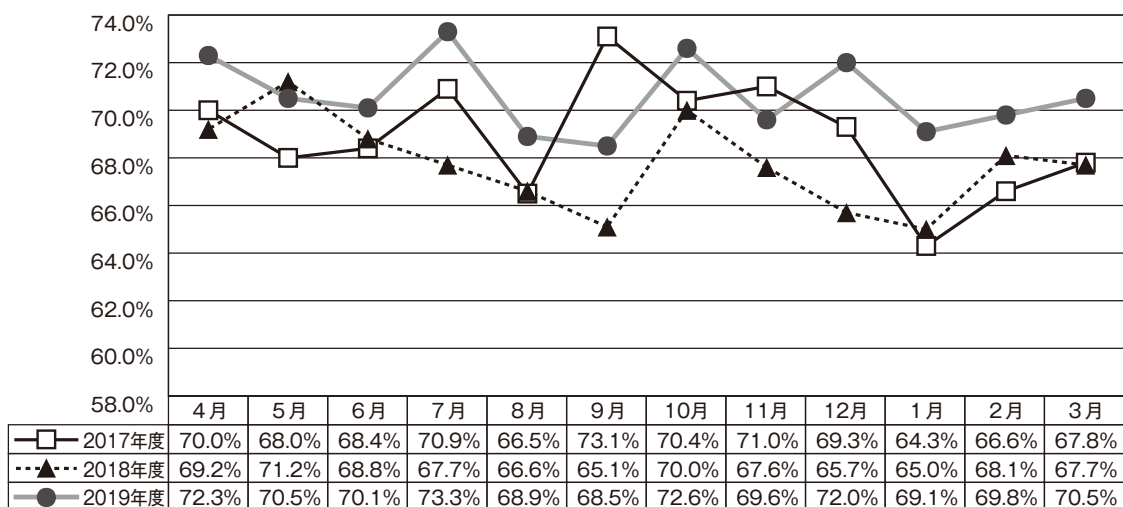
■ 紹介患者数の推移



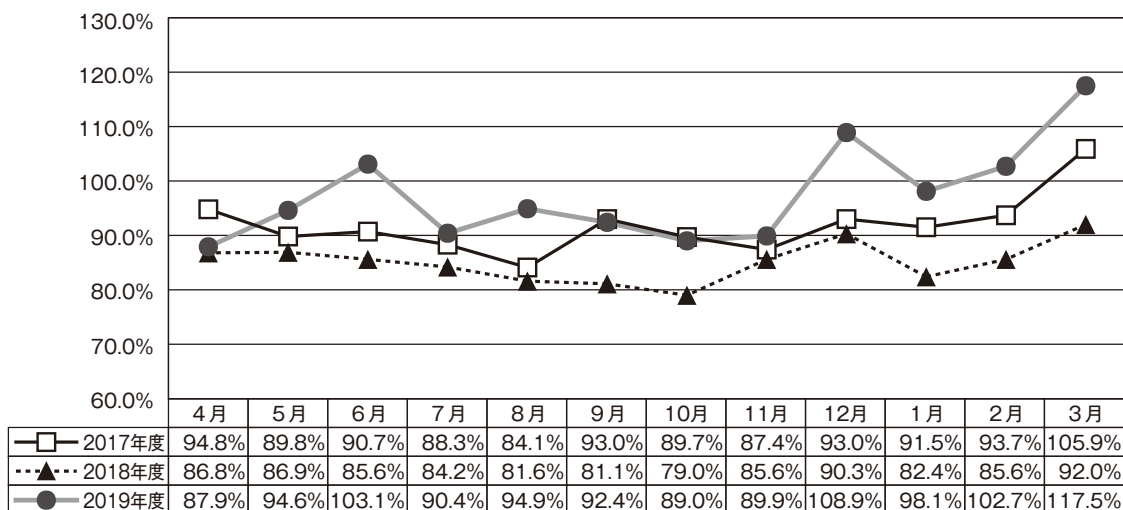
■地域医療支援病院 紹介率と逆紹介率の推移

	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	紹介率	70.0%	68.0%	68.4%	70.9%	66.5%	73.1%	70.4%	71.0%	69.3%	64.3%	66.6%	67.8%	68.9%
	逆紹介率	94.8%	89.8%	90.7%	88.3%	84.1%	93.0%	89.7%	87.4%	93.0%	91.5%	93.7%	105.9%	91.8%
2018年度	紹介率	69.2%	71.2%	68.8%	67.7%	66.6%	65.1%	70.0%	67.6%	65.7%	65.0%	68.1%	67.7%	67.8%
	逆紹介率	86.8%	86.9%	85.6%	84.2%	81.6%	81.1%	79.0%	85.6%	90.3%	82.4%	85.6%	92.0%	85.1%
2019年度	紹介率	72.3%	70.5%	70.1%	73.3%	68.9%	68.5%	72.6%	69.6%	72.0%	69.1%	69.8%	70.5%	70.7%
	逆紹介率	87.9%	94.6%	103.1%	90.4%	94.9%	92.4%	89.0%	89.9%	108.9%	98.1%	102.7%	117.5%	97.0%

地域医療支援病院紹介率の推移



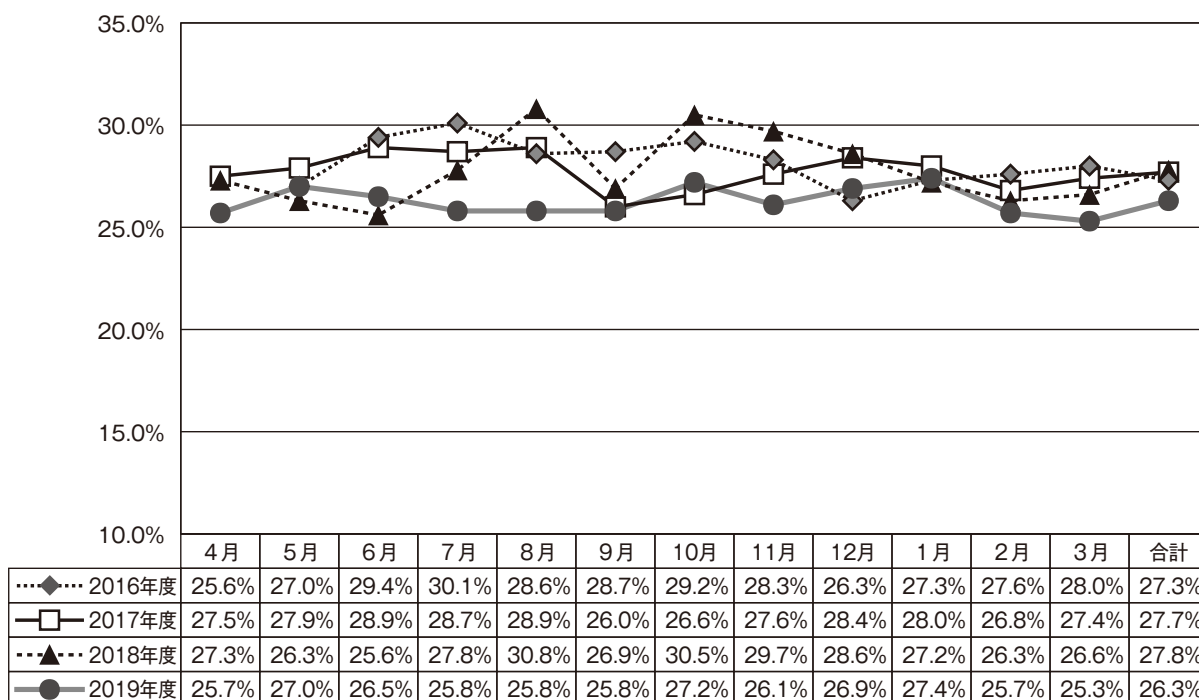
地域医療支援病院 逆紹介率の推移



紹介率 (地域医療支援病院) (65%以上) = $\frac{\text{紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

逆紹介率 (40%以上) = $\frac{\text{逆紹介患者}}{\text{初診患者} - [\text{救急搬送患者(初診)} + \text{休日夜間救急外来患者(初診)}]}$

■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移



※ 7対1入院基本料において、 2016年4月～2018年3月までは25%以上必要
2018年4月より、評価項目の変更あり、重症度、医療・看護必要度Ⅱ(25%以上必要)で表記

【2019年度】

月 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8南	24.2%	25.3%	28.0%	26.6%	27.2%	21.9%	28.2%	23.3%	20.9%	25.9%	22.2%	20.9%	24.5%
9東	23.4%	30.5%	38.2%	34.3%	35.4%	33.1%	39.1%	31.4%	37.2%	37.7%	37.8%	26.3%	33.6%
9西	42.7%	43.6%	33.4%	38.7%	37.0%	39.1%	34.7%	37.2%	42.1%	36.9%	34.4%	40.4%	38.3%
10東	31.3%	22.6%	20.3%	23.4%	25.9%	18.6%	25.8%	26.8%	23.3%	25.3%	20.5%	20.9%	23.8%
10西	33.8%	44.1%	32.2%	34.1%	38.9%	33.4%	33.7%	28.9%	34.5%	32.4%	28.5%	36.6%	34.2%
11東	25.7%	34.3%	33.4%	36.4%	28.6%	31.1%	33.0%	33.7%	35.7%	31.0%	24.0%	25.5%	31.0%
11西	16.5%	19.1%	20.6%	16.5%	21.0%	18.2%	22.8%	20.3%	16.2%	16.7%	24.9%	19.0%	19.3%
12東	19.3%	16.6%	19.8%	18.2%	18.1%	14.8%	19.9%	18.8%	18.0%	19.8%	17.7%	15.4%	18.0%
12西	13.2%	14.7%	17.8%	17.6%	16.0%	16.1%	15.2%	18.5%	15.6%	22.1%	15.4%	18.4%	16.7%
13東	25.8%	28.9%	29.0%	21.3%	19.3%	30.9%	23.6%	26.3%	22.5%	23.3%	27.1%	28.7%	25.6%
13西	25.1%	17.0%	18.1%	20.0%	21.6%	28.1%	21.6%	20.2%	26.4%	27.6%	31.3%	23.9%	23.0%
計	25.7%	27.0%	26.5%	25.8%	25.8%	25.8%	27.2%	26.1%	26.9%	27.4%	25.7%	25.3%	26.3%



病 歷 統 計



■退院患者数及び平均在院日数

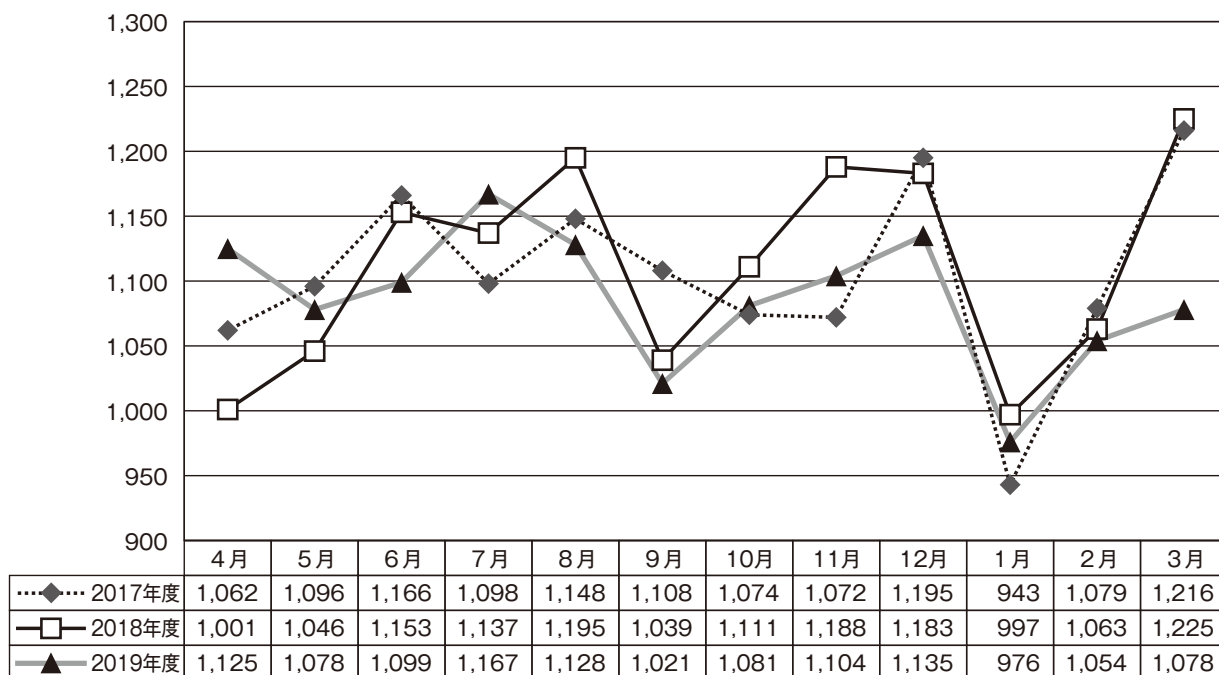
【2019年度】

大分類表		退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
1	感染症及び寄生虫症	A00-B99	192	202	394	1,859	1,790	3,649	9.68	8.86	9.26
2	新生物	C00-D48	1,253	1,257	2,510	17,200	15,404	32,604	13.73	12.25	12.99
3	血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	22	43	65	268	419	687	12.18	9.74	10.57
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-90	154	173	327	2,012	2,334	4,346	13.06	13.49	13.29
5	精神および行動の障害	F00-90	4	6	10	64	87	151	16.00	14.50	15.10
6	神経系の疾患	G00-99	138	130	268	1,167	1,308	2,475	8.46	10.06	9.24
7	眼および付属器の疾患	H00-59	412	498	910	1,845	1,769	3,614	4.48	3.55	3.97
8	耳および乳様突起の疾患	H60-95	18	33	51	98	207	305	5.44	6.27	5.98
9	循環器系の疾患	I00-99	872	525	1,397	13,657	8,148	21,805	15.66	15.52	15.61
10	呼吸器系の疾患	J00-99	589	393	982	8,497	4,402	12,899	14.43	11.20	13.14
11	消化器系の疾患	K00-93	1,127	906	2,033	7,989	6,130	14,119	7.09	6.77	6.94
12	皮膚および皮下組織の疾患	L00-99	83	69	152	1,281	1,013	2,294	15.43	14.68	15.09
13	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-99	630	783	1,413	12,259	19,063	31,322	19.46	24.35	22.17
14	尿路器系の疾患	N00-99	226	386	612	3,138	3,923	7,061	13.88	10.16	11.54
15	妊娠、分娩および産じょく(褥)	O00-99	0	749	749	0	5,693	5,693	0	7.60	7.60
16	周産期に発生した病態	P00-96	133	133	266	1,097	1,115	2,212	8.25	8.38	8.32
17	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-99	43	42	85	915	200	1,115	21.28	4.76	13.12
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-99	56	54	110	453	437	890	8.09	8.09	8.09
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	338	366	704	5,929	9,318	15,247	17.54	25.46	21.66
20	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	Z00-99	3	4	7	26	68	94	8.67	17.00	13.43
21	特殊目的コード	U00-U89	1	0	1	7	0	7	7.00	0	7.00
合 計			6,294	6,752	13,046	79,761	82,828	162,589	12.67	12.27	12.46

【2019年度】

診療科	退院患者数(人)			延在院日数(日)			退院患者平均在院日数(日)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
整形外科	841	1,047	1,888	15,365	25,736	41,101	18.27	24.58	21.77
形成外科	108	81	189	1,438	752	2,190	13.31	9.28	11.59
外科	654	489	1,143	8,988	6,168	15,156	13.74	12.61	13.26
乳腺内分泌外科	8	232	240	116	2,926	3,042	14.50	12.61	12.68
心臓血管外科	108	53	161	3,059	1,152	4,211	28.32	21.74	26.16
脳神経外科	218	158	376	5,228	4,102	9,330	23.98	25.96	24.81
内科	774	633	1,407	14,958	10,589	25,547	19.33	16.73	18.16
消化器内科	1,302	966	2,268	10,375	7,153	17,528	7.97	7.40	7.73
循環器内科	569	351	920	5,499	3,997	9,496	9.66	11.39	10.32
皮膚科	97	85	182	1,452	1,138	2,590	14.97	13.39	14.23
泌尿器科	291	95	386	3,081	1,131	4,212	10.59	11.91	10.91
産婦人科	0	1,307	1,307	0	9,574	9,574	0	7.33	7.33
眼科	451	520	971	2,141	1,979	4,120	4.75	3.81	4.24
耳鼻いんこう科	157	126	283	1,354	1,089	2,443	8.62	8.64	8.63
小児科	540	454	994	4,060	3,098	7,158	7.52	6.82	7.20
脳神経内科	150	124	274	2,526	2,098	4,624	16.84	16.92	16.88
歯科・歯科口腔外科	26	31	57	121	146	267	4.65	4.71	4.68
合 計	6,294	6,752	13,046	79,761	82,828	162,589	12.67	12.27	12.46

■退院患者数の推移



■診療科別 退院患者数・手術件数・合併症数 【2019年度】

診療科	退院患者数	手術件数(※)	ESD件数	カテ治療件数	合併症		合併症内訳					
					合併症総数	発生率	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	機械的合併症	その他
整形外科	1,888	1,827			32	1.8%	12	2	15		2	1
形成外科	189	195			2	1.0%		1	1			
外科	1,143	650			6	0.9%	1	1	1	1		2
乳腺内分泌外科	240	130			4	3.1%	1	2	1			
心臓血管外科	161	163		7	0	0.0%						
脳神経外科	376	92		34	3	2.3%	2		1			
内科	1,407											
消化器内科	2,268		270	3	10	3.7%		7		2		1
循環器内科	920			373	2	0.5%				1		1
皮膚科	182	24			1	4.2%			1			
泌尿器科	386	184			2	1.1%		1		1		
産婦人科	1,307	442			10	2.3%	2	1	1	6		
眼科	971	841			1	0.1%						1
耳鼻いんこう科	283	187			1	0.5%		1				
小児科	994											
脳神経内科	274			5	1	20.0%				1		
歯科・ 歯科口腔外科	57	38			0	0.0%						
合計	13,046	4,773	270	422	75	1.4%	18	16	21	12	2	6

※手術件数は手術室で行った手術の件数

■悪性新生物部位別 術後合併症件数 【2019年度】

	感染	出血	縫合不全	穿刺・裂傷	その他	計
大腸(含直腸)		1	1		1	3
乳房	1	2				3
子宮/卵巣			1	1		2
膀胱		1		1		2

※ESDは含まない

■死亡原因別死亡数 【2019年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
診療科別死亡数	1	1	43	8		17	62	39	13	1	2	4		2		3		196
麻酔による死亡数																		0
術後1ヶ月以内の死亡数		1	3			2			2			2						10
産婦出生による死亡数																		0
新生児(生後28日以内) 死亡数																		0
(再掲)																		(0)
入院48時間以内死亡数			5	1		1	6	2	3									18

注)新生児死亡数欄で院外出生の死亡数は()をもって再掲とする。

■麻酔件数・手術件数・分娩件数 【2019年度】

	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
麻酔件数	1,827	186	639	130	163	91				24	180	440	841	186			38	4,745
(全身麻酔件数)再掲	(1,276)	(80)	(563)	(122)	(135)	(48)					(80)	(200)	(7)	(179)			(36)	(2,726)
手術件数	1,827	195	650	130	163	92				24	184	442	841	187			38	4,773
分娩件数												554						554

■新生児数 【2019年度】

549(3)	人
--------	---

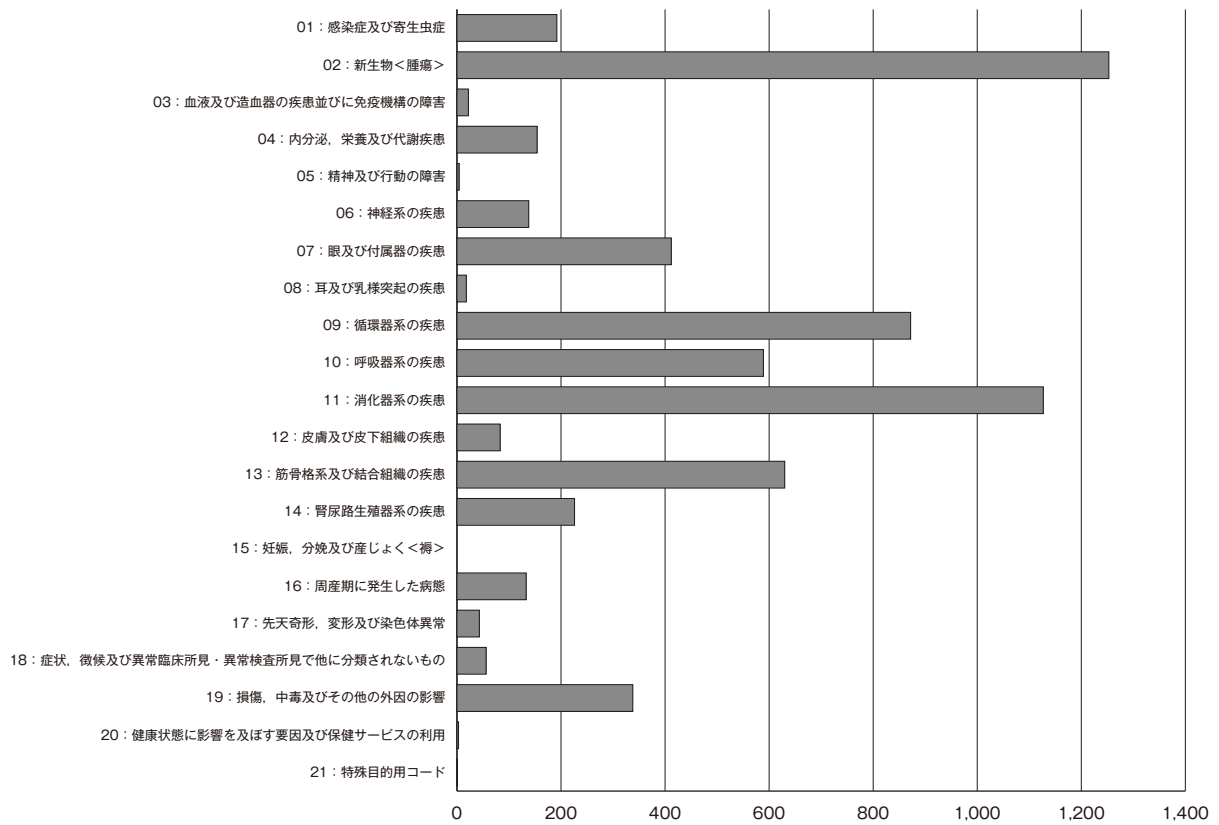
注)新生児数欄で院外出生の数は()をもって再掲とする。

■退院患者診療科別転帰統計 【2019年度】

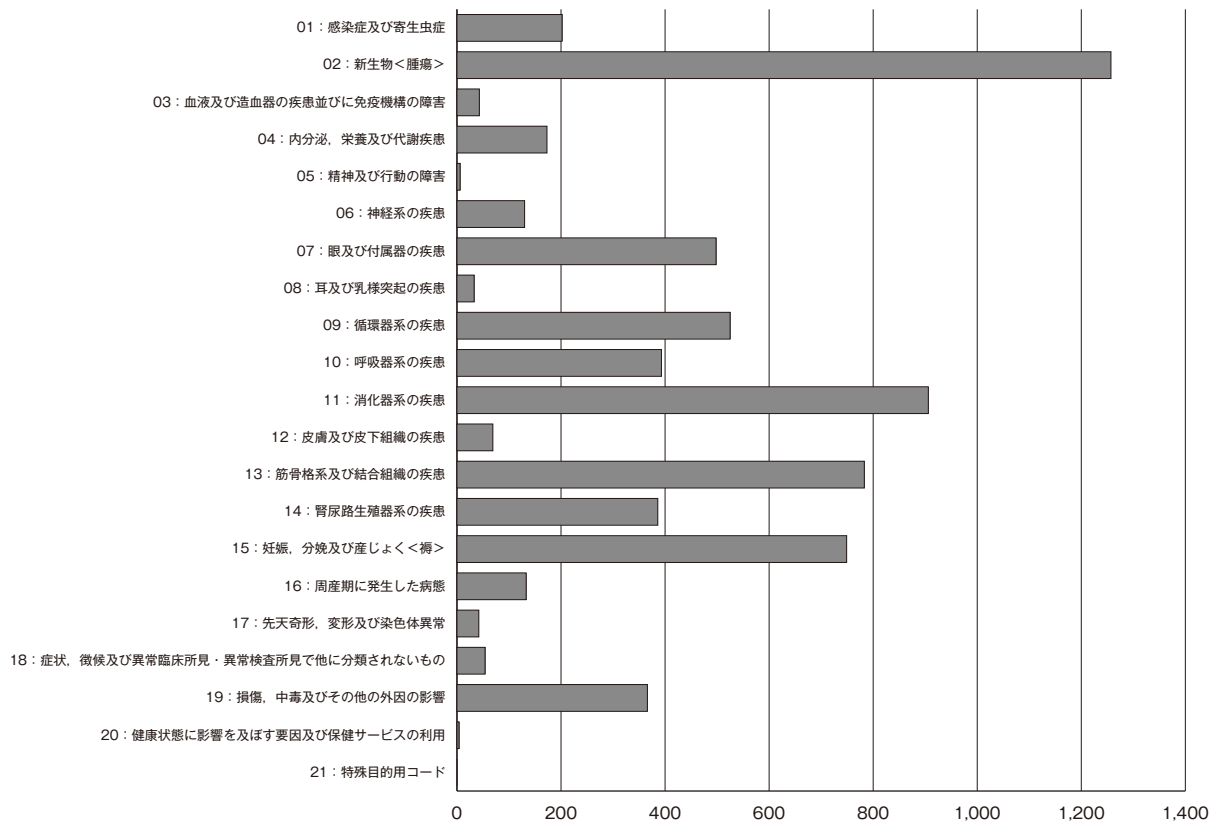
	整形外科	形成外科	外科	乳腺内分泌外科	心臓血管外科	脳神経外科	内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	小児科	脳神経内科	歯科・ 歯科口腔外科	合計
治癒	5		1				2	6			4				1			19
軽快	1,708	181	1,029	209	112	228	1,046	1,938	702	164	297	680	920	275	919	210	56	10,674
不変	7	1	19	9	1	1	34	18	10		3	12	1	2	7	6		131
増悪			1										1					2
死亡	1	1	43	8		17	62	39	13	1	2	4		2		3		196
(剖検)			(3)			(1)	(1)	(2)	(2)									(9)
転院	152	5	26	5	15	96	76	22	23	10	11	22	4	1	13	38	1	520
検了	15		25	9	33	34	186	242	171	6	68	37	45	3	54	16		944
自己退院							1	3	1	1	1	2				1		10
分娩												550						550
合計	1,888	189	1,143	240	161	376	1,407	2,268	920	182	386	1,307	971	283	994	274	57	13,046

注)死亡欄で剖検数は()をもって再掲とする。

■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(男) 【2019年度】



■疾病(大分類)別・性別・退院患者数(女) 【2019年度】



■疾病別・年齢階層別・退院患者数(男) 【2019年度】

2019年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											192	1,859
A00-A09	腸管感染症	10	40	7	4	4	6	3	4	6	9	93	563
A15-A19	結核										2	2	37
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患		2			1	1	3	4	6	14	31	791
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症						1					1	3
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症		2									2	6
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱				1							1	7
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	3	6	2		3		4	3	7	4	32	258
B15-B19	ウイルス性肝炎						3	5	3	4	1	16	94
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	5	7		1							14	100
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんぐ虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											1,124	16,451
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>							1		3	2	6	74
C15	食道の悪性新生物							8	10	22	8	48	972
C16	胃の悪性新生物						2	12	32	79	45	170	2,437
C17	小腸の悪性新生物								2	1	1	4	63
C18	結腸の悪性新生物					1	3	29	28	44	20	125	1,180
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					1	4	7	24	29	6	71	829
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物								1	1		2	10
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						3		12	43	20	78	1,211
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							1	7	19	10	37	715
C25	膵の悪性新生物					1	2	15	11	14		43	876
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						6	3	55	132	55	251	4,919
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									2	3	5	41
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>								4		1	5	76
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>									1		1	15
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					1	5	20	39	17		82	394
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>							8	17	43	24	92	1,355
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>							2				2	135
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>						3			2		5	84
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>					1		9	6	16	6	38	659
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>						4	4	18	24	5	55	390
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>									2	2	4	16
II -2	新生物(腫瘍)良性											129	749
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			3	2	4	7	18	32	37	11	114	649
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1		1	2		2	4	3	2	15	100
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											22	268
D50-D53	栄養性貧血								1		2	3	17
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血						1				3	4	42
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		3			1	1			1	1	7	121
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患									4		4	39
D80-D89	免疫機構の障害							2		1	1	4	49
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											154	2,012
E00-E07	甲状腺障害							1	1			2	20
E10-E14	糖尿病			1	1	3	4	16	18	34	12	89	1,364
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害									3	2	5	35
E20-E35	その他の内分泌腺障害		6	6		1	1	5	4	5	4	32	269
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2019年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>		1	2								3	44
E70-E90	代謝障害		4	2					2	10	5	23	280
V 精神及び行動の障害												4	64
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									1	1	2	60
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		1	1								2	4
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												138	1,167
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		1	2		7		2				12	111
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					3		2	1			6	28
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動								1	4	2	7	71
G30-G32	神経系のその他の変性疾患								1	1		2	11
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害		2	6	5		2	8	10	13	7	53	335
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			1		1	6	8	9	14	4	43	174
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害					1		1	1	1		4	84
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患							1	3	1	1	6	195
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群								1			1	17
G90-G99	神経系のその他の障害								1	3		4	141
VII 眼及び付属器の疾患												412	1,845
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害		1						3	11	4	19	88
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害						1	1	1	1		4	51
H25-H28	水晶体の障害				2	2	10	28	51	114	54	261	634
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			3	2	3	2	17	6	3	3	39	443
H40-H42	緑内障					3	6	12	17	18	5	61	407
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					1	2	5	2	8	3	21	169
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害							1				1	16
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害				1	2	1				1	1	6
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												18	98
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		1	9								10	38
H80-H83	内耳疾患							1	1	1	1	4	16
H90-H95	耳のその他の障害				1			1		2		4	44
IX 循環器系の疾患												872	13,657
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								3	6	2	11	413
I10-I15	高血圧性疾患								1	1		2	15
I20-I25	虚血性心疾患						4	25	44	78	48	199	1,745
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						1	2		1	1	5	53
I30-I52	その他の型の心疾患					4	7	25	60	101	88	285	3,807
I60-I69	脳血管疾患				1	1	16	29	46	75	58	226	5,237
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					2	2	5	18	56	29	112	2,065
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの						5	2	11	12		30	311
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害								1	1		2	11
X 呼吸器系の疾患												589	8,497
J00-J06	急性上気道感染症	6	6	2	2		2	1	1	3		23	119
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	13	57	6	1	5	1	9	30	49	68	239	3,100
J20-J22	その他の急性下気道感染症	34	30	1		1					4	70	436
J30-J39	上気道のその他の疾患		10	6	13	8	16	7	6	12	2	80	690
J40-J47	慢性下気道疾患	4	21	1	1				1	6	5	39	330
J60-J70	外的因子による肺疾患			1				1	3	30	30	65	1,976
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患					1		3	2	12	7	25	594
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態							1		1	2	4	207
J90-J94	胸膜のその他の疾患			2		4		2	2	8	2	20	465
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	1			1			4	4	7	7	24	580
XI 消化器系の疾患												1,127	7,989
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		3			1	8	3	2	3	2	22	95
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患						2	8	12	9	8	39	554

2019年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		1	6	4	10	6	4	1	3	3	38	244
K40-K46	ヘルニア				1		3	5	8	23	15	55	365
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			1	2	2		2	3	4	1	15	111
K55	腸の血行障害						1		4	4	4	13	172
K56	腸閉塞	1	1			2	1	6	5	20	4	40	437
K57	腸の憩室性疾患				1		2	7	4	12	9	35	567
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患		1					1	4	6	4	16	61
K63	結腸のその他の疾患					5	20	88	142	224	100	579	1,548
K64	痔核							2		3	1	6	38
K65-K67	腹膜の疾患						2			5	3	10	196
K70-K77	肝疾患				1		7	5	3	17	7	40	661
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害			1	3	2	14	21	39	52	43	175	2,427
K90-K93	消化器系のその他の疾患				2			3	6	18	15	44	513
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												83	1,281
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	1	3	2	3	7	6	7	5	5	9	48	657
L10-L14	水疱症									1	3	4	133
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				1				1			2	23
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		1						1		2	4	58
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									1	1	2	30
L60-L75	皮膚付属器の障害			2	1	2		2	2	2		11	59
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						1	3	2	3	3	12	321
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												630	12,259
M00-M03	感染性関節障害						2		4	4	1	11	436
M05-M14	炎症性多発性関節障害		1		1			1	1	7	4	15	213
M15-M19	関節症			1	1	1	11	26	32	16	9	97	2,365
M20-M25	その他の関節障害		2	27	15	6	8	7	4	4		73	908
M30-M36	全身性結合組織障害	4	8				1		1	4	1	19	670
M40-M43	変形性脊柱障害					1		6	16	19	3	45	1,019
M45-M49	脊椎障害			1		4	3	27	42	87	23	187	3,796
M50-M54	その他の脊柱障害				5	3	8	9	8	5	2	40	750
M60-M63	筋障害						1			1	2	4	42
M65-M68	滑膜及び腱の障害		1	4	3	2	1	7	14	5	1	38	277
M70-M79	その他の軟部組織障害				1		3	13	13	6	2	38	765
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			1		1	1	2	2	1	1	9	106
M86-M90	その他の骨障害				1	2	4	6	5	3	1	22	582
M91-M94	軟骨障害			24								24	172
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害			3				1		1	3	8	158
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												226	3,138
N00-N08	糸球体疾患		1	4	2	2	4	5	5	5	1	29	378
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	5			2	3	2	7	5	22	14	60	793
N17-N19	腎不全					4	2	11	7	21	12	57	1,102
N20-N23	尿路結石症						4	4	6	6	3	23	145
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									2	1	3	30
N30-N39	尿路系のその他の障害	2			1	2		1	7	7	10	30	397
N40-N51	男性生殖器の疾患			2					2	15	4	23	268
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害										1	1	25
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												133	1,097
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	6										6	42
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	20										20	286
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	44										44	443

2019年度 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	2	1									3	9
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	40										40	169
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	15										15	111
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	5										5	37
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												43	915
Q00-Q07	神経系の先天奇形	3										3	6
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形		2		1	1						4	15
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		2	3	2		1	2		6	1	17	818
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形	1								1		2	10
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		9	3								12	45
Q80-Q89	その他の先天奇形		3			1	1					5	21
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												56	453
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候					1			1	1	5	8	160
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		3	1			2		1		1	8	24
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候									1		1	14
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候										1	1	9
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	3	21	4				2	2		5	37	241
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの			1								1	5
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												338	5,929
S00-S09	頭部損傷		2	5	1	2	3	2	6	6	16	43	836
S10-S19	頸部損傷					1						1	8
S20-S29	胸部<郭>損傷									1		1	43
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷			1	1			1	3	1	7	14	433
S40-S49	肩及び上腕の損傷	1	5	3	1	1	6	13	17	6	2	55	1,076
S50-S59	肘及び前腕の損傷		3	6	2	3	5	2	2	3	3	29	213
S60-S69	手首及び手の損傷		1	6	6	3	3	2	1	1	1	24	91
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷		1	1				1	2	4	8	17	544
S80-S89	膝及び下腿の損傷		1	12	12	11	15	9	6	2	2	70	1,711
S90-S99	足首及び足の損傷			4				1	2			7	123
T00-T07	多部位の損傷										1	1	72
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用				1		2	1				4	16
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒											1	21
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用	1										1	2
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	4	4	3				1				12	33
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	1	1				5	10	11	14	15	57	704
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症			1								1	3
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												3	26
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者									1		1	14
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							1	1			2	12
XXII 特殊目的コード												1	7
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類										1	1	7
合計		236	292	186	120	152	311	703	1,143	1,993	1,158	6,294	79,761

■疾病別・年齢階層別・退院患者数(女)【2019年度】

2019年度 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数	
I	感染症及び寄生虫症												202	1,790
A00-A09	腸管感染症	4	28	8	8	4	3	1	1	9	12	78	477	
A15-A19	結核								1	2	3	6	111	
A20-A28	人畜共通細菌性疾患													
A30-A49	その他の細菌性疾患		2	2	1	2			1	10	10	28	485	
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症			2	4	1				1		8	56	
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患													
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患													
A75-A79	リケッチア症													
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症		1	1		1						3	36	
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱													
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	5	4	1	2	1	4	3	9	6	3	38	294	
B15-B19	ウイルス性肝炎					1	2	3	3	3	5	17	120	
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病													
B25-B34	その他のウイルス疾患	6	7	2	3				2	1		21	174	
B35-B49	真菌症								1	1		2	28	
B50-B64	原虫疾患						1					1	9	
B65-B83	ぜんく蠕虫症													
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症													
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症													
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体													
B99	その他の感染症													
II -1	新生物(腫瘍)悪性												1,019	13,544
C00-C14	口唇、口腔及び咽喉頭の悪性新生物<腫瘍>				2					2	4	8	182	
C15	食道の悪性新生物							1	5	5	5	16	243	
C16	胃の悪性新生物					1	6	1	13	38	19	78	901	
C17	小腸の悪性新生物									1		1	10	
C18	結腸の悪性新生物					2	6	9	31	46	34	128	1,413	
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					4	2	5	7	14	10	42	612	
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物									3		3	13	
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								5	14	14	33	518	
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								8	2	4	17	231	
C25	膵の悪性新生物								7	12	17	43	798	
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>													
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>								3	39	52	43	2,069	
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>													
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>								1		1	4	65	
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>			1						1	9	13	24	
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>				3	8	36	28	52	48	25	200	2,691	
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					8	33	45	41	22	16	165	1,445	
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>													
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						3		7	8	11	29	390	
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>						2		2	2		6	309	
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>					1	1	1	1		1	5	43	
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>				1		1	1	13	17	12	45	1,017	
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>								4	5	16	3	28	
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>													
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>					1	1				3	5	28	
II -2	新生物(腫瘍)良性												238	1,860
D10-D36	良性新生物<腫瘍>		1	3	17	31	60	25	26	40	22	225	1,764	
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>					2	4	1	2	3	1	13	96	
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												43	419
D50-D53	栄養性貧血							1	5	2	3	11	77	
D55-D59	溶血性貧血		2									2	10	
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血										4	4	75	
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態	1	1			1	1		3	2	1	10	125	
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患						1	1		5		7	79	
D80-D89	免疫機構の障害								3	2	4	9	53	
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患												173	2,334
E00-E07	甲状腺障害					1	1					2	14	
E10-E14	糖尿病				1	4	5	13	18	20	13	74	1,242	
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害							1	1	2	2	6	67	
E20-E35	その他の内分泌腺障害		17	1	1	2	5	9	3	5	1	44	298	
E40-E46	栄養失調(症)							2				2	123	
E50-E64	その他の栄養欠乏症									1		1	11	

2019年度 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害		8			1	4	4	2	10	15	44	579
V 精神及び行動の障害												6	87
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害										1	1	23
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害								1			1	20
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害										1	1	12
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群			1				1				2	30
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		1									1	2
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												130	1,308
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患				2		5		1		1	9	149
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症						2	1	2			5	34
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動				1					3		4	205
G30-G32	神経系のその他の変性疾患						1					1	5
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患			1	1					1		3	74
G40-G47	挿間性及び発作性障害		1	4	4	3	2	2	4	3	2	25	174
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			1	1	1	6	12	11	24	10	66	309
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				1	2		1	2			6	144
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					2			1	2		5	154
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群						1				1	2	11
G90-G99	神経系のその他の障害							1			3	4	49
VII 眼及び付属器の疾患												498	1,769
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害								4	4	3	11	69
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害									1	3	4	8
H25-H28	水晶体の障害					2	5	22	69	178	118	394	986
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			1	2	1	5	8	6	7	5	35	367
H40-H42	緑内障					1	5	7	9	8	5	35	218
H43-H45	硝子体及び眼球の障害				2			3	6	4		15	98
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害								2		2	4	23
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												33	207
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		4									4	12
H80-H83	内耳疾患					4	1	2	1	10	5	23	132
H90-H95	耳のその他の障害					1		1	3		1	6	63
IX 循環器系の疾患												525	8,148
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									4	2	6	189
I10-I15	高血圧性疾患									1		1	3
I20-I25	虚血性心疾患				1		1	5	19	35	17	78	525
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患								2	3	4	9	96
I30-I52	その他の型の心疾患			1		1	6	10	17	65	103	203	2,639
I60-I69	脳血管疾患				2	2	6	12	18	39	63	142	3,356
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					3	5	4	3	21	29	65	1,082
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				1		1	3	3	5	6	19	236
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			1							1	2	22
X 呼吸器系の疾患												393	4,402
J00-J06	急性上気道感染症	5	4	1	4	2	2	3			1	22	112
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	8	46	2	2	3	3	5	14	35	57	175	2,041
J20-J22	その他の急性下気道感染症	20	23	1			1			1		46	272
J30-J39	上気道のその他の疾患		3	6	3	10	9	7	8	6		52	369
J40-J47	慢性下気道疾患	1	11	1				1	1	3	5	23	215
J60-J70	外的因子による肺疾患						1			9	26	36	767
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患								1	3	5	9	138
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態									2		2	41
J90-J94	胸膜のその他の疾患				1				2	5	1	9	160
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患				3			1		7	8	19	287
XI 消化器系の疾患												906	6,130
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		2	1	1	4	5	3	5	6	3	30	130
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患			1	1		2	1	11	16	23	55	656

2019年度（女）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		3	3	5	7	6	4	1		2	31	221
K40-K46	ヘルニア						2	1	1	2	13	19	146
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			1	1	1	1	1	2	1	1	9	65
K55	腸の血行障害					1	2	2	6	7	11	29	338
K56	腸閉塞		1				2	2	4	8	10	27	375
K57	腸の憩室性疾患				1	4	4	3	1	7	10	30	322
K58-K59	その他の腸の機能障害		1	1		1			1	1	1	6	20
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				1			1	5	4	8	19	161
K63	結腸のその他の疾患						5	25	52	91	170	415	1,085
K64	痔核					1		1		3	2	7	31
K65-K67	腹膜の疾患			1				3	2	2	2	10	133
K70-K77	肝疾患				1	1	1	3	8	9	11	34	495
K80-K87	胆のう<囊>, 胆管及び膵の障害				1	3	11	27	19	46	39	146	1,540
K90-K93	消化器系のその他の疾患			1				3	4	13	18	39	412
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												69	1,013
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		4	1	1		2	3	4	4	13	32	451
L10-L14	水疱症									1		1	58
L20-L30	皮膚炎及び湿疹			1	2			1	1	1	2	8	66
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害							1			1	2	19
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑						1	2		1	2	6	84
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害					1	2	4			1	8	21
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					1	1	1	1	3	5	12	314
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												783	19,063
M00-M03	感染性関節障害							1	1	1		3	224
M05-M14	炎症性多発性関節障害				1		2	6	10	11	5	35	906
M15-M19	関節症				2	2	12	54	125	124	61	380	11,000
M20-M25	その他の関節障害		1	16	5	9	7	8	9	12	1	68	1,386
M30-M36	全身性結合組織障害		18		3	4	2		1	2	3	33	690
M40-M43	変形性脊柱障害		1					11	12	15	5	44	956
M45-M49	脊椎障害						1	8	23	38	18	88	1,867
M50-M54	その他の脊柱障害				2	1	6	4	3	2	3	21	333
M60-M63	筋障害				2		1	2		1	1	7	78
M65-M68	滑膜及び腱の障害			9	4	6	1	14	13	7	1	55	305
M70-M79	その他の軟部組織障害					1	1	7	6	9	1	27	568
M80-M85	骨の密度及び構造の障害								1		2	3	69
M86-M90	その他の骨障害						1	1		7	3	12	383
M91-M94	軟骨障害			1	1							2	6
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害									1	4	5	292
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												386	3,923
N00-N08	糸球体疾患			2	3	6	1	4	6	6	2	30	571
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	1	2		2	4	4	5	14	14	16	62	686
N17-N19	腎不全				1	1	1		6	11	13	33	961
N20-N23	尿路結石症				1			3	6	2	1	13	107
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害				1							1	3
N30-N39	尿路系のその他の障害	3	2				1	1	3	8	19	37	669
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害						1	1		3		5	36
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			1	2	8	4	3	1	1	1	21	143
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			1	32	54	56	22	8	8	3	184	747
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												749	5,693
O00-O08	流産に終わった妊娠			4	27	54	12					97	289
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害				3	8	4					15	108
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				12	16	3					31	356
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				31	69	15					115	860
O60-O75	分娩の合併症				14	49	6					69	946
O80-O84	分娩			5	108	277	29					419	3,120
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症			1		1	1					3	14
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												133	1,115
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	10										10	72
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	28										28	381
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	40										40	341

2019年度 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	1										1	4
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	32										32	159
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	13										13	99
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	2										2	8
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	7										7	51
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												42	200
Q00-Q07	神経系の先天奇形		1									1	2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形	1					1	1				3	14
Q20-Q28	循環器系の先天奇形	1		1		2	1	2				7	36
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形	1										1	3
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			1	2	6	1					10	30
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形				1			2	1	1		5	38
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形	6	5	2								13	66
Q80-Q89	その他の先天奇形			2								2	11
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												54	437
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候									2	1	3	18
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		2		2	1		2	3	1		11	177
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候									1		1	10
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候							1				1	6
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候										1	1	3
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候									1	5	6	57
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	4	17			1			1	1	5	29	153
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの							1			1	2	13
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												366	9,318
S00-S09	頭部損傷		2	1	2	1	1		4	5	14	30	491
S10-S19	顔部損傷									1		1	3
S20-S29	胸部<郭>損傷									3	4	7	158
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				2	1			1	8	11	23	415
S40-S49	肩及び上腕の損傷		1				1	4	6	11	2	25	644
S50-S59	肘及び前腕の損傷		2	1	1		3	7	6	7	8	35	329
S60-S69	手首及び手の損傷		1		1	1		3		2		8	30
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					1	1	1	2	15	21	41	1,429
S80-S89	膝及び下腿の損傷			23	7	10	10	12	3	9	3	77	1,862
S90-S99	足首及び足の損傷			1						2		3	42
T00-T07	多部位の損傷		1						2		2	5	103
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用								1		3	4	18
T20-T32	熱傷及び腐食								1			1	9
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒									1		1	3
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	2	3	5		1	1	1		4		17	98
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの				3	2	8	9	10	25	31	88	3,684
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												4	68
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者				1	1	1					3	4
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者				1							1	64
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード													
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類												
合計		192	240	133	378	735	520	613	983	1,623	1,335	6,752	82,828

■疾病別・年齢階層別・在院日数(男)【2019年度】

2019年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数	
I	感染症及び寄生虫症												1,859	1,859
A00-A09	腸管感染症	38	158	26	19	20	55	14	43	109	81	563	563	
A15-A19	結核										37	37	37	
A20-A28	人畜共通細菌性疾患													
A30-A49	その他の細菌性疾患		11			26	2	84	101	166	401	791	791	
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症						3					3	3	
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患													
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患													
A75-A79	リケッチア症													
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症		6									6	6	
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱				7							7	7	
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	16	23	26		24		30	17	53	69	258	258	
B15-B19	ウイルス性肝炎						32	15	7	36	4	94	94	
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病													
B25-B34	その他のウイルス疾患	23	43		10						24	100	100	
B35-B49	真菌症													
B50-B64	原虫疾患													
B65-B83	ぜんく蠕虫症													
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生虫													
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症													
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体													
B99	その他の感染症													
II -1	新生物(腫瘍)悪性												16,451	16,451
C00-C14	口唇、口腔及び咽喉頭の悪性新生物<腫瘍>							8		25	41	74	74	
C15	食道の悪性新生物							82	162	429	299	972	972	
C16	胃の悪性新生物						20	160	315	1,190	752	2,437	2,437	
C17	小腸の悪性新生物								48	12	3	63	63	
C18	結腸の悪性新生物				4	16	192	310	472	186	1,180	1,180	1,180	
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物				7	32	142	246	337	65	829	829	829	
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物							8		2		10	10	
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物						40		175	626	370	1,211	1,211	
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物							3	215	257	240	715	715	
C25	膵の悪性新生物						60	9	135	308	364	876	876	
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>													
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>						62	39	1,046	2,597	1,175	4,919	4,919	
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>													
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>									25	16	41	41	
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>								61		15	76	76	
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>									15		15	15	
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>													
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>						2	15	141	169	67	394	394	
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>							144	207	670	334	1,355	1,355	
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>							135				135	135	
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>						34			50		84	84	
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>				12			166	118	281	82	659	659	
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>						16	37	168	111	58	390	390	
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>													
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>									4	12	16	16	
II -2	新生物(腫瘍)良性												749	749
D10-D36	良性新生物<腫瘍>			11	9	20	61	100	163	234	51	649	649	
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>		1		6	21		24	28	9	11	100	100	
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												268	268
D50-D53	栄養性貧血								6		11	17	17	
D55-D59	溶血性貧血													
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血						13				29	42	42	
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		38				15	31		25	12	121	121	
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患									39		39	39	
D80-D89	免疫機構の障害							4		2	43	49	49	
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患												2,012	2,012
E00-E07	甲状腺障害							5	15			20	20	
E10-E14	糖尿病			54	11	42	58	302	297	464	136	1,364	1,364	
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害									31	4	35	35	
E20-E35	その他の内分泌腺障害		29	18		5	4	17	17	97	82	269	269	
E40-E46	栄養失調(症)													
E50-E64	その他の栄養欠乏症													

2019年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>		6	38								44	44
E70-E90	代謝障害		13	7					10	147	103	280	280
V 精神及び行動の障害												64	64
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害									58	2	60	60
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		2	2								4	4
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												1,167	1,167
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患		4	26		57		24				111	111
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症					8		12	8			28	28
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動								9	44	18	71	71
G30-G32	神経系のその他の変性疾患								4	7		11	11
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害		4	26	25		18	38	43	135	46	335	335
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			8		8	40	31	19	47	21	174	174
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害					22		4	43	15		84	84
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患							122	50	15	8	195	195
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群								17			17	17
G90-G99	神経系のその他の障害								12	129		141	141
VII 眼及び付属器の疾患												1,845	1,845
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害		7						17	53	11	88	88
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害						12	2	6	31		51	51
H25-H28	水晶体の障害				4	6	16	60	111	278	159	634	634
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			32	39	32	20	209	54	22	35	443	443
H40-H42	緑内障					25	12	88	82	148	52	407	407
H43-H45	硝子体及び眼球の障害					16	12	27	15	42	57	169	169
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害							16				16	16
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害				2	4	7			12	12	37	37
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												98	98
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		3	35								38	38
H80-H83	内耳疾患							5	3	4	4	16	16
H90-H95	耳のその他の障害				14			15		15		44	44
IX 循環器系の疾患												13,657	13,657
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患								83	260	70	413	413
I10-I15	高血圧性疾患								2	13		15	15
I20-I25	虚血性心疾患						14	172	314	892	353	1,745	1,745
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患						19	21		3	10	53	53
I30-I52	その他の型の心疾患					18	75	259	638	1,304	1,513	3,807	3,807
I60-I69	脳血管疾患				6	5	356	498	1,016	1,472	1,884	5,237	5,237
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					47	19	181	223	853	742	2,065	2,065
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの						57	22	99	133		311	311
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害								1	10		11	11
X 呼吸器系の疾患												8,497	8,497
J00-J06	急性上気道感染症	27	33	12	12		9	6	5	15		119	119
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	74	325	46	8	47	7	125	446	850	1,172	3,100	3,100
J20-J22	その他の急性下気道感染症	211	166	5		7						47	436
J30-J39	上気道のその他の疾患		54	37	99	60	192	55	43	92	58	690	690
J40-J47	慢性下気道疾患	24	127	5	2				8	67	97	330	330
J60-J70	外的因子による肺疾患			10				5	49	813	1,099	1,976	1,976
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患					2		126	53	230	183	594	594
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態							36	13	158		207	207
J90-J94	胸膜のその他の疾患			10		43		23	25	316	48	465	465
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患	93		5				55	107	245	75	580	580
XI 消化器系の疾患												7,989	7,989
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		9			3	29	9	19	18	8	95	95
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患						13	129	143	130	139	554	554

2019年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		3	36	19	53	28	32	6	24	43	244	244
K40-K46	ヘルニア				10		15	28	64	147	101	365	365
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			2	38	10		4	13	42	2	111	111
K55	腸の血行障害						23		78	32	39	172	172
K56	腸閉塞	7	2			16	2	79	79	197	55	437	437
K57	腸の憩室性疾患				9		22	87	56	230	163	567	567
K58-K59	その他の腸の機能障害		2									2	2
K60-K62	肛門及び直腸の疾患							2	13	16	28	59	59
K63	結腸のその他の疾患					10	39	184	401	610	304	1,548	1,548
K64	痔核							18		14	6	38	38
K65-K67	腹膜の疾患						29			121	46	196	196
K70-K77	肝疾患				9		78	83	49	344	98	661	661
K80-K87	胆のうく嚢>, 胆管及び膵の障害			9	29	13	172	275	570	654	705	2,427	2,427
K90-K93	消化器系のその他の疾患				15			21	77	252	148	513	513
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												1,281	1,281
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	7	18	14	13	55	52	152	109	144	93	657	657
L10-L14	水疱症									8	125	133	133
L20-L30	皮膚炎及び湿疹				11				12			23	23
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ<鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑		4						26		28	58	58
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害									26	4	30	30
L60-L75	皮膚付属器の障害			13	3	14		15	6	8		59	59
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害						26	108	76	7	104	321	321
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												12,259	12,259
M00-M03	感染性関節障害						39	218	87	92	436	436	436
M05-M14	炎症性多発性関節障害		2		7			24	11	100	69	213	213
M15-M19	関節症			10	4	4	208	553	936	453	197	2,365	2,365
M20-M25	その他の関節障害		9	493	157	31	90	46	21	61		908	908
M30-M36	全身性結合組織障害	43	63				45		47	146	326	670	670
M40-M43	変形性脊柱障害					14		143	314	476	72	1,019	1,019
M45-M49	脊椎障害			11		61	50	447	876	1,815	536	3,796	3,796
M50-M54	その他の脊柱障害				62	38	161	142	150	149	48	750	750
M60-M63	筋障害						3			11	28	42	42
M65-M68	滑膜及び腱の障害		3	12	14	6	3	33	97	64	45	277	277
M70-M79	その他の軟部組織障害				5		43	215	240	170	92	765	765
M80-M85	骨の密度及び構造の障害			5		8	3	6	16	38	30	106	106
M86-M90	その他の骨障害				23	47	88	165	112	126	21	582	582
M91-M94	軟骨障害			172								172	172
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害			48				19		16	75	158	158
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,138	3,138
N00-N08	糸球体疾患		6	128	64	7	61	51	23	23	15	378	378
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	39			5	19	19	59	125	268	259	793	793
N17-N19	腎不全					62	14	142	283	404	197	1,102	1,102
N20-N23	尿路結石症						17	21	41	33	33	145	145
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害									21	9	30	30
N30-N39	尿路系のその他の障害	11			9	12		13	83	116	153	397	397
N40-N51	男性生殖器の疾患			8					11	133	116	268	268
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害										25	25	25
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												1,097	1,097
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	42										42	42
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	286										286	286
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	443										443	443

2019年度 在院日数 (男)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数	
P35-P39	周産期に特異的な感染症	7	2									9	9	
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	169										169	169	
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	111										111	111	
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害													
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態													
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	37										37	37	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												915	915	
Q00-Q07	神経系の先天奇形	6										6	6	
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形		7		3	5						15	15	
Q20-Q28	循環器系の先天奇形		576	54	7		7	13			96	65	818	818
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形													
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂													
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形													
Q50-Q56	生殖器の先天奇形													
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形	1									9	10	10	
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		32	13								45	45	
Q80-Q89	その他の先天奇形		6			8	7					21	21	
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの													
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												453	453	
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候					4			19	17	120	160	160	
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		7	3			5		3		6	24	24	
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候													
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候										14	14	14	
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候													
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候										9	9	9	
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候													
R50-R69	全身症状及び徴候	14	86	17				38	24		62	241	241	
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの													
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの				5							5	5	
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの													
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの													
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡													
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												5,929	5,929	
S00-S09	頭部損傷		5	20	2	7	36	44	133	114	475	836	836	
S10-S19	頸部損傷					8						8	8	
S20-S29	胸部<郭>損傷									43		43	43	
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷			8	8			21	96	44	256	433	433	
S40-S49	肩及び上腕の損傷	23	16	7	4	4	71	268	463	175	45	1,076	1,076	
S50-S59	肘及び前腕の損傷		10	24	30	10	34	10	20	52	23	213	213	
S60-S69	手首及び手の損傷		3	24	13	6	7	9	5	9	15	91	91	
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷		2	10				25	83	147	277	544	544	
S80-S89	膝及び下腿の損傷		26	267	269	265	483	224	67	56	54	1,711	1,711	
S90-S99	足首及び足の損傷			44				29	50			123	123	
T00-T07	多部位の損傷										72	72	72	
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷													
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用				2		5	9				16	16	
T20-T32	熱傷及び腐食													
T33-T35	凍傷													
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒										21	21	21	
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用	2										2	2	
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	9	11	9				4				33	33	
T79	外傷の早期合併症													
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	2	15				51	70	229	115	222	704	704	
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症			3								3	3	
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												26	26	
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者													
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者													
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者													
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者									14		14	14	
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者													
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者													
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者							2	10			12	12	
XXII 特殊目的コード												7	7	
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類										7	7	7	
合計		1,768	2,010	1,858	1,132	1,345	3,531	8,066	14,281	26,253	19,517	79,761	79,761	

■疾病別・年齢階層別・在院日数(女)【2019年度】

2019年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											1,790	1,790
A00-A09	腸管感染症	18	126	25	38	20	17	4	9	107	113	477	477
A15-A19	結核								2	14	95	111	111
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患		10	12	8	9			2	244	200	485	485
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症			12	35	3				6		56	56
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症		4	24		8						36	36
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	22	24	5	20	4	44	22	77	51	25	294	294
B15-B19	ウイルス性肝炎					8	8	22	11	29	42	120	120
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患	28	47	17	29				21	32		174	174
B35-B49	真菌症								9	19		28	28
B50-B64	原虫疾患						9					9	9
B65-B83	ぜんく蠕虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											13,544	13,544
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>				16					16	150	182	182
C15	食道の悪性新生物							10	53	135	45	243	243
C16	胃の悪性新生物					10	71	15	169	478	158	901	901
C17	小腸の悪性新生物									10		10	10
C18	結腸の悪性新生物					8	85	63	267	488	502	1,413	1,413
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物					23	14	75	86	110	304	612	612
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物									13		13	13
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								53	294	171	518	518
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								81	55	74	231	231
C25	膵の悪性新生物								106	229	307	798	798
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>								125	536	805	603	2,069
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>								3	5	57	65	65
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>			4						7	89	214	314
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>				16	81	421	276	562	767	568	2,691	2,691
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>					127	181	296	481	179	181	1,445	1,445
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>												
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>						25		58	89	218	390	390
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>						62		182	65		309	309
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>					8	8	9	10		8	43	43
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>			3		8	32	178	574	222		1,017	1,017
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>							22	23	170	37	252	252
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>					3	3				22	28	28
II -2	新生物(腫瘍)良性											1,860	1,860
D10-D36	良性新生物<腫瘍>		3	19	148	226	446	181	198	290	253	1,764	1,764
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>					18	19	12	17	28	2	96	96
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害											419	419
D50-D53	栄養性貧血							4	10	10	53	77	77
D55-D59	溶血性貧血		10									10	10
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血										75	75	75
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態		12	39		8	3		6	49	8	125	125
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患						5	7		67		79	79
D80-D89	免疫機構の障害							6	29	18		53	53
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											2,334	2,334
E00-E07	甲状腺障害					5	9					14	14
E10-E14	糖尿病				6	57	102	192	302	330	253	1,242	1,242
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害						2	6		32	27	67	67
E20-E35	その他の内分泌腺障害		41	3	7	9	29	46	13	136	14	298	298
E40-E46	栄養失調(症)							123				123	123
E50-E64	その他の栄養欠乏症								11			11	11

2019年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害		40			3	49	30	136	108	213	579	579
V 精神及び行動の障害												87	87
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害										23	23	23
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害								20			20	20
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F49	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害										12	12	12
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群			4				26				30	30
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害		2									2	2
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患												1,308	1,308
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患				32		62		14		41	149	149
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症						9	4	21			34	34
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動				143					62		205	205
G30-G32	神経系のその他の変性疾患						5					5	5
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患			13	9					52		74	74
G40-G47	挿間性及び発作性障害		2	10	18	11	4	5	80	20	24	174	174
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害			8	2	8	23	42	61	118	47	309	309
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害				38	20		12	74			144	144
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患					5			29	120		154	154
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群						4				7	11	11
G90-G99	神経系のその他の障害							13			36	49	49
VII 眼及び付属器の疾患												1,769	1,769
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害								19	29	21	69	69
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害									2	6	8	8
H25-H28	水晶体の障害					2	11	57	180	445	291	986	986
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害			13	26	8	78	104	46	67	25	367	367
H40-H42	緑内障					2	45	26	39	63	43	218	218
H43-H45	硝子体及び眼球の障害				9			11	42	36		98	98
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害								11		12	23	23
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患												207	207
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患		12									12	12
H80-H83	内耳疾患					23	4	6	3	85	11	132	132
H90-H95	耳のその他の障害					7		6	43		7	63	63
IX 循環器系の疾患												8,148	8,148
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患									122	67	189	189
I10-I15	高血圧性疾患									3		3	3
I20-I25	虚血性心疾患				3		2	80	96	217	127	525	525
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患								8	27	61	96	96
I30-I52	その他の型の心疾患			3		10	76	81	177	829	1,463	2,639	2,639
I60-I69	脳血管疾患				47	56	112	189	314	823	1,815	3,356	3,356
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患					32	40	17	14	527	452	1,082	1,082
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの				8		4	26	51	55	92	236	236
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害			10						12		22	22
X 呼吸器系の疾患												4,402	4,402
J00-J06	急性上気道感染症	16	22	6	16	12	12	19			9	112	112
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	56	258	16	17	16	24	102	213	495	844	2,041	2,041
J20-J22	その他の急性下気道感染症	114	137	3			10			8		272	272
J30-J39	上気道のその他の疾患		15	38	19	73	68	55	55	46		369	369
J40-J47	慢性下気道疾患	8	83	9				19	6	31	59	215	215
J60-J70	外的因子による肺疾患						63			196	508	767	767
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患							14		42	82	138	138
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態									41		41	41
J90-J94	胸膜のその他の疾患				7				35	117	1	160	160
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患				33			58		111	85	287	287
XI 消化器系の疾患												6,130	6,130
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患		6	3	3	15	14	13	32	26	18	130	130
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患			3	3		11	8	177	133	321	656	656

2019年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患		15	18	28	56	26	52	4		22	221	221
K40-K46	ヘルニア						15	7	5	15	104	146	146
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎			3	3	2	4	3	25	13	12	65	65
K55	腸の血行障害					3	12	19	64	109	131	338	338
K56	腸閉塞		17				32	14	34	90	188	375	375
K57	腸の憩室性疾患				6	28	39	73	8	40	128	322	322
K58-K59	その他の腸の機能障害		3	4		1			4	5	3	20	20
K60-K62	肛門及び直腸の疾患				5			2	55	14	85	161	161
K63	結腸のその他の疾患					10	55	122	203	465	230	1,085	1,085
K64	痔核					4		5		15	7	31	31
K65-K67	腹膜の疾患			21				48	11	46	7	133	133
K70-K77	肝疾患				9	2	2	17	143	84	238	495	495
K80-K87	胆のう<嚢>, 胆管及び膵の障害				4	36	127	221	138	480	534	1,540	1,540
K90-K93	消化器系のその他の疾患				4			39	39	102	228	412	412
XII 皮膚及び皮下組織の疾患												1,013	1,013
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症		39	7	11		15	30	43	93	213	451	451
L10-L14	水疱症									58		58	58
L20-L30	皮膚炎及び湿疹			5	19			12	6	13	11	66	66
L40-L45	丘疹落せつ<屑><りんせつ><鱗屑>>性障害							7			12	19	19
L50-L54	じんま<蕁麻疹>疹及び紅斑						13	21		10	40	84	84
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害					3	4	11			3	21	21
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害					9	2	3	12	90	198	314	314
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												19,063	19,063
M00-M03	感染性関節障害							51	97	76		224	224
M05-M14	炎症性多発性関節障害				10		15	139	286	326	130	906	906
M15-M19	関節症				33	58	281	1,483	3,509	3,712	1,924	11,000	11,000
M20-M25	その他の関節障害		37	343	124	118	110	144	163	315	32	1,386	1,386
M30-M36	全身性結合組織障害		160		147	100	16		63	142	62	690	690
M40-M43	変形性脊柱障害		4					207	260	371	114	956	956
M45-M49	脊椎障害						15	163	495	772	422	1,867	1,867
M50-M54	その他の脊柱障害				35	20	91	53	65	37	32	333	333
M60-M63	筋障害				22		10	18		18	10	78	78
M65-M68	滑膜及び腱の障害			27	10	53	3	53	71	85	3	305	305
M70-M79	その他の軟部組織障害			9		5	16	89	162	258	29	568	568
M80-M85	骨の密度及び構造の障害								31		38	69	69
M86-M90	その他の骨障害						19	27		189	148	383	383
M91-M94	軟骨障害			3	3							6	6
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害									57	235	292	292
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3,923	3,923
N00-N08	糸球体疾患		18	16	57		17	98	85	196	84	571	571
N10-N16	腎尿細管間質性疾患	6	15		6	35	22	57	105	171	269	686	686
N17-N19	腎不全				3	71	8		87	380	412	961	961
N20-N23	尿路結石症				7			35	43	14	8	107	107
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害				3							3	3
N30-N39	尿路系のその他の障害	25	16				9	9	69	157	384	669	669
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害						17	3		16		36	36
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患			11	3	59	18	5	8	17	22	143	143
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害			4	151	230	220	66	24	43	9	747	747
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>												5,693	5,693
O00-O08	流産に終わった妊娠			8	82	174	25					289	289
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害				28	62	18					108	108
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害				174	156	26					356	356
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題				218	526	116					860	860
O60-O75	分娩の合併症				197	685	64					946	946
O80-O84	分娩			37	775	2,052	256					3,120	3,120
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症			4		1	9					14	14
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態												1,115	1,115
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	72										72	72
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	381										381	381
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	341										341	341

2019年度 在院日数 (女)		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症	4										4	4
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	159										159	159
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害	99										99	99
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態	8										8	8
P90-P96	周産期に発生したその他の障害	51										51	51
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常												200	200
Q00-Q07	神経系の先天奇形		2									2	2
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び顔部の先天奇形	3					5	6				14	14
Q20-Q28	循環器系の先天奇形	2		5		21	3	5				36	36
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形	3										3	3
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形			4	10	11	5					30	30
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形				4			15	17	2		38	38
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形		19	28	19							66	66
Q80-Q89	その他の先天奇形				11							11	11
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの												437	437
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候									16	2	18	18
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候		6		6	5		3	143	14		177	177
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候									10		10	10
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候							6				6	6
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候										3	3	3
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候									17	40	57	57
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候	22	66			2			4	9	50	153	153
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体<材料>及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの							2			11	13	13
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												9,318	9,318
S00-S09	頭部損傷		4	4	5	2	3		14	148	311	491	491
S10-S19	頸部損傷									3		3	3
S20-S29	胸部<郭>損傷									57	101	158	158
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷				4	2			14	158	237	415	415
S40-S49	肩及び上腕の損傷		2				20	77	137	331	77	644	644
S50-S59	肘及び前腕の損傷		6	11	1		29	40	36	55	151	329	329
S60-S69	手首及び手の損傷		3		2	3		12		10		30	30
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷					22	35	22	160	423	767	1,429	1,429
S80-S89	膝及び下腿の損傷			518	217	311	239	231	73	196	77	1,862	1,862
S90-S99	足首及び足の損傷			8						34		42	42
T00-T07	多部位の損傷		4							55	44	103	103
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用									3	15	18	18
T20-T32	熱傷及び腐食									9		9	9
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒									3		3	3
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用	5	10	17		3	4	2		57		98	98
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの				24	82	101	135	351	1,570	1,421	3,684	3,684
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健												68	68
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者				2	1	1					4	4
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者				64							64	64
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード													
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類												
合計		1,435	1,308	1,409	3,310	5,941	4,511	6,721	13,100	23,405	21,688	82,828	82,828

■疾病別・年齢階層別・死亡退院患者数【2019年度】

2019年度（死亡）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
I	感染症及び寄生虫症											6	321
A00-A09	腸管感染症												
A15-A19	結核												
A20-A28	人畜共通細菌性疾患												
A30-A49	その他の細菌性疾患									2	4	6	321
A50-A64	主として性的伝播様式をとる感染症												
A65-A69	その他のスピロヘータ疾患												
A70-A74	クラミジアによるその他の疾患												
A75-A79	リケッチア症												
A80-A89	中枢神経系のウイルス感染症												
A90-A99	節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱												
B00-B09	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症												
B15-B19	ウイルス性肝炎												
B20-B24	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病												
B25-B34	その他のウイルス疾患												
B35-B49	真菌症												
B50-B64	原虫疾患												
B65-B83	ぜんぐ虫症												
B85-B89	シラミ症、ダニ症及びその他の動物寄生症												
B90-B94	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症												
B95-B98	細菌、ウイルス及びその他の病原体												
B99	その他の感染症												
II -1	新生物(腫瘍)悪性											113	3,330
C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物<腫瘍>										2	2	56
C15	食道の悪性新生物								2	1	3	6	226
C16	胃の悪性新生物							1	3	5	5	14	314
C17	小腸の悪性新生物												
C18	結腸の悪性新生物								2	1	3	6	149
C19-C20	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物							1	1	2	1	5	168
C21	肛門及び肛門管の悪性新生物												
C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物								3	6	5	14	425
C23-C24	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物								1	1	2	4	105
C25	膵の悪性新生物					1	1	2	4	4		12	347
C26	その他の部位不明確の消化器の悪性新生物<腫瘍>												
C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物<腫瘍>							1	7	16	8	32	1,102
C40-C41	骨及び関節軟骨の悪性新生物<腫瘍>												
C43-C44	皮膚の悪性新生物<腫瘍>												
C45-C49	中皮及び軟部組織の悪性新生物<腫瘍>								1		1	2	83
C50	乳房の悪性新生物<腫瘍>					1	1	3	1	2		8	101
C51-C58	女性生殖器の悪性新生物<腫瘍>							1			1	2	16
C60-C63	男性生殖器の悪性新生物<腫瘍>								1			1	30
C64-C68	腎尿路の悪性新生物<腫瘍>										1	1	29
C69-C72	眼、脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物<腫瘍>								1			1	54
C73-C75	甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物<腫瘍>												
C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>										2	2	96
C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物<腫瘍>										1	1	29
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物<腫瘍>												
D00-D09	上皮内新生物<腫瘍>												
II -2	新生物(腫瘍)良性												
D10-D36	良性新生物<腫瘍>												
D37-D48	性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>												
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害												
D50-D53	栄養性貧血												
D55-D59	溶血性貧血												
D60-D64	無形成性貧血及びその他の貧血												
D65-D69	凝固障害、紫斑病及びその他の出血性病態												
D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患												
D80-D89	免疫機構の障害												
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患											2	38
E00-E07	甲状腺障害												
E10-E14	糖尿病										1	1	35
E15-E16	その他のグルコース調節及び膵内分泌障害												
E20-E35	その他の内分泌腺障害												
E40-E46	栄養失調(症)												
E50-E64	その他の栄養欠乏症												

2019年度（死亡）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
E65-E68	肥満(症)及びその他の過栄養<過剰摂食>												
E70-E90	代謝障害									1		1	3
V 精神及び行動の障害													
F00-F09	症状性を含む器質性精神障害												
F10-F19	精神作用物質使用による精神及び行動の障害												
F20-F29	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害												
F30-F39	気分[感情]障害												
F40-F48	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害												
F50-F59	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群												
F60-F69	成人の人格及び行動の障害												
F70-F79	知的障害<精神遅滞>												
F80-F89	心理的発達障害												
F90-F98	小児<児童>期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害												
F99	詳細不明の精神障害												
VI 神経系の疾患													
G00-G09	中枢神経系の炎症性疾患												
G10-G14	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症												
G20-G26	錐体外路障害及び異常運動												
G30-G32	神経系のその他の変性疾患												
G35-G37	中枢神経系の脱髄疾患												
G40-G47	挿間性及び発作性障害												
G50-G59	神経、神経根及び神経そう<叢>の障害												
G60-G64	多発(性)ニューロパチ<シ>-及びその他の末梢神経系の障害												
G70-G73	神経筋接合部及び筋の疾患												
G80-G83	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群												
G90-G99	神経系のその他の障害												
VII 眼及び付属器の疾患													
H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害												
H10-H13	結膜の障害												
H15-H22	強膜、角膜、虹彩及び毛様体の障害												
H25-H28	水晶体の障害												
H30-H36	脈絡膜及び網膜の障害												
H40-H42	緑内障												
H43-H45	硝子体及び眼球の障害												
H46-H48	視神経及び視(覚)路の障害												
H49-H52	眼筋、眼球運動、調節及び屈折の障害												
H53-H54	視機能障害及び盲<失明>												
H55-H59	眼及び付属器のその他の障害												
VIII 耳及び乳様突起の疾患													
H60-H62	外耳疾患												
H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患												
H80-H83	内耳疾患												
H90-H95	耳のその他の障害												
IX 循環器系の疾患												23	553
I00-I02	急性リウマチ熱												
I05-I09	慢性リウマチ性心疾患												
I10-I15	高血圧性疾患												
I20-I25	虚血性心疾患										1	1	1
I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患								1			1	2
I30-I52	その他の型の心疾患										5	5	102
I60-I69	脳血管疾患					1	1	1	1	5	6	15	316
I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患									1		1	132
I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの												
I95-I99	循環器系のその他及び詳細不明の障害												
X 呼吸器系の疾患												32	829
J00-J06	急性上気道感染症												
J09-J18	インフルエンザ及び肺炎								1	5	4	10	200
J20-J22	その他の急性下気道感染症												
J30-J39	上気道のその他の疾患												
J40-J47	慢性下気道疾患									1		1	7
J60-J70	外的因子による肺疾患									3	9	12	383
J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患									2	2	4	62
J85-J86	下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態												
J90-J94	胸膜のその他の疾患									1	1	2	107
J95-J99	呼吸器系のその他の疾患									1	2	3	70
XI 消化器系の疾患												12	282
K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患												
K20-K31	食道、胃及び十二指腸の疾患												

2019年度（死亡）		0~	1~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計	在院日数
K35-K38	虫垂の疾患										1	1	12
K40-K46	ヘルニア												
K50-K52	非感染性腸炎及び非感染性大腸炎												
K55	腸の血行障害												
K56	腸閉塞												
K57	腸の憩室性疾患												
K58-K59	その他の腸の機能障害												
K60-K62	肛門及び直腸の疾患												
K63	結腸のその他の疾患												
K64	痔核												
K65-K67	腹膜の疾患									1	2	3	30
K70-K77	肝疾患								2	3	1	6	208
K80-K87	胆のうく嚢>, 胆管及び膵の障害									1		1	30
K90-K93	消化器系のその他の疾患								1			1	2
XII 皮膚及び皮下組織の疾患													
L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症												
L10-L14	水疱症												
L20-L30	皮膚炎及び湿疹												
L40-L45	丘疹落せつく屑><りんせつく鱗屑>>性障害												
L50-L54	じんま<蕁麻>疹及び紅斑												
L55-L59	皮膚及び皮下組織の放射線(非電離及び電離)に関連する障害												
L60-L75	皮膚付属器の障害												
L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害												
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患												2	105
M00-M03	感染性関節障害												
M05-M14	炎症性多発性関節障害												
M15-M19	関節症										1	1	53
M20-M25	その他の関節障害												
M30-M36	全身性結合組織障害												
M40-M43	変形性脊柱障害												
M45-M49	脊椎障害												
M50-M54	その他の脊柱障害												
M60-M63	筋障害												
M65-M68	滑膜及び腱の障害												
M70-M79	その他の軟部組織障害								1			1	52
M80-M85	骨の密度及び構造の障害												
M86-M90	その他の骨障害												
M91-M94	軟骨障害												
M95-M99	筋骨格系及び結合組織のその他の障害												
XIV 腎尿路生殖系系の疾患												3	290
N00-N08	糸球体疾患												
N10-N16	腎尿細管間質性疾患												
N17-N19	腎不全								1		1	2	217
N20-N23	尿路結石症												
N25-N29	腎及び尿管のその他の障害												
N30-N39	尿路系のその他の障害										1	1	73
N40-N51	男性生殖器の疾患												
N60-N64	乳房の障害												
N70-N77	女性骨盤臓器の炎症性疾患												
N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害												
N99	腎尿路生殖系系のその他の障害												
XV 妊娠、分娩及び産じょく<褥>													
O00-O08	流産に終わった妊娠												
O10-O16	妊娠、分娩及び産じょく<褥>における浮腫、タンパク<蛋白>尿及び高血圧性障害												
O20-O29	主として妊娠に関連するその他の母体障害												
O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題												
O60-O75	分娩の合併症												
O80-O84	分娩												
O85-O92	主として産じょく<褥>に関連する合併症												
O94-O99	その他の産科的病態、他に分類されないもの												
XVI 周産期に発生した病態													
P00-P04	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児												
P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害												
P10-P15	出産外傷												
P20-P29	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害												

2019年度（死亡）		0～	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	在院日数
P35-P39	周産期に特異的な感染症												
P50-P61	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害												
P70-P74	胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害												
P75-P78	胎児及び新生児の消化器系障害												
P80-P83	胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態												
P90-P96	周産期に発生したその他の障害												
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常													
Q00-Q07	神経系の先天奇形												
Q10-Q18	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形												
Q20-Q28	循環器系の先天奇形												
Q30-Q34	呼吸器系の先天奇形												
Q35-Q37	唇裂及び口蓋裂												
Q38-Q45	消化器系のその他の先天奇形												
Q50-Q56	生殖器の先天奇形												
Q60-Q64	腎尿路系の先天奇形												
Q65-Q79	筋骨格系の先天奇形及び変形												
Q80-Q89	その他の先天奇形												
Q90-Q99	染色体異常、他に分類されないもの												
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの													
R00-R09	循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候												
R10-R19	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候												
R20-R23	皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候												
R25-R29	神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候												
R30-R39	腎尿路系に関する症状及び徴候												
R40-R46	認識、知覚、情緒状態及び行動に関する症状及び徴候												
R47-R49	言語及び音声に関する症状及び徴候												
R50-R69	全身症状及び徴候												
R70-R79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R80-R82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R83-R89	その他の体液、検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの												
R90-R94	画像診断及び機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの												
R95-R99	診断名不明確及び原因不明の死亡												
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響												3	249
S00-S09	頭部損傷										2	2	139
S10-S19	頸部損傷												
S20-S29	胸部＜郭＞損傷												
S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷												
S40-S49	肩及び上腕の損傷												
S50-S59	肘及び前腕の損傷												
S60-S69	手首及び手の損傷												
S70-S79	股関節部及び大腿の損傷												
S80-S89	膝及び下腿の損傷												
S90-S99	足首及び足の損傷												
T00-T07	多部位の損傷												
T08-T14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷又は部位不明の損傷												
T15-T19	自然開口部からの異物侵入の作用												
T20-T32	熱傷及び腐食												
T33-T35	凍傷												
T36-T50	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒												
T51-T65	薬用を主としなない物質の毒作用												
T66-T78	外因のその他及び詳細不明の作用												
T79	外傷の早期合併症												
T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの										1	1	110
T90-T98	損傷、中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症												
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健													
Z00-Z13	検査及び診査のための保健サービスの利用者												
Z20-Z29	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z30-Z39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者												
Z40-Z54	特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者												
Z55-Z65	社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
Z70-Z76	その他の環境下での保健サービスの利用者												
Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者												
XXII 特殊目的コード													
U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類						1	3	7	35	65	85	196
合計							1	3	7	35	65	85	196
													5,997



部門概要



◆スタッフ欄は、平成31年3月1日現在の配置を記す。

◆概要

整形外科は最新、高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。すなわち、脊椎外科センター、人工関節センター、リウマチセンター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センター、であり、長年当科を率いてきた富士副院長が退職された後を継いで、大脇新副院長、島田統括診療部長兼整形外科主任部長のもと、20名の整形外科医が得意分野・専門分野に応じて各センターに所属し診療に当たっている。人事異動では前述の他、中谷（なかや）リウマチ担当部長が着任し、北スポーツ整形外科担当部長、転法輪外傷外科担当部長が医長から、中矢（なかや）医長が医員からそれぞれ昇格した。メンバーの一新した後期研修医4名と共に、常に活性化をしながら互いに切磋琢磨し、最高水準の診療レベルを維持し続けている。

◆実績

2019年度の手術件数は1,887件で、2018年度の1,813件よりも70件程度増加した（両THAは1件とカウント）。部長や医長クラスの人事異動に伴い、昨年度は若干数手術が減少した部門も一様に盛り返し、年間2,000件の大台が見えてきた状況である。

2019年度の入院患者数（1か月あたり）は3,400人と堅調を保っているが、5月の連休以降、全科的な外来患者数の減少の影響は整形外科にも及んでおり、それに伴い入院患者待ち人数やその待期間が減少傾向にある。紹介患者数も同様であり、先人たちが築いてきた当院整形外科のブランドに胡坐をかいてはいけないと痛感している。現在、地域の医療機関からの紹介受け入れをスムーズにすべく、また新鮮外傷等の救急診療にもこれまで以上に取り組むべく、組織改革に挑んでいる。整形外科は当院において単科としては最大の収入を得ている科であり、その実績は病院収益に大きく影響するものと自負している。当院の屋台骨を支えるのは当科である、との誇りと気概をスタッフ全員で共有して、今後の診療に当たっていききたい。

また、臨床研究の業績としては、国内・国際学会発表、国内・国際論文および著書の総数は130余りあり、内外からの講演依頼も数多くこなしている。論文は英語で海外に向けて発信してこそ、のスローガンのもと、10編の英語論文をpublishできた。今後も診療だけでなく臨床研究の面でも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

多くの制約がある中でスタッフに疲弊感よりも仕事の充実感を感じてもらうことは容易ではないが、診療を通じて患者の最大幸福を目指し、その結果として個々が達成感を得られるようなチームでありたいと思っている。

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）大脇 肇、◎西川昌孝、◎中谷宏幸、三木 亮

◆概 要

2019年度のリウマチセンターは整形外科の3人の常勤医師と後期研修医1人により構成されていた。統括診療部長・整形外科主任部長であった大脇肇が年度途中で副院長となったがリウマチセンター長を継続することとなった。年度途中で五島篤史医員から中谷宏幸医員への人事異動があり、その後リウマチ外科担当部長に昇任した。後期研修医のうち1人がリウマチ研修を受けるシステムは継続された。年度終わりにリウマチ研修を受けていたのは三木亮であった。

◆実 績

2019年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチ（RA）と脊椎関節炎（SpA）の合計数が914人で昨年度より僅かに増加した。新規紹介患者のうち当センターでの治療を開始した患者数は76人で昨年度の59人よりも増加した。中谷宏幸リウマチ外科担当部長の異動に伴い、当院への転院症例が多かった事が寄与した。

生物学的製剤の開始または変更は75人で2019年度と比較してやや増加した。生物学的製剤別の新規開始は、IFX（レミケード）/ETN（エンブレル）/ADA（ヒュミラ）/GLM（シンポニー）/CZP（シムジア）/TCZ（アクテムラ）/ABT（オレンシア）/SAR（ケブザラ）の順で1/1/4/9/8/18/6/14であり、昨年同様アクテムラが最多で、次いでケブザラ、シンポニーの順となった。アクテムラの新規開始が減少し、同じ抗IL-6抗体で新規薬剤であるケブザラが増加しているのは興味深い。継続数はIFX/ETN/ADA/GLM/CZP/TCZ/ABT/SARの順で12/93/16/33/24/96/46/10であり、アクテムラの新規開始が増加しているためエンブレルを抜き最大の投与数となった。抗TNF製剤の中ではレミケード、ヒュミラ、シンポニーが減少し、シムジアが増加している。一方、キナーゼ阻害薬の年度末投与症例数はTOF（ゼルヤンツ）7人、BCN（オルミエント）42人となり、BCN投与症例の増加が目立った。生物学的製剤とキナーゼ阻害薬の合計の投与率は、RAとSpAを合わせて41%であった。

リウマチグループの主たる手術対象は変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術であるが、これについては人工関節センターの項を御覧いただきたい。リウマチグループが行っている他の手術として、足関節・足部疾患があるが、これは昨年度33例から2019年度は37例とやや増加した。

関節リウマチは合併症の多い疾患であり、また治療の主体が免疫抑制療法であるため、呼吸器をはじめ、多くの他科の先生方に迷惑をかけており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

◆スタッフ（◎部長）

◎坂浦博伸、池上大督、藤森孝人、杉浦 剛

◆概 要

腰椎変性疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、腰椎分離（すべり）症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、頸椎変性疾患（頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、頸椎後縦靭帯骨化症、頸椎椎間板ヘルニア、環軸椎亜脱臼など）、胸椎変性疾患（胸椎後縦靭帯骨化症、胸椎黄色靭帯骨化症、変形性胸椎症、胸椎椎間板ヘルニアなど）、脊柱変形（思春期特発性側弯症、変性（後）側弯症など）、脊椎外傷（圧迫骨折後偽関節など）、脊椎腫瘍（原発性脊椎腫瘍、転移性脊椎腫瘍）、脊髄腫瘍（髄内腫瘍除く）、脊椎炎症性疾患（化膿性脊椎炎、リウマチ性脊椎疾患など）、透析性脊椎疾患などを対象にしている。超高齢社会の到来にとともに、こういった脊椎脊髄疾患に苦しまれる患者様は年々増えており、社会における脊椎外科の役割はますます大きくなっている。当院脊椎外科センターは旧大阪厚生年金病院時代から続く伝統あるクリニックで脊椎脊髄疾患の患者様は地元福島区、大阪市だけでなく全国から来院されている。

◆実 績

当院脊椎外科センターではまず服薬やコルセットなどを用いた保存療法を試み、どうしても症状の改善しない方には手術治療を適応している。手術件数は年間450件程度で、内訳としては腰椎除圧術（従来法部分椎弓切除術、内視鏡視下手術MEL）、腰椎固定術（通常の椎弓根スクリューあるいはCBTスクリュー法による後方進入椎体間固定術、後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（従来法、内視鏡視下手術MED）、頸椎椎弓形成術（人工骨あるいは金属プレート使用）、頸椎後方固定術（椎弓根スクリューあるいは外側塊スクリュー使用）、頸椎前方固定術（ケージ使用の椎体間固定術、自家骨+プレート使用の垂全摘前方固定術）、後側弯症矯正固定術（前方・後方2期的手術）などを行っている。さらに最先端の医療機器としてハイブリッド手術室内に設置されているSIEMENS社のArtis Zeegoを用いることでリアルタイムに術中CT撮影をすることができ、より正確かつ安全な手術を行うことが可能となっている。また近年低侵襲手術のひとつとして注目されているLIF（側方進入椎体間固定術）も取り入れており、背部筋群を傷つけることなく腰椎固定術を行うことも可能となっている。治療を担当するのは4名の脊椎外科専門医を中心としたスタッフで、日本整形外科学会専門医の資格に加えて日本脊椎脊髄病学会指導医の資格も有している。さらにBKP、XLIF、OLIF手術認定医もいる。手術室や病棟のスタッフも脊椎外科の専門的な治療、ケアに習熟しており、内科をはじめとする他科との連携を密にとることで、心臓病や糖尿病、透析等の合併疾患がある方でも安心して手術を受けていただける環境が整っている。

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、轉法輪 光、北 圭介、西本竜史、草野雅司、宮村 聡

◆概 要

スポーツ医学センターは整形外科の中の一分野として、特にスポーツ傷害に苦しむアスリートたちをサポートすべく活動しています。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や設備、またそれをアシストするリハビリテーション部門が必要となります。さらにスポーツ復帰のためには単に病気や怪我を治すだけではなく、「よく治す」ことが必要であり、そのために磨かれた技術や小侵襲手術を可能にする関節鏡などの手術器具は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく一般の患者さんの治療にも応用されます。怪我をした方の社会復帰、生き活きた生活を送りたいという現代人の健康志向、それらに応え人々の健康維持に寄与するため、スポーツ医学科は日夜励んでいます。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の3部門でスポーツ傷害の治療に対応しています。いずれも関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術でアスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献します。

◆実 績

2019年度手術件数

膝関節グループ：348件

（鏡視下膝十字靭帯再建 68、その他鏡視下靭帯再建 13、鏡視下半月板手術 77、高位脛骨骨切り 63、その他の関節鏡視下手術72、ほか）

肩関節グループ：138件

（鏡視下腱板修復 87、鏡視下バンカート修復 19、人工肩関節 7 ほか）

手・肘関節グループ：434件

（骨折・偽関節手術 81、神経手術 90、腱・靭帯手術 29、離断性骨軟骨炎（肋骨移植など）23、関節鏡視下手術 39、ほか）

◆スタッフ（◎部長）

◎島田幸造、◎轉法輪 光、宮村 聡

◆概 要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療しています。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）の役を果たしています。また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な器官です。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能は欠かせません。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かせるよう診療に当たっています。

またそういった道具であるがゆえに、工作中などに手は怪我にあう頻度が高いことは否定できません。単に怪我や骨折を治すだけでなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使って全身の外傷治療にも当たっています。そして通常の怪我だけでなく、スポーツによる怪我や傷害も含め、多岐にわたる運動器の傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門です。

◆実 績

2019年度手術件数

手外科・外傷センター：434件

（骨折・偽関節手術 81、神経手術 90、腱・靭帯手術 29、離断性骨軟骨炎（肋骨移植など）23、関節鏡視下手術 39 ほか）

◆スタッフ（◎部長）

◎中田活也、◎西川昌孝、中谷宏幸、岡本泰典、中矢亮太、（副院長）大脇 肇

◆概 要

2015年4月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが4室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介元の医療機関や患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、3次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別の実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実 績（2019年度）：計475件

人工股関節置換術：249件

人工膝関節置換術：180件

大腿骨頸部骨折・人工関節周囲骨折：46件

◆スタッフ（◎部長）

◎波多祐紀、北原和子、横井 恵、竹村文吾、中村遼太、榎 由華子

◆概 要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格・再建マイクロサージャリー分野指導医資格を含む人員で高度な医療を提供する。また、診療科としては以下の認定を得ている。

- ・形成外科学会認定施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設
- ・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

◆実 績

2019年（平成31年・令和1年）の臨床活動の概要は下表の通りである。

集計期間 2019年1月1日～2019年12月31日

	入 院	外 来	計
全身麻酔での手技数	95		95
腰麻・伝達麻酔での手技数	19		19
局所麻酔・その他での手技数	87	233	320

疾患大分類手技数	入 院			外 来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	6		3			1	10
先天異常	3					5	8
腫瘍	47	2	43			203	295
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	3		1			5	9
難治性潰瘍	22	3	8			1	54
炎症・変性疾患	8	20	14			12	44
美容(手術)	2		2				4
その他	2		22			3	27

◆スタッフ (◎部長)

◎二宮晴夫、前田 香、丸本明彬：(技師長) 濱田浩志、他理学療法士24名、作業療法士7名、言語聴覚士1名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、事務員2名

◆概要

リハビリテーション科専任医師3名 [専門医2名 (内、指導医1名)]、理学療法士25名 [内、育児短時間勤務2名、育児休業中1名]、作業療法士7名 [内、育児休業中1名]、言語聴覚士1名、義肢装具士2名、健康運動指導士1名、クラーク2名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士7名、3学会合同呼吸療法認定士11名、がんのリハビリテーション研修修了者30名、サルコペニア・フレイル指導士2名、日本理学療法士協会認定理学療法士 [循環3名、運動器5名、脳卒中4名、管理・運営1名]、日本作業療法士協会認定作業療法士2名。

◆実績

■リハビリテーション科/室

① 新規オーダー件数(件) PT、OT、ST合計

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	312	274	275	294	304	263	294	295	290	308	389	304	3,602

② 実施単位数(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
PT	8,279	7,580	7,315	8,453	7,691	7,503	7,653	7,446	7,738	7,375	7,143	8,328	92,073
OT	1,620	1,490	1,633	1,849	1,834	1,640	1,893	1,779	1,821	1,998	1,619	1,887	21,063
ST	328	164	233	171	145	157	218	283	109	223	163	285	2,479

③ 心リハ外来(単位)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単位	341	237	216	369	339	363	366	267	226	208	162	224	3,318

④ がんリハ(単位数・対象実人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
単位	737	595	772	919	1,129	798	860	729	806	672	545	673	9,235
実人数	54	45	54	55	62	49	50	47	52	46	44	44	602

⑤ 退院時リハビリテーション指導料(件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	225	203	182	208	215	178	195	185	248	161	200	203	2,403

■義肢装具室

院内依頼総件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	89	96	69	100	81	63	87	82	85	77	73	90	992

その他(杖、弾性ストッキング等)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	80	62	77	101	77	86	9	70	79	67	62	80	933

院外からの依頼件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	2	5	4	2	2	2	3	4	5	1	4	5	39

■健康運動指導士

運動指導等(のべ総件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	40	44	75	51	35	62	58	57	51	19	32	31	555

◆スタッフ（◎部長）

（院長）山崎芳郎、（副院長）畑中信良、◎平尾隆文、◎野呂浩史、井出義人、酒井健司、大澤日出樹、大橋朋史、米田和弘、（外科レジデント）高山慶太、原 修一郎、吉田眞之

◆概要・実績

＜消化器外科全般＞

2019年の消化器外科の手術件数は639件、そのうち全身麻酔症例は535件であった。大阪府がん診療拠点病院として、食道癌15、胃癌58、大腸癌90、肝癌34、膵癌26例の手術を施行した。また放射線治療、化学療法、終末期の緩和ケアも多数担っており、消化器癌の治療に関しては、手術だけでなく、早期がんから緩和ケアまで悪性疾患のあらゆる段階での治療に対応した。

また、救急外来に搬送された急性腹症にもオンコール体制で対応し、消化管穿孔、腸管虚血、腸閉塞、急性胆嚢炎、急性虫垂炎などの手術を施行した。良性疾患については虫垂切除術47、腹膜炎手術30、胆嚢摘出術133、ヘルニア72例などを行った。

近年の外科手術のなかで内視鏡手術の占める割合は増加し続けており、当院でも2019年は394件で全身麻酔手術の74%を占めた。今後さらに増加することが予想される。

＜上部消化管＞

食道癌、胃癌、胃GIST（粘膜下腫瘍）、胃十二指腸潰瘍穿孔が主な治療の対象になる。上部消化管は副院長；畑中信良、担当部長；平尾隆文、担当部長；野呂浩史の3名のスタッフが担当した。心肺有合併症例、高齢者の手術が増加するなか、質の高い医療を目指し積極的に診療に臨んだ。

食道癌：本年は15例の手術症例を経験した。うち胸部食道癌に対する根治術は8例であり、大阪大学医学部山崎誠准教授を招聘し、腹臥位胸腔鏡下食道切除の導入を推進した。食道癌は他の消化器癌と異なり、放射線療法、化学療法の効果が期待できるので、手術と組み合わせた集学的治療により、治療成績のさらなる向上を図ることができる。本年も消化器内科、放射線科、などと連携した非切除症例の治療も数多く担当した。

胃 癌：本年度の胃癌手術症例は63例であり、年々減少している。近年、内視鏡治療の適応拡大、HP感染率の減少に伴い、外科手術数は減少しているが、胃癌の手術術式は多様化しており、進行がんに対する腹腔鏡手術、胃の機能温存手術（幽門保存手術、噴門側胃切除）など新たな術式に取り組んだ。胃癌に対する化学療法においても、大きな変化がみられた。当科は大阪大学消化器外科分科会、大阪消化器癌化学療法グループ（OGSG）などの治験に多く参加するとともに、大阪大学消化器外科先進化学療法開発部とそれぞれの症例を検討させて頂いている。新規抗がん剤であるNivolumabの導入は野呂部長を中心に行われ、多くの患者さんに適用した。進行癌においては術前後の化学療法と手術の組み合わせが必須であり、今後の課題でもある。

＜下部消化管＞

大腸癌、大腸癌イレウス、憩室穿孔腹膜炎、GISTが主たる治療の対象となる。下部消化管は2018年9月以来大澤日出樹医長が1人で担当してきたが、2019年4月の井出義人部長の赴任により2人態勢となり、

2019年6月の大澤医長の内視鏡技術認定医取得により、技術認定医2人の充実した布陣となった。

大腸癌は本年男女合わせると死亡率は癌の中で一番高く、今後は更に患者数が増加することが予想される。当院では腸閉塞を来すような進行癌症例に加え、ESD後の追加切除も多く行われている。

手術は大部分が腹腔鏡手術で行われ、minimal invasive surgeryの典型的なものとなってきている。2018年は結腸癌手術57例、そのうち腹腔鏡手術は52例（腹腔鏡手術割合91%）、直腸癌手術19例、そのうち腹腔鏡手術は18例（腹腔鏡手術割合95%）であった。上部消化管と比較すると腹腔鏡手術の割合は高かった。また、虫垂炎手術は全例腹腔鏡下に行われた。

術後補助化学療法は、UFT/LV、Xelodaといった経口抗がん剤とともにmFOLFOXを選択してきたが、最近はより簡便なXeloxに移行している。Stage IV症例を含めた進行再発大腸癌に対してはmFOLFOX、XELOX、FOLFIRI、IRISに、分子標的薬アバスチン、アービタックス、ベクティビックスを併用した、多剤併用療法を行っている。

<肝胆膵外科>

昨年に引き続き酒井、大橋の両医長が担当した。

胆石症、胆嚢炎、肝嚢胞、膵嚢胞、脾腫などの良性疾患から肝臓癌、胆道癌、膵臓癌などの悪性疾患までさまざまな疾患に対応して診療を行った。診断、治療方針の決定については消化器内科、放射線診断科と定期的に症例検討会を行い、密に連携をとることにより安全かつ良質な医療を提供することを心掛けた。

悪性疾患に関しては癌の進行度と患者様の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法（抗がん剤）・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めた。また、他診療科医師、がん看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士などの多職種で連携し、患者様にとって常にベストの医療を選択出来るように心掛けた。手術方法に関しては根治を目指した拡大手術から、安全性、根治性を検討しながら腹腔鏡下肝切除・膵切除などの低侵襲手術までさまざまな手術が行われた。

良性疾患に関しては、低侵襲で整容性に優れた腹腔鏡手術を積極的に行った。特に急性胆嚢炎にする治療方針は「急性胆管炎、胆嚢炎診療ガイドライン（Tokyo Guideline 2018（TG18）」に準じて早期手術を行う方針を遵守した。

肝胆膵外科の2019年の手術実績は以下のとおり。

悪性疾患：61例（高難度手術症例：27例）

肝 癌：34例（高難度手術：9例、腹腔鏡下手術：19例）肝静脈再建：2例、二区域（以上）肝切除：3例、区域切除：4例、亜区域切除：4例、部分切除：21例

膵 癌：12例（高難度手術：10例）膵頭十二指腸切除術：6例、体尾部切除術：4例

胆 道 癌：15例（高難度手術：8例）膵頭十二指腸切除術：8例、胆嚢床切除・肝門部リンパ節郭清：3例、腹腔鏡下胆摘：4例

良性疾患：134例（腹腔鏡下胆摘：125例、開腹胆摘：6例など）

<一般外科、その他>

そのほかにヘルニア手術を72例（うち腹腔鏡手術47例）、婦人科を中心に他科応援手術を多数行った。

◆スタッフ（◎部長）

◎岩崎輝夫：(外科レジデント) 高山慶太、原 修一郎、米田和弘、吉田眞之

◆概 要

外科チームの一つとして、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。毎週、呼吸器内科と放射線治療科と合同で呼吸器合同カンファレンスを開催している。多彩な呼吸器疾患に対して、診断や治療方針などを検討している。特に、肺がんに関しては治療方針の決定と共に、術前治療や術後補助化学療法、更に再発症例に対する化学療法（分子標的治療を含む）や放射線治療に関しても検討しており、集学的治療が円滑に行われるように努めている。個々の肺がん患者さんに関して診断から治療、そして再発時に至るまで外科、内科および放射線科で情報共有できる体制をとっている。

原発性肺がんに対する手術は胸腔鏡補助（併用）下手術を基本としている。外科専門医を目指す後期研修医には、気胸、転移性肺腫瘍や一部の縦隔腫瘍に対する手術の術者が経験できるように指導している。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実 績

2019年全身麻酔下手術総数は34例で内訳は以下の通りである。

原発性悪性肺腫瘍：18例（部分切除 6例、葉切除 12例）

気 胸：8例 原発性 3例、続発性 5例）

転移性肺腫瘍：3例（大腸 2例、食道 1例）

縦隔腫瘍：4例（胸腺腫 1例、先天性嚢胞 3例）

気腫性肺嚢胞：1例

胸腔鏡（補助）下手術は29/34例（76%）であった。手術死亡および在院死亡は無かった。

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本文音、岡田公美子、趙 明美、菅 恵梨、瀬戸友希子、北原友梨

◆概 要

スタッフの体制は部長1名、医長1名、医員1名、専攻医3名。診療内容は乳腺・甲状腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekdayはすべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っている。また、初診は予約枠を設けているが、他医療機関から紹介がない場合も受け入れている。

確定診断が難しい微小乳癌や非触知乳癌が、当科では乳房専用の吸引式組織生検システムにより診断可能。乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能。

がん患者さんに対するアピアランスケア：乳がん患者生活コーディネーター（抗がん剤、放射線治療の経験者）による、抗がん剤、ホルモン剤、放射線療法などの治療を行う際のメイク、下着、かつらや、その他生活全般に関する疑問、悩みに関する相談をお受けする場を設けています。（月1回開催）

将来の出産を希望されている患者さんには、当院の産婦人科の「生殖医療の専門医」を紹介するサポート体制あり。

◆実 績

乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術)	55例 一期的乳房再建 4例
乳腺悪性腫瘍手術(乳房温存手術)	44例
乳腺良性腫瘍に対する手術	16例
甲状腺癌に対する手術	7例
甲状腺良性疾患に対する手術	2例
その他	16例

◆スタッフ（◎部長）

◎北林克清、◎丸本明彬、田中健史

◆概 要

JCHO 大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。これに加えて2019年4月より大阪市西部地区では唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の実施施設認定を取得しました。ハートチームとして循環器内科との連携がより強化されたことにより、引き続き手術症例数が増加しています。

その他の弁膜症や冠動脈疾患についても、低侵襲心臓手術（MICS）を積極的に取り入れるなど、今後ともそれぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

◆実 績

2019年（1月1日～12月31日）

手術総数 148例

開心術数 82例（冠動脈 18例、弁膜症 37例、胸部大動脈 25例、その他 2例）

◆スタッフ（◎部長）

◎岩本文徳、◎山際啓典、呉村有紀

◆概要

当科は昭和43年5月に開設された伝統ある科です。開設以来、市内はもとより近隣市より患者さんを紹介していただき、治療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中センター・脳ドックを担当しています。3人のスタッフで診療指針を尊重し治療をおこなっています。脳卒中センターは24時間365日体制で神経内科と協力して運営しています。

当科では低侵襲手術をモットーに治療法を選択しています。

医療技術の進歩も積極的に取り入れ、開頭手術だけでなく、内視鏡手術や定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）にも積極的に取り組んでおり、患者さんの立場に立った医療を心掛けています。脳血管内治療では、脳動脈瘤に対してのコイル塞栓術、脳動静脈奇形や硬膜動静脈瘻に対しての塞栓術、内頸動脈狭窄症に対してのステント留置術など幅広く行っています。

超急性期脳卒中においてはtPA治療は当然のこととして、経皮的血栓除去術に力を入れており、Penumbra 3MAX、5MAXを始めとした吸引システムを用いた治療法からSolitaire、Trepoなど新しいデバイスの整備を果たし、tPA症例数、経皮的血栓除去術症例数ともに増加しており、去年は経皮的血栓回収術は16例に達しております。手技が確立され、再開通に要する時間が短縮されるに従い、適応血管も拡大し、Golden timeは徐々に延長し、発症後、24時間以内であれば血栓回収の適応を検討しています。対象症例があれば、是非ともご紹介ください。脳腫瘍においてはナビゲーションシステムを用いた精度の高い治療を心掛けており、今後の低侵襲手術の方向性を踏み出すべく、傍トルコ鞍部腫瘍に対して、内視鏡手術を導入し、専門的スタッフの招聘、機器、物品の整備を行い、着実に症例数を増やしつつあります。悪性神経膠腫を始めとした悪性脳腫瘍の治療に関しては、新WHO脳腫瘍分類が改訂され、形態学的な病理診断学に加えて、分子診断がルーチン化される時代の到来が論じられており、当院でも関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワークに加わり、グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメイド治療法の作成に関しての臨床治験に参加し、充実した治療体制を構築しております。更に手術療法、化学療法、放射線療法に次ぐ、新しい治療として交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実績

入院患者総数 延べ約9,400名（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

【脳腫瘍・脊髄腫瘍】

転移性脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫、悪性リンパ腫、神経鞘腫、脊髄髄膜腫

【脳血管障害】

高血圧性脳内出血、くも膜下出血、脳動脈瘤破裂・未破裂脳動脈瘤（クリッピング術、コイル塞栓術）、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、もやもや病、脳梗塞（tPA静注療法、機械的血栓回収療法）、頸動脈狭窄症（CEA、ステント留置術）、バイパス術

【頭部外傷】

急性硬膜下血腫、急性硬膜外出血、外傷性脳内出血、外傷性くも膜下出血、慢性硬膜下血腫

【水頭症】

二次性水頭症、特発性水頭症

【感染症・その他】

脳膿瘍、シャント感染、術後頭蓋骨欠損

令和元年度手術件数：154例

◆スタッフ（◎部長）

◎畑崎聖弘、出口有近、三田 梓、中嶋玲那、是松望美

◆概要

当科では糖尿病を代表とする代謝疾患、ならびに、内分泌疾患の診断と治療を行います。

近年、ホルモン測定法と画像診断の進歩により、内分泌疾患の診療は、より正確で負担が少ないものへと発展してきました。当科では、ホルモンの過不足を評価して適切な治療法を選択し、患者さんの生活の質を高めることを目指しています。

一方、糖尿病治療では、UKPDSなどの大規模臨床試験の結果からLegacy effect（遺産効果）と言われるように、糖尿病に合併する冠動脈疾患などの進展抑制に対して糖尿病発症早期からの血糖コントロールの重要性が指摘されています。当院では強化インスリン療法による糖毒性の解除を積極的に行っており、入院中に一時的にインスリン治療を行ったのち患者さん個々にとってベストな治療を模索し、外来で良好なコントロールを維持するよう努力しております。

さらに、1型糖尿病の患者さんを対象に最新のインスリンポンプを用いたCSⅡを行っており、幅広い患者さんに対応しております。また、持続血糖モニターシステム（CGM）を導入し、患者さんのよりよい血糖コントロールに役立っています。外来でのCGM施行も行っております。

◆実績

主要内分泌疾患患者実数（令和1年4月1日～令和2年3月31日）

【甲状腺】

バセドウ病：175、橋本病（慢性甲状腺炎）：231、甲状腺クリーゼ：3

【副甲状腺】

副甲状腺機能亢進症：219、原発性副甲状腺機能低下症：1

【下垂体】

下垂体前葉機能低下症：1、汎下垂体機能低下症：18、リンパ球性下垂体炎：2、成長ホルモン分泌不全症：1、尿崩症：10

【副腎】

原発性アルドステロン症：59、クッシング症候群：9、褐色細胞腫：13、副腎クリーゼ：3

【性腺】

性腺機能低下症：6、ターナー症候群：2

【糖尿病】

1型糖尿病：108、2型糖尿病：2,877

◆学会発表等

第63回日本糖尿病学会年次学術集会 2019年 5月23日(木)～25日(土) 仙台

- 複数の陽転化の原因が考えられた抗インスリン抗体陽性糖尿病の1例
是松望美（地域医療機能推進機構大阪病院 内科）、部坂有紀、白木 梓、出口有近、川嶋 聡、馬屋原 豊、畑崎聖弘
- GAがHbA1cに比し低値の症例におけるCGMの検討
出口有近（地域医療機能推進機構大阪病院 内科）、是松望美、部坂有紀、白木 梓、畑崎聖弘

第29回臨床内分泌代謝 Update in Kochi 2019年11月29日～30日 高知

- 健診指摘の心房細動から甲状腺ホルモン不応症を疑った1例
小椋紫芳、出口有近、是松望美、中嶋玲那、白木 梓、畑崎聖弘

第56回日本糖尿病学会近畿地方会

- 慢性炎症性脱髄性多発神経炎の治療経過中に緩徐進行1型糖尿病を発症した1例
是松望美、畑崎聖弘、出口有近、白木 梓、中嶋玲那、小椋紫芳
- ダバグリフロジンを併用した1型糖尿病の2症例
正廣紀衣、出口有近、小椋紫芳、是松望美、中嶋玲那、白木 梓、畑崎聖弘

◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木 朗、青木克憲、岩橋恵理子、山口 慧、後期研修医：森岡史行、松井 翔、加藤紗香、宮川博光

◆概 要

糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病、先天性腎疾患（多発性嚢胞腎）、電解質異常などあらゆる腎疾患に対応しています。末期腎不全に至った症例については、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入維持しています。また、自己免疫疾患、肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症、ASOに対するLDLアフェレーシス療法、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども実施しています。ICUにおける血液浄化療法も担当しており、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しています。

◆実 績

1) 外来診療

2019年に診療した患者数はのべ8,458例（昨年8,316例）でした。

2) 入院診療

2019年の入院患者数は395例（昨年385例）であり、腎生検32例（昨年40例）、血液透析導入39例（昨年36例）施行した。腎生検診断の内訳は下記の通りでした。

IgA 腎症	7
膜性腎症	2
糖尿病性腎症	4
ANCA 関連血管炎	3
巣状糸球体硬化症	3
微小変化型ネフローゼ症候群	3
尿細管間質性腎炎	1
紫斑病性腎炎	2
ループス腎炎	1
膜性増殖性糸球体腎炎	1
アミロイドーシス	1
その他	2

3) 血液浄化センター

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者13名、腹膜透析患者3名も管理されています。2019年の各療法実施件数は以下の通りでした。

HD	3,220	(-659)
online HDF	2,195	(+234)
PE(血漿交換)	41	(-24)
DFPP	3	(-3)
LDLアフェレーシス	25	(-7)
GCAP(顆粒球吸着)	15	(-9)
CART(腹水濾過濃縮)	13	(±0)
ICUにおける血液浄化	170	(-43)

◆スタッフ（◎部長）

◎田中陽子、竹嶋 好、田子謙太郎、馬場希一郎、藤並 舞

◆概 要

現在スタッフ5名（男性3名、女性2名）。11階東病棟。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（外来対応のみ）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水、各種間質性肺疾患、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群、在宅酸素導入、ARDSなど。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡を含む）、CTガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼吸抵抗検査、呼気NO検査、PSG検査。

◆実 績

主な入院：2019年度合計：699件

肺癌：378件

肺炎・気管支炎：123件

間質性肺炎：35件

気胸：15件

閉塞性肺疾患（COPD + 喘息）：17件

呼吸不全（含COPD急性増悪）：30件

サルコイドーシス：9名

結核・非結核性抗酸菌症：16名

敗血症：5名

中皮腫：4名

胸腺腫・胸腺癌：3名

ニューモシスチス肺炎：2名

ARDS：2名

気管支鏡検査：133件

EBUS-TBNA：15件

気管支内異物除去：1件

局所麻酔下胸腔鏡検査：8件

CTガイド下肺生検：10件

◆スタッフ（◎部長）

◎長田 学

◆概 要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。院内では各診療科からコンサルテーションを受けて主治医の先生と共に感染症患者の診療に当たっている。血液培養陽性例のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。

また院内感染予防対策委員、ICT（感染対策チーム）の委員長として、看護師、検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、予防接種などの業務も行っている。

研修医に対する感染症教育（レクチャー、グラム染色の実習など）にも力を入れている。

◆実 績

1. 院内コンサルテーション

2019年度は各診療科から診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間等について、延べ481件のコンサルテーションを受けて対応した。これは2018年度（137件）の3.5倍にあたるが、当院の病床規模を考慮すると、周辺の医療機関と比較すればこのくらいのニーズはがあると推測される水準である。

2. 血液培養陽性例への介入

血液培養が陽性になったら、細菌検査室より電話で連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した時は主治医または担当医に連絡し、治療方針について協議し、重要症例については主治医の許可を得て診察をし、必要があればその後も定期的にフォローした。496件の陽性例があり、その1/3程度について介入を行った。

3. 特定抗菌薬許可制

2002年（平成14年）3月より導入された制度で広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、担当医と協議する。2019年度は866件の使用許可の申請があった。

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）伊藤敏文、◎巽 信之、◎山本克己、濱野美奈、日山智史、貫野知代、石見亜矢、大西良輝、徳田有記、澤村真理子、中村弘樹、三浦勇人、奥村りさ、高木康広

◆概 要

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療活動・医療行為の安全かつ、円滑な運営を図るように努めている。
- 肝疾患領域では、今後も抗ウイルス療法の導入を行い、ウイルス性慢性肝疾患の治療の必要性の周知を医療関係者を含めた衆人への周知・徹底に努め、院内におけるウイルス性肝疾患の見落としを未然に防止する方策を検討している。また、非ウイルス性肝疾患の診断と治療も行い、栄養管理も含めた慢性肝疾患の診断・治療を行っている。
- 膵疾患領域においては、近隣に専門医が少なく、紹介患者数も多く、慢性膵疾患の症例集積がさらに増加している。
- 消化管疾患においては、食道胃酸逆流症や機能性胃腸症、ヘリコバクターピロリ感染症についても地域への情報発信を行っている。加えて、ダブルバルーン内視鏡検査やカプセル内視鏡検査も導入し、小腸領域を含めた炎症性腸疾患の適切な診療にも取り組んでいる。
- 癌診療領域においても、肝胆膵系と消化管系の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、積極的に内視鏡治療や超音波器機を用いた低侵襲癌治療を推進している。また、緩和医療も考慮した終末期医療についても取り組み、また、癌登録も的確に行っている。院内のキャンサーボードとして、消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・外科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、加えて治療後の評価を行っている。
- 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。
- 地域連携を推進するために、本院主催での研究会を行っている。加えて、地域医師会や医療機関と協力し、地域連携を目的とした研究会を開催し、よりよい情報提供を企画し、地域医療機関との連携を更に深めるため、本院からの情報発信に取り組み、地域医療機関向けの研究会を立ち上げ、開催し、今後の企画を進めている。
- 患者教育のために、消化器病懇話会の定期的な開催を継続的に行うとともに、地域医師会と医療機関と連携して市民公開講座を定期的に行っている。
- 臨床医としての基盤の形成に努め、良質な臨床研究を行い、医療の倫理を自覚すると共に、医療の質の向上を担保した病院としての立ち位置を地域に発信していきたい。常に、臨床研究的な視点を持つことにより、医療の質とその安全性を意識し、各職種との協力により、患者さん中心の診療となるように努力し教育したい。このことは、医師としての全人教育を行うことになると考えている。
- 消化器内科として、診療の質向上に努め、病院運営に貢献できるように努めている。適切な教育・指導により人材確保と養成を行いたく考えている。この点を円滑に行うために、大阪大学との協力関係を維持し、良好な関係の構築の維持に努めると共に、地域医療機関と協力し、地域としての医療向上を目指し、また、地域住民への医療の啓蒙を行い、診断治療のみならず、一歩進んだ予防医療の構築に貢献出来るように心がけている。

◆実 績

- 消化器内科領域の指導医・専門医としての、診療活動と診療指導を行い、消化器内科医師及び各スタッフの協力により、近隣から救急搬送を含む依頼を断ること無く対応し、緊急入院の600有余名を含む、昨年度は新入院患者総数約2,300名の入院を担当している。また、内視鏡センターにおける内視鏡検査と手術件数は増加傾向にあり、内視鏡件数も一万件以上を達成している。
- 内科の運営にも協力し、内科系の医療の質向上にも努めている。
- 各職種と連携して、医療・看護教育活動も定期的に開催し、また、他職種に対する薬剤情報の広報にも努めている。
- 診療実績の維持を図りつつも、男女雇用機会均等を意識し、勤務体制・環境の適正化に努めている。

◆スタッフ（◎部長）

◎長谷川新治、◎小笠原延行、◎岡田昌子、三好美和、佐伯 一、大八木秀和、有田 陽、安村かおり、藏本見帆、福井智大、江田優子、山本将平、七條加奈、末谷悠人、廣瀬江祐

◆概要

冠動脈疾患・末梢動脈疾患・心不全・弁膜症・心筋疾患・不整脈・成人先天性心疾患・静脈血栓塞栓症・睡眠時無呼吸症候群など、各種循環器疾患の診断・治療を行っている。心臓カテーテル検査・心臓超音波検査・心臓核医学検査・冠動脈CT・心臓MRI など循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、運動負荷試験、心筋シンチ、FFRなどを用いて、虚血の評価を行い、血行再建の適応を厳密に行ったうえで、症例ごとに最適な治療を行っている。ロータブレードによる石灰化病変へのインターベンションや慢性閉塞性病変への血行再建も可能である。ステント留置のみならず、薬剤溶出性バルーンを用い、ステントレスのインターベンションも試みるようにしている。

不整脈に関しては心房細動や心室頻拍など、各種不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行っており、予後に対する成績評価・有効性を検討している。また、発作性心房細動に対するクライオバルーンは通常に施行可能であり、ホットバルーンやレーザーバルーンなど新しい技術も導入し幅広いアブレーションが可能となった。徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療をはじめ、致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。植込み型除細動器に関しては、感染のリスクが少ない皮下植込み型除細動器を用いるケースも増えている。また、通常のペースメーカー植込みが困難な場合には、リードレスペースメーカーをカテーテル的に挿入したり、より生理的なペーシングを目指して中隔ペーシング、ヒス束ペーシングも行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛け、カテーテル的血栓溶解療法も行っている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸外来を週1回行っており、ポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。ハイブリッド手術室の導入により、大動脈疾患・末梢動脈疾患の治療が大幅に改善された。急性大動脈解離に関しては循環器内科にて初期対応・診断を行い、迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療の対応が可能となった。また、2019年度より経皮的カテーテルの大動脈弁留置術（TAVI）実施施設としての認定もされ、実際に治療を開始している。

救急医療には積極的に対応しており、ホットラインも駆使し、24時間体制で、救急隊や地域医療施設からの救急患者を受け入れている。

◆実績

年間の治療件数

冠動脈インターベンション：149件（急性心筋梗塞 42件）	経食道心臓超音波検査：150件
末梢動脈疾患インターベンション：58件	心臓核医学検査：601件
カテーテルアブレーション：168件	冠動脈CT：411件
新規ペースメーカー植込み：21件（そのうちICD 4件）	心臓MRI：19
経胸壁心臓超音波検査：約5,000件	

有田・瀬川・福井による症例報告を中心とした英語論文が掲載された。学会では日本循環器学会・日本心血管治療学会・日本不整脈学会・日本心臓リハビリテーション学会・日本心臓超音波学会などに症例報告・不整脈・心臓リハビリ・心臓超音波に関する研究成果の発表を行った。

冠動脈インターベンションでは小笠原が学会やライブにてコメンテータとして貢献し、日本心臓核医学会からの依頼により、心臓核医学の普及・教育を目指して、長谷川が研修会の講師を行った。

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原友貴、西平守明、太田朝子

◆概 要

地域医療支援病院として近隣の施設からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬においては日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。またナローバンドUVB、エキシマライトなどの治療も行っています。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

皮膚腫瘍ではダーモスコピー、表在エコー、皮膚生検による診断や摘出術を行っています。

陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています（一部自費診療）。

そのほか、液体窒素凍結療法、局所免疫療法（SADBE）、パッチテスト（パッチテストパネルS、金属アレルギー）、光線テストに対応しています。

◆実 績

（平成31年4月～令和2年3月31日）

【診療実績】

外来患者数：12,670人

入院患者数：2,519人

手術件数：168件

生検件数：531件

陥入爪・巻き爪（自費診療）の治療件数：10件

【業 績】

論文・著書 英文：1編

和文：1編

学会・研究会発表：3演題

◆スタッフ (◎部長)

◎藤本宜正、山口唯一郎、伊藤拓也

◆概要

2019年は常勤医3名、非常勤医（外来のみ）2名の構成で、1月～12月の診療実績は外来延患者数12,018人、新患者数（初診）309人、外来1日平均患者数49.7人、入院延患者数4,048人、新入院患者数367人でした。

泌尿器科外来では透視下の処置・手術も行っており、2019年は尿管ステント留置術162件、尿管ステント抜去術46件、経皮的腎瘻造設術5件、前立腺生検72件でした。

手術室での手術件数は下記のとおりで、全件数は前年から15件減少しました。生体腎移植術は2件実施しました。腹腔鏡手術は前年から2件増加しました。

尿路結石症の治療は、レーザーを用いて碎石する内視鏡手術が現在の主流となっており、毎年30件前後実施しています。体外衝撃波結石破碎術（ESWL）も年間20件前後行っています。

◆実績

泌尿器科年間手術件数（2019年1月～12月）

年間手術件数(ESWL以外) 199件

開放手術 44件	腹腔鏡手術 22件
副甲状腺摘除 4件	副腎摘除 2件
腎(尿管)摘除 1件	腎(尿管)摘除(移植以外) 17件
腎部分切除 2件	ドナー腎摘 2件
腎移植 2件	腎部分切除 1件
腎瘻 1件	
尿管皮膚瘻 1件	内視鏡手術 133件
膀胱尿管新吻合 2件	経皮的腎切石 2件
膀胱摘除 3件	経尿道的尿管碎石 28件
回腸導管造設 1件	経尿道的膀胱腫瘍切除 72件
陰嚢内容手術 5件	経尿道的前立腺切除 12件
尿道手術 6件	経尿道的膀胱碎石 3件
陰莖手術 2件	膀胱異物摘出 1件
その他 13件	その他 15件

年間ESWL件数 25件(24人・56回)

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井建紀、◎大八木知史、清原裕美子、梶本恵津子、尹 純奈、梅澤奈穂、田伏真里、永井麻衣、那須瑞貴

◆概 要

9名のスタッフで、外来診療・病棟診療・分娩・手術を行っています。

◆実 績

平成31年/令和1年度は、分娩数551件（うち帝王切開術 109件、吸引分娩 54件、鉗子分娩 5件）、婦人科手術数 319件（うち悪性腫瘍手術 27件）を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。しかし症例により、必要に応じて分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適宜行っています。妊娠35週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週以前の早産症例については、近隣の適切な分娩施設をご紹介します。また、医学的に必要な症例に限定して無痛分娩を実施しています。

婦人科診療では、良性腫瘍・悪性腫瘍に対する手術療法や薬物療法、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術）・腔式手術を行っています。また、月経異常・更年期障害など、卵巣機能に関わる女性特有の症状に対して、ホルモン治療・漢方薬治療など、それぞれの患者さんに適した治療法をご提案します。

現在、多くの医療情報はインターネットなどを介して得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療と紹介されている情報は、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんによって最適な治療法は異なります。私たちは患者さんと向き合い、話し合いながら、何が最適な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、またあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力をしています。

なお、当院は、

- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本女性医学学会専門医制度認定研修施設

に認定されています。

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒伸行、◎眞下 永、南 高正、春田真実、梅本弓夏、河 共美、梅村亨平：視能訓練士8名

◆概 要

常勤医師7名（専門医4名）、非常勤医師3名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。特に、眼炎症、緑内障、網膜硝子体を得意分野としております。斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

◆実 績

平成31年1月から平成31年12月において、白内障手術722件、網膜硝子体手術111件、緑内障手術66件、を行っております。バネチット病に対するレミケード治療を受けている方は約40名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療約55名、眼内悪性リンパ腫の治療・経過観察を受けている方は約60名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

◆スタッフ (◎部長)

◎小川 真、増村千佐子、寺田理沙、天野雄太、福田雅俊

◆概 要

耳鼻いんこう科は、その名が示す通り、耳・鼻副鼻腔・咽頭・喉頭の領域を専門とする診療科ですが、口腔・頸部の領域も含まれます。また脳神経が関与する聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの感覚の障害、および、摂食嚥下・音声言語などの口腔・咽喉運動の障害も取り扱います。

私たちの病院では、「声がれ」などの音声障害、「むせ」「誤嚥」などの嚥下障害、「睡眠時無呼吸」などの気道の障害に加え、「鼻漏」「鼻閉」「口呼吸」などを伴う鼻副鼻腔疾患の治療を専門としております。特に音声障害・摂食嚥下障害については、専任の言語聴覚士によるリハビリテーションを受けることが可能です。

その他、突発性難聴・めまい・顔面神経麻痺などの耳の疾患や、耳鼻咽喉・頸部領域の感染症まで、一般的な耳鼻いんこう科疾患を対象に治療をおこなっております。また当院での治療が難しい悪性腫瘍などの疾患であっても、大阪国際がんセンターや大学病院などの各専門病院へ適宜紹介を行っております。以上、広い範囲の耳鼻咽喉・頸部領域の症状に対応させていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設

日本気管食道科学会認定研修施設

◆診療内容

声帯腫瘍(ポリープ・嚢胞・結節など)	顕微鏡下喉頭微細手術・薬物治療など
声帯麻痺	披裂軟骨内転術・甲状軟骨形成術 声帯内脂肪またはコラーゲン注入術など
機能性音声障害	言語聴覚士による音声治療など
摂食嚥下障害	嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術、嚥下訓練指導など
閉塞型睡眠時無呼吸症候群	CPAP 治療・鼻腔形態改善手術・咽頭形成術など
上気道狭窄・閉塞	気管切開術・声門開大術など
慢性扁桃炎・扁桃肥大・アデノイド増殖症	口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術など
慢性副鼻腔炎・鼻中隔彎曲症	内視鏡下鼻副鼻腔手術など
突発性難聴・顔面神経麻痺	ステロイド点滴・デフィブラーゼ点滴治療 (デフィブラーゼは突発性難聴のみ)
唾液腺腫瘍	唾液腺腫瘍摘出術など

◆実 績

手術件数 (2019年)

喉頭微細手術	60	頸部良性腫瘍・腫瘍手術	13
喉頭形成手術	8	頭頸部悪性腫瘍手術(頸部郭清術含)	3
声帯内注入術	25	気管切開術	9
嚥下関連手術	2	鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術	44
口蓋・咽頭扁桃摘出術	129	その他	22
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	128	合 計	441

◆スタッフ（◎部長）

◎山田寛之、石浦嘉人、柏木博子、長松有衣子、泉井雅史、岸本加奈子、原田大輔、近藤可愛、阪本夏子、折山恭子、上山 薫、埴岡由樹

◆概 要

平成31年度は小児科医13名（指導医6名、専門医10名、専攻医1名、産休・育休2名）が、小児科に在籍した。主任部長の難波範行が8月31日で退職し、9月1日より鳥取大学医学部周産期・小児科学分野教授に就任した。後任として9月1日より山田寛之が主任部長となった。また、9月1日にJCHO大阪みなと中央病院より石浦嘉人が着任した。令和2年3月1日現在12名の小児科が在籍している。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで対応可能な総合小児科であり、大阪市西部地域小児医療の基幹病院として、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。最大の特色は、小児慢性特定疾病に指定されている難病、特に小児内分泌疾患、骨系統疾患、小児神経疾患、小児循環器疾患などを対象とした専門医療も提供できる点である。また、臨床治験や臨床研究にも積極的に参加している。

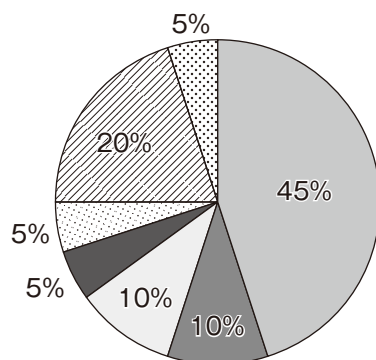
外来は3診制で、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。現在、内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経・重症心身障害児、循環器、アレルギー、小児精神、心理相談の専門外来を開設している。

病院の8階全体が女性・子どもフロアとなっており、小児病棟は8階西病棟にある。一般小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルームと病児保育室を備えており、急性疾患・新生児疾患に加え、難治性疾患の入院診療にも対応している。また、大阪市中心急病診療所の後送病院業務も担っている。

◆実 績

(人)

入院延患者数（NICU）	6,633（1,284）
新入院患者数（NICU）	992（211）
外来延患者数	9,733
救急時間外延患者数	1,119



疾患比率

- 感染症(気管支炎・肺炎・腸炎・尿路感染症)
- 骨系統・内分泌疾患
- てんかん・熱せいけいれん・重症心身障がい児(者)
- 川崎病・心疾患
- アレルギー疾患(喘息・アナフィラキシー)
- 新生児
- その他

◆スタッフ（◎部長）

◎山森英長、百崎詩子、竹治怜那、精神保健福祉士1名、非常勤心理療法士5名

◆概 要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス関連障害、不安障害、気分障害、統合失調症の治療、診断の難しい精神疾患の診断、また、思春期・青年期（高校生以上）の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を行ったり、また、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応をチームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行っているとともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携（リエゾン）精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実 績

令和元年度診療実績（平成31年4月～令和2年3月）

		合 計	月平均
外 来	初 診	250	20.8
	再 診	8,823	735.3
リエゾン	初 診	366	30.5
	再 診	1,834	152.8

延べ診察数：11,273

1日当たりの平均診察数：47.0

◆スタッフ（◎部長）

◎上田周一、◎寺川晴彦、山下和哉、明浦公彦

◆概要

当科は平成8年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断やボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

日本神経学会よりの勧告に従い、平成31年5月より標榜科名を、神経内科から脳神経内科に変更した。

◆実績

脳神経外科と連携してのSCU9床の稼働率は例年通り90%以上で推移していた。

本年度は山下医師が医長に昇任し、4名での病棟運営を継続した。院外からの当直専従医（久保田智哉・由上登志郎・杉山慎太郎・杉山靖子各医師）の補助もあり、一般病床を含めて、年間約300名の新入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科 山際部長との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、2年連続して年間25例を超え、学会が求める施設目標を達成した。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調である。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、ALS（筋萎縮性側索硬化症）：1例、脊髄性筋萎縮症（SMA）：1例、パーキンソン病：10例、多系統萎縮症：1例、脊髄小脳変性症：4例、多発性硬化症：3例、重症筋無力症：5例、ギランバレー症候群：9例、髄膜炎を含めた神経感染症：14例、てんかん：14例などであった。

本年度より日本神経学会の准教育病院から教育病院に昇格した。学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修医1年目5名、2年目3名の初研修医と日生病院からの内科専攻医1名が当科で研修した。

◆スタッフ（◎部長）

◎白杵則朗、田中佐織、大倉隆介、崔 朝理、米田昌平

◆概 要

高度医療において不可欠なCT、MRI、RI等の画像診断の大部分を行うとともに、カテーテル技術を駆使する画像下治療（IVR）を行っている。今年2月には、1.5Tの最新型のMRIが導入され画像のニーズにさらに対応できるようになった。上記画像診断装置に対しては、近隣医療機関からの依頼もうけ、医療連携に努めている。

現在、4人の放射線診断専門医が在籍し、日本医学放射線学会より放射線専門医修練機関に認定されている。

◆実 績

	平成31年・令和元年	平成30年
CT	18,262	19,292
MRI	9,861	9,446
RI	569	656
検査紹介	696	764
IVR	81	94

◆スタッフ（◎部長）

◎西多俊幸、前角智子

◆概要

放射線治療科は、その名のとおり放射線治療を専門としています。そのため対象疾患はほとんど全てが悪性腫瘍です。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックである Elekta 社製 Infinity が設置されています。当科で行う全ての放射線治療はこのリニアックを中心に構成された一連の装置群を運用することで実施します。強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには、旧来の放射線治療とは次元の異なる高度な物理学的知識が必要とされ、医学物理の専門家による支援が不可欠です。さらに治療医や放射線技師も新たな知識や技術の習得を求められています。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、限られたスタッフで可能な限りの高精度照射も提供できるように努めています。

◆実績

高精度放射線治療としては強度変調放射線治療と体幹部定位照射を行っています。

体幹部定位照射の対象は現在のところ肺と肝臓です。

2019年（1月～12月）

のべ照射件数	3,711件	
治療計画数	213件	（1門・対向2門：30、非対向・3門：41、4門以上：109、高精度：33）
総照射部位数	167部位	（乳房：51、骨：35、肺：25、前立腺：10、脳：17 など）
全治療患者数	158人	（原発巣別 乳癌：57、肺癌：48、泌尿器系：15 など）
高精度照射	29件	（強度変調照射：21、体幹部定位照射：8）

◆スタッフ（◎部長）

◎中谷桂治、◎栗田 聡、八木真実、山間義弘、濱田 拓、村田久仁子、佐藤八江、福岡功士、大畑百恵

◆概 要

現在スタッフは9名（麻酔科部長、集中治療部部長、医長5名、レジデント2名）で、それ以外に非常勤医師に応援に来てもらっています。大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修として1年間、研修をうけいれております。初期臨床研修医は1年目に全員、麻酔科での研修が必須とされており、2か月間、麻酔の基本を中心に研修してもらっています。

手術室は12室ありますが、麻酔科の管理枠としては最大7列としております。

ICUは栗田部長を中心に日勤帯は専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行い、当直業務は麻酔科と心臓血管外科で行っています。

本院の麻酔科の基礎を築かれた久保田行男先生、その教えを忠実に守られた豊田芳郎先生らの時代は何よりも患者さんの「安全」を最優先に考えておられました。麻酔科管理症例のほぼ全例に病棟での胃管挿入、経鼻挿管時の意識下挿管、小児の意識下での静脈路確保、麻酔導入前のAライン挿入など、時として患者さんの苦痛を伴う処置であったことも否定はできませんが、安全重視という理念はこれからも受け継ぎ、手術室での医療事故がないように努めていきたいと思っております。

ただ時代の流れとともに管理方法も少しずつ変遷し、気管挿管の器具においては、以前はマッキントッシュ型喉頭鏡だけでしたが、今ではマックグラスというビデオ喉頭鏡を用いることで、挿管困難症例でも容易に挿管できるようになりました。また中心静脈カテーテル挿入に関しては、エコーを用いることで手技を安全かつ容易に行うことができるようになりました。

新病院からは手術室部門システムを導入し、麻酔記録が電子化されバイタルの記録が自動化されました。これにより患者さんの急変時にも正確な記録が残ると同時に、記録業務が省けることで、迅速な対応に専念できるようになりました。

今後、ますます手術件数の増加が予想されますが、どのような場合でも基本である患者さんの安全を忘れることなく、術中管理は言うに及ばず術後の回復も考慮した麻酔を心掛けていきたいと思っております。

◆実 績

2019年度の手術症例数は5,107例で、そのうち麻酔科管理症例は3,070例（全身麻酔2,671例、脊椎麻酔399例）でした。

◆スタッフ（◎部長）

◎藤本佳之、内田修爾：歯科衛生士3名

◆概要

部長および医員（場合によりレジデント）は大阪大学歯学部第一口腔外科の出身であり、同科の関連病院として動いています。治療対象疾患は口腔外科疾患全般です。ただし、悪性腫瘍については関連病院に紹介しています。一般歯科診療は原則行わず、他科入院患者の入院中の応急的な歯科処置のみ行っています。診療は外来での口腔外科処置を主に行っており、入院全麻症例の手術は奇数週の金曜日のみ行っています。

◆実績

2019年の初診患者数は1,920人でした。埋伏智歯抜歯数は448本、普通抜歯も含めた抜歯数は924本でした。その他の主な手術は顎骨嚢胞および顎骨腫瘍摘出術が22件で、入院しての全身麻酔手術数は37件でした。周術期口腔機能管理患者は165人でした。

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田康之、中井千晶、緒方正史

◆概 要

病院における病理科、「びょうり」部門とは患者さんの病巣組織の一部を採取し顕微鏡で観察、癌かあるいは他の疾患かを診断する部門であります。

胃カメラや大腸内視鏡検査で消化管粘膜面を観察しながら異常部分の粘膜組織片を採取し（生検）、そのパラフィン切片にH-E染色を施した組織標本を作製し、これを顕微鏡下に観察して胃癌や大腸癌があるのか、又は、潰瘍や炎症やポリープだけなのか？を判定し診断する。病理科とはこのような診断業務を司る部門であり、病院にとって重要な役割を担っております。

そして、喀痰、尿、胸腹水、子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドグラスに塗布してパパニコロー染色を行い、やはり光学顕微鏡にて癌細胞の有無を見分ける細胞診も病理科の主たる業務の一つであります（細胞診）。

さらに、手術で摘出された臓器あるいはその一部を肉眼的に十分に観察してそれから病理組織標本を作製し、癌であるならば、取り残しなく完全に摘出されているかどうか、周辺リンパ節転移の有無についても詳しく検索します（手術材料検索）。

手術中でも癌が完全に切除できているかどうか、切除断端組織を-30℃で迅速に凍結して染色し、その凍結切片を顕微鏡下に即座に診断し、その結果を手術中の執刀医に連絡し癌がまだ取り残されているならば追加切除するように指摘します。術中迅速凍結切片診断は時にその手術の成否にかかわる決定的な鍵を握る事が多く、我国でも大手術を行う場合には病理部門の整備充実が必須の条件と言われてきています。

極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく又は予期せぬ経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で病理解剖を行い臨床病理検討会において疾患の本態の解明や診断の的確さや治療効果が討議されます。

◆実 績

生検・手術材料：約7,000件（内術中迅速診断：約400件）

細胞診：約9,000件

◎島田幸造、◎荒川裕昭、◎五十嵐 渉

臨床研修医（2年）：上田彩加、川野祐暉、正廣紀衣、富田真未、細川香菜、松村有起、三好宏昌、元村友香

臨床研修医（1年）：石川達也、片山由璃子、高井勝代、中本蓮之助、福田優人、藤井莉菜、食野真美、山田慶貴、山本まるみ、三澤 諒、厚井知実、坂本紗英花、清水東与、重里樹里、千菊智紀

◆概要

救急・プライマリケア診療部は、救急患者の受け入れと初期診療を行い、また救急診療を通じて初期臨床研修医の教育・研修を行うことを目的とした部署である。

救急部としては、年間約8,622人の患者の受け入れを行っており（うち救急搬送が3,028人）、その30%強にあたる約2,796人が入院となっている。謝絶率が20%程度とやや高い傾向だが、当院の診療限界を超える病態の依頼を除き「担当科処置中」「ICU満床」等の理由による謝絶率は12%程度である。近隣の開業医からの緊急紹介患者については、担当科が不明な場合には直接救急が対応することで、より円滑な受け入れが可能になった。

初期研修については、1年目研修医は、1ヶ月の救急ローテーション期間を通して指導医とともに平日日勤帯の救急搬送患者の初期対応にあたる。この間に、問診や身体所見の取り方、カルテの書き方、common diseaseの疾患概念、診断に至るまでの思考プロセスなどの医師として必要な知識や技術はもちろん、患者への接し方や言葉遣い、仕事への責任感、モラルなどの人間性に関わるようなことも学んでいく。6月からは2年目研修医の夜間休日の救急当直に23時まで一緒に入り、ウォークインも含めた比較的軽症の患者の対応についても経験する。

2年目研修医は、夜間休日の救急当直に入り、ある程度自分の判断で救急患者の初期対応を行っていく。当院には、研修医を直接補佐する上当直医を始め、内科、循環器科、外科、整形外科、脳卒中、小児科、産婦人科、ICUなどの各科医師も当直に入っており、幅広いコンサルトが可能な環境が整っている。また、当直翌朝には救急で診療した症例について、救急、整形外科、循環器科の部長と検討会を行うことで、経験した症例に関してフィードバックすることができる。平成31年度からは2年目研修医も1ヶ月の救急ローテーションが必須となり、2年間に計2ヶ月の研修期間で十分な知識や技術の習得を目指す。

研修医向けの勉強会については採用当初に各科指導医によるクルズス、その後、院内では週1回の症例検討会とMGHケースカンファレンス発表会、月1回の内科症例発表会、放射線技師や薬剤師との合同勉強会を行い、また年2回程度院外から有名講師を招聘し研修医向けに講義を開催している。さらに月1回音羽病院でのGIMカンファレンス、2ヶ月に1回の西の方GIMカンファレンスに参加するなど、勉強することに対する意識を高く保てるような環境作りを心がけている。

働き方改革の影響もあり慢性的なマンパワーの不足が懸念される状況ではあるが、各科の医師の協力も得てその影響を最小限に抑えるよう努力している。今後も各科の医師と連携し、救急患者の受け入れを行っていくとともに、研修医教育にも力を入れていきたいと考えている。

◆実績

2019年度

1年目研修医 15名 2年目研修医 8名

救急外来受診患者数	8,622
救急搬送受け入れ患者数	3,028
救急外来からの入院患者数	2,796
開業医院からの紹介患者数	821

◆センター長

鈴木 朗

◆概 要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症、ASOに対するLDLアフェレーシス療法、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。

◆実 績

維持血液透析を39例導入しました。

維持血液透析患者13名、腹膜透析患者3名も管理されています。

2019年の各療法実施件数は以下の通りです。

HD	3,220	(-659)
online HDF	2,195	(+234)
PE(血漿交換)	41	(-24)
DFPP	3	(-3)
LDLアフェレーシス	25	(-7)
GCAP(顆粒球吸着)	15	(-9)
CART(腹水濾過濃縮)	13	(±0)
ICUにおける血液浄化	170	(-43)

◆ひとこと

当センターは夜間、休日にも各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。

◆センター長

山本克己

◆概 要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破碎術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリルームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたり、近隣住民だけでなく、大阪府下の他地域からの紹介症例も多くなっています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的で開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近では、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESDは消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にも24時間のオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に大きく貢献しています。

◆実 績

2019年度は、内視鏡総件数が10,439件、上部消化管内視鏡検査が6,957件、下部消化管内視鏡検査が3,152件、ESD件数が278件、EMR件数が1,018件、ERCP件数が189件、気管支鏡件数が133件となっています。下部消化管内視鏡検査、EMR、ESD件数が特に増加傾向にあります。

また、鎮静剤使用割合が増加しており、2019年度は67.4%と、2013年の14.2%に比較し、年々著明な増加を示しています。

◆センター長

岩本文徳、(SCU 責任医師) 寺川晴彦

◆概要

【2019年度人員】

脳神経内科 4 名、脳神経外科 3 名、プライマリーケア診療部 2～3 名、看護師 16 名、専任 PT 1 名、病棟薬剤師 1 名、医療福祉相談室 7 名

脳神経内科・脳神経外科が協力し、24時間対応した脳卒中治療を行っている。

超急性期血栓溶解療法、緊急手術、超急性期血管内治療（血行再建術、コイル塞栓術）にも対応している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーション開始・早期離床を行っている。大阪脳卒中医療連携ネットワークに計画管理病院として参加。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

◆実績

SCU 平均在室日数	9.2 日
SCU 入室患者数	350 名
内訳	
脳梗塞	254 名
脳出血	55 名
くも膜下出血	9 名
一過性脳虚血発作	12 名
その他	20 名
脳梗塞超急性期血栓溶解療法	25 名
脳梗塞超急性期血管内治療	16 名
脳出血開頭血腫除去術	5 名
脳動脈瘤緊急クリッピング術	4 名
脳動脈瘤緊急コイル塞栓術	9 名
脳梗塞開頭減圧術	1 名
脳動静脈奇形塞栓術	0 名

◆センター長

塚本文音

◆概 要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っている。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応している。

電動ベッド7台、リクライニングチェア13台が稼働。看護師4名以上が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っている。

◆実 績

令和元年度は、内科、消化器内科、外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、泌尿器科、眼科、産婦人科、脳神経外科、耳鼻いんこう科、皮膚科が当センターを利用、1月当たりの利用件数は270件。このうち、通常の点滴注射ではなく皮下埋め込み式ポートを用いた薬剤投与が月70件前後ある。

◆センター長

筒井建紀

◆概要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は産婦人科一次救急を扱っており、大阪産婦人科相互援助システム（OGCS）にも参加し、母体搬送を受け入れています。また、地域の産婦人科の先生方に妊婦検診をお願いし、分娩は当院で行う産科オープンシステムを取り入れています。合併症のある妊婦さんに対しては、内科・外科・精神科など他診療科と連携して対応しており、医学的な適応があれば無痛分娩・和痛分娩を行っています。

産科外来では、通常の医師による外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんに受診していただいています。助産師外来は、妊婦さんのマイナートラブルなど、様々なご相談に助産師ならではのきめ細やかな対応が好評です。

入院中の食事メニューは量・質ともに満足していただけるものとなっています。また、入院時のアメニティーも充実しています。

小児科は、院内出生を中心にNICU 6床で新生児の診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらには家族全体のトータルな支援を心がけています。

◆実績

2019年度の分娩件数は551件で、このうち地域の医院と連携したオープンシステムによる分娩は111件でした。また、NICUの入院延患者数は1,284人、新入院数は221人でした。

◆部 長

栗田 聡

◆概 要

当院のICUは平成9年に循環器科が創設されると同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICUは平成20年（2008年）4月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。現在、麻酔科より2名の集中治療専門医がICU日勤を担当し、26名のICU看護師（うち集中ケア認定看護師1名）とともに診療にあたっている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU担当医、看護師でウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）などと緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。

◆実 績（2019年度）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計、平均
入室	直入	20	11	17	11	15	15	13	16	18	20	24	20	200
	転入	41	46	38	44	36	30	29	33	35	28	42	37	426
1日平均入室患者数		4.6	3.9	6.6	4.7	5.2	5.8	6.5	5.8	6.9	5.9	6.0	6.0	5.7
平均在室日数		2.3	2.7	3.6	2.7	3.1	3.9	4.8	3.6	3.9	3.7	2.7	3.2	3.3
病床稼働率		38.3	32.8	54.7	39.0	43.0	48.3	54.6	48.6	57.5	49.2	50.0	50.3	47.2

◆スタッフ（◎部長）

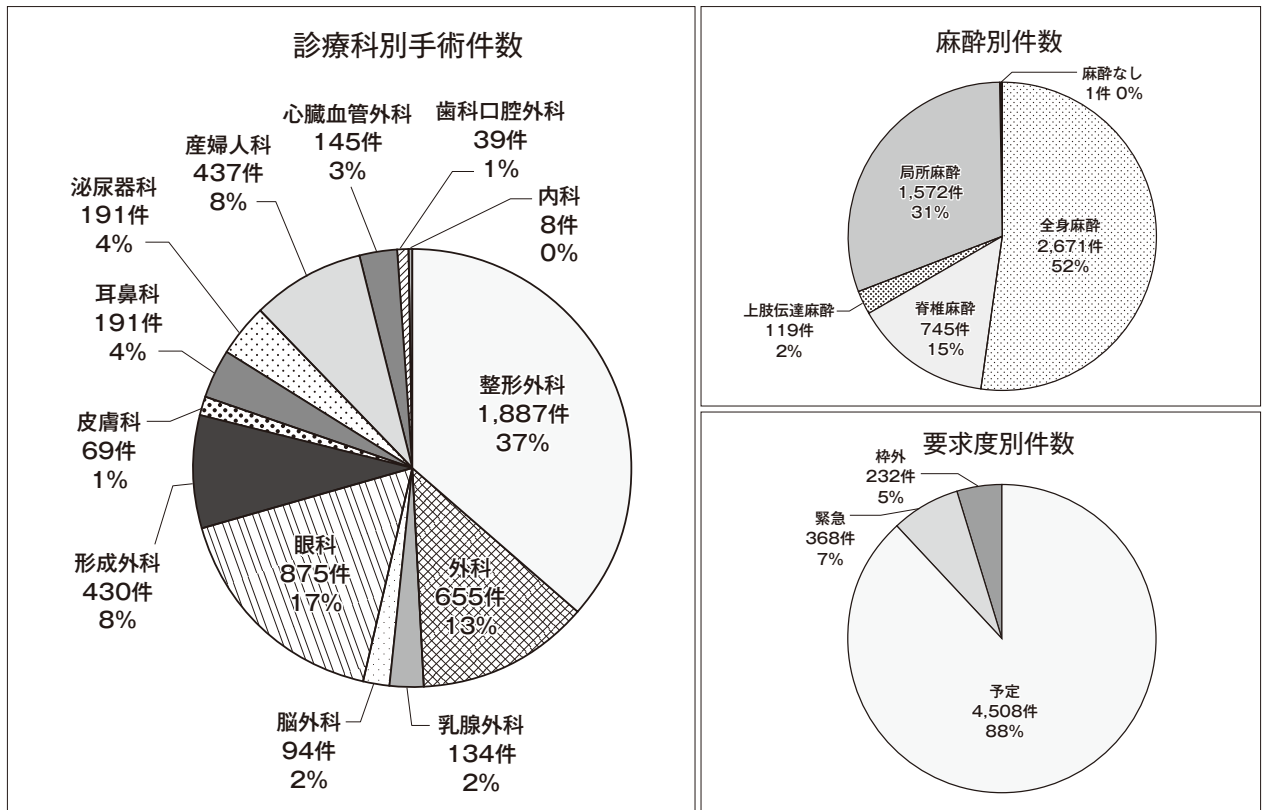
◎中谷桂治、麻酔科医師9名、（看護師長）藤原千佳、看護師37名

◆概要

手術室は12室あり、うち4室がバイオクリーンルーム、1室はハイブリット手術室である。入院・外来患者すべての手術を手術室で行っている。

◆実績

2019年度総手術件数は5,108件で、整形外科が全体の37%を占め、次いで眼科17%、外科13%であった。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の5割を超えた。予定手術以外の枠外・緊急手術は総手術件数の12%を占め増加傾向にある。



◆スタッフ (◎部長)

◎国府孝敏、他薬剤師32名、薬剤助手 4名

◆概要

2020年3月現在、薬剤師33名（定数30名）

薬剤部長：国府孝敏、副薬剤部長：中城宏子、主任：田中早紀・井上敬之・岡田理恵子・木村 仁

一般薬剤師27名（男7名・女20名、内 育児支援時短1名・育児休暇1名）

薬剤助手4名、事務1名、SMO3名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算1 …… 12病棟

病棟薬剤業務実施加算2 …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算1、無菌製剤処理料

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア

学生実務実習受入施設

日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	1名
	病院薬学認定薬剤師	5名
	生涯研修認定薬剤師	4名
	認定指導薬剤師	2名
日本薬剤師研修センター	認定薬剤師	2名
	認定実務実習指導薬剤師	7名
日本医療薬学会	医療薬学専門薬剤師	1名
日本医療情報学会	医療情報技師	1名
日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士	1名
日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師	1名
日本高血圧学会 日本循環器病予防学会	高血圧・循環器病予防療養指導士	1名
日本ACLS協会	BLS Provider	1名
日本・アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト	1名
日本臨床主要薬学会	外来がん治療認定薬剤師	1名
日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム専門療法士	1名

◆実績

外来一般処方箋(枚)	3,048	薬剤管理指導 患者数(人)	20,637	TDM算定件数	1,932
外来注射処方箋(枚)	15,722	指導回数	22,228	採用薬品数	1,325
院外処方箋(枚)	114,974	算定件数	21,089	新規レジメン登録(件)	17
(発行率 %)	97.4	麻薬管理指導加算(件)	898	後発薬品置換率(%)	82.1
入院一般処方箋(枚)	176,484	退院時薬剤情報(件)	2,986	年間治験実施本数	11
入院注射処方箋(枚)	147,585	持参薬調査件数	9,593	新規治験契約件数	0
入院麻薬一般処方箋(枚)	1,775	持参薬調査剤数	64,551	薬剤情報提供料(件)	2,772
入院麻薬注射処方箋(枚)	9,360			疑義照会件数 (調剤室)	5,811
				(注射室)	186
院内製剤件数		無菌製剤処理算定件数	4,099	病棟薬剤業務実施加算(件)	
(一般)	103	(抗がん剤・TPN)		(一般病棟12)	23,614
(無菌製剤)	59			(SCU・ICU)	5,858
注射混合調製分取総件数	12,242	処置薬剤払出件数	10,760	医薬品安全研修(回)	19

◆スタッフ

(技師長) 高橋博史、他放射線技師30名

◆概要

現在、診療放射線技師31名、事務スタッフ5名で放射線室を運営しています。放射線室は2階に一般撮影、CT、MRIなどの診断部門、地下1階に核医学検査と放射線治療、5階に血管撮影室を配置し、1階には救急専用の撮影室があります。

診療放射線技師は放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図り専門性を高めています。高度な放射線機器を操作し、画像や被曝の管理を適切に行って、中央部門として高い診療機能を維持しております。本年4月には医療法の改正省令が公布され、診療用放射線に係る安全管理体制を確保するために準備を進めてきました。患者さんの医療被曝を少しでも低減できるよう努めてまいります。

装置一覧

装置	台数	スペック等	装置	台数	スペック等
CT	2台	64列	MRI	2台	1.5T、3.0T
血管撮影装置	2台	Single、Biplane	核医学検査装置	2台	SPECT、SPECT-CT
放射線治療装置	1台	定位照射、IMRT	X線TV装置	3台	FPD
Hybrid-Angio	1台	ハイブリッド手術室	一般撮影装置	5台	FPD、CR
その他	マンモグラフィ装置、マンモトーム装置、骨密度測定装置、ポータブル装置				
情報システム	放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム				

2019年度に整備した放射線機器

手術室 外科用イメージ装置 GE OEC Elite CFD 2019.10.31

◆実績

	2017年度	2018年度	2019年度
一般撮影	139,611	142,693	132,163
乳房撮影	3,113	2,892	2,746
骨密度測定	1,820	1,730	1,745
病棟撮影	17,079	17,790	15,573
X線TV	1,918	2,168	1,730
CT	22,494	23,010	21,869
MRI	10,235	9,901	10,374
血管撮影・心カテ	1,021	1,023	1,037
RI	1,604	1,406	1,339
放射線治療	4,912	3,727	3,366

(件数)

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田昌子：（技師長） 小川祐司、他臨床検査技師37名（病理診断科5名含む）、事務員1名

◆概要

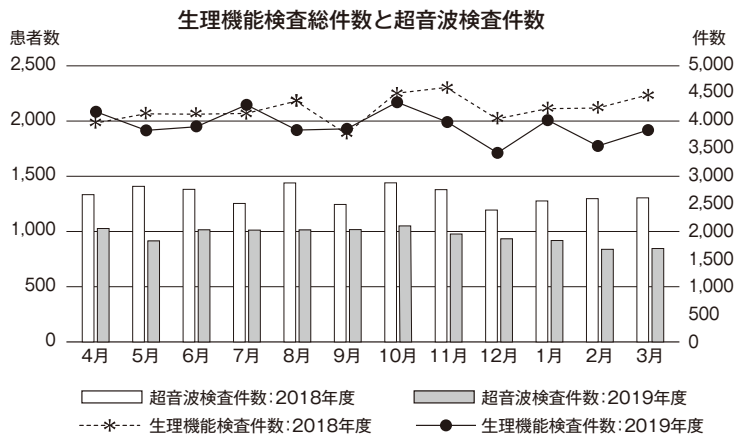
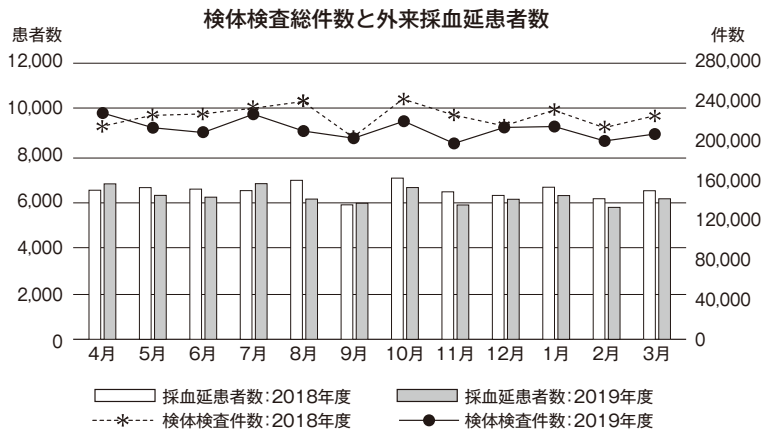
中央検査室は医師である臨床検査科部長1名、臨床検査技師36名（非常勤3名含む）、事務員1名、検査助手3名のスタッフで構成されており、外来患者採血、血液、生化学、免疫化学、輸血管理、微生物の各種検体検査および生理機能検査を行っております。

救急医療への貢献として24時間対応の緊急検査体制と、重症感染症の早期診断、医療関連感染の迅速キャッチを目的とした365日微生物検査日勤体制が確立しています。さらに輸血部門においては、認定輸血検査技師を複数名配置させ、輸血療法にかかわるすべての業務の一元管理が定着しています。一方、生理機能検査においては、超音波検査の拡充を目標に掲げ、超音波検査士育成をはじめとする質的向上を図っており、現在、消化器や循環器をはじめとする延べ15領域7名の超音波検査士が主に検査を担当しております。

◆実績

2018年度の月別検体検査総件数と外来採血延患者数、ならびに生理機能検査総件数と超音波検査件数について、前年度と比較し下図に示しました。検体検査件数については、全体として大きな変動は認められませんでした。超音波検査については減少していました。

なお、医療の質の評価より求められる生理機能検査の24時間および72時間のレポート完成率（2019年度）は、それぞれ約89%と93%であり良好に推移しております。



◆スタッフ

管理栄養士6名

◆概 要

患者給食は全面委託をしており、管理栄養士は、栄養指導、栄養管理を主に行いながら、給食委託会社と協力し合い、患者給食の管理も行っています。

外来・入院の栄養指導の他、糖尿病教育入院指導や心不全教室で集団栄養指導を実施し、それぞれ指導料を算定しています。

また、糖尿病教室、消化器病懇話会、腎臓病教室の集団指導にも参加しています。

チーム医療では、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームにも参加しています。管理栄養士6名中、糖尿病療養指導士の資格を有する者が4名、NST専門療法士の資格を有する者が2名、がん病態栄養専門管理栄養士1名、病態栄養専門（認定）管理栄養士1名が在籍しています。

◆実 績

2019年4月～2020年3月入院・外来栄養指導食種別件数(非算定件数含む)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
糖尿病	52	35	58	59	43	50	43	46	40	43	41	44	554
腎臓病	14	15	10	11	10	15	13	9	15	17	11	18	158
胃切除後	5	6	12	6	12	9	9	6	6	9	5	5	90
その他	35	38	34	44	52	36	29	39	42	34	34	41	458
合 計	106	94	114	120	117	110	94	100	103	103	91	108	1,260

2019年4月～2020年3月栄養指導料等算定件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
入院栄養指導	47	55	53	59	48	44	37	48	51	40	47	63	592
外来栄養指導	45	40	52	57	61	58	51	42	42	47	38	34	567
集団栄養指導	21	26	23	19	14	14	15	18	19	18	22	16	225
NST加算	43	41	32	40	36	42	58	45	43	49	51	55	535
糖尿病透析予防指導	2	2	1	3	2	2	1	2	2	2	0	2	21

◆スタッフ

(技士長) 勝賀瀬 朗、他臨床工学技士10名

◆概要

当院の臨床工学室は、11名の臨床工学技士で組織されています(2020年3月1日現在)。医療機器管理、血液浄化、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、各部門において関連業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、医療機器の取り扱いに関する研修を行っています。また、休日や夜間の緊急カテ、緊急手術、医療機器のトラブル等に対応するため、緊急呼び出しにも対応しています。

2008年の「医療機関等における医療機器の立会いに関する規準」(いわゆる立会い規制)の実施により、当院の臨床工学技士の業務は大きく変わりました。医療機器事業者の立ち会いがあつた分野については、臨床工学技士が業務として取り入れ、現在は技士主体ですべての業務を行っています。医療機器を安全かつ効率よく運用するにとどまらず、日々複雑多様化する臨床技術に対応し、患者様をはじめ医師やスタッフに高度な臨床技術を提供できるよう努めております。

◆実績

2019年度実績

業務	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ICU HD/HDF/ECUM	件	2	3	6	4	7	0	3	12	0	9	5	1	52
特殊血液浄化	件	7	4	8	4	6	2	7	7	1	9	1	1	57
(PE)	件	0	0	2	4	6	0	7	7	0	0	0	0	26
(DFPP)	件	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
(エンドトキシン吸着)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LDL)	件	5	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	12
(DFT)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(LCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(GCAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(CART)	件	2	3	4	0	0	2	0	0	1	2	1	1	16
IABP	件	2	0	4	0	1	2	0	0	2	0	1	2	14
PCPS	件	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5
人工心肺	件	3	6	9	4	5	3	5	3	5	5	6	3	57
術中自己血回収術(整形外科)	件	39	41	38	48	41	32	41	43	34	32	30	48	467
アンギオ室業務	件	83	78	89	64	71	78	106	94	88	82	88	94	1,015
(CAG)	件	35	34	38	24	31	29	43	34	36	32	32	38	406
(PCI)	件	11	12	17	8	9	8	11	10	12	14	13	14	139
(AoG)	件	6	4	6	5	0	3	10	10	4	7	11	4	70
(PPI)	件	5	2	5	5	1	4	8	8	6	6	8	7	65
(EPS)	件	13	13	12	11	16	17	17	16	15	12	12	16	170
(ABL)	件	13	13	11	11	14	17	17	16	15	11	12	15	165
CIEDs業務	件	64	44	26	38	47	62	73	58	34	48	39	52	585
植込み	件	1	2	3	3	3	4	11	2	1	5	5	7	47
(IPG/CRT-P)	件	1	2	3	3	3	2	8	1	1	4	4	4	36
(ICD/CRT-D)	件	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	6
(ILR)	件	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	5
外来患者	件	54	34	18	19	23	44	38	44	24	33	22	32	385
緊急等対応	件	2	2	2	5	5	4	3	4	4	3	4	1	39
MRI撮像	件	3	1	1	2	4	5	5	3	5	4	3	5	41
OP設定変更	件	2	4	0	3	4	0	3	1	0	0	1	0	18
病棟チェック	件	2	1	2	6	8	5	13	4	0	3	4	7	55
SAS検査	件	13	12	13	14	19	12	22	22	23	16	16	16	198
(SpO2のみ)	件	0	1	1	0	1	0	3	0	1	2	1	0	10
(WatchPAT)	件	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	0	5
(簡易型PSG)	件	13	9	10	12	13	11	17	18	20	12	14	15	164
(フルPSG)	件	0	2	1	2	4	1	1	3	2	1	1	1	19
在宅呼吸治療器データ管理	件	111	108	114	110	101	104	107	106	107	109	104	106	1,287
(CPAP) フィリップス	件	69	66	72	70	62	60	65	64	64	65	64	66	787
(CPAP) 帝人	件	35	35	35	33	30	36	34	34	34	33	31	31	401
(ASV) フィリップス	件	6	6	6	6	8	7	7	7	8	9	8	8	86
(ASV) 帝人	件	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	13
院内在宅呼吸器試用件数	件	1	4	0	0	2	3	2	2	2	2	4	4	26
(ASV)	件	1	4	0	0	2	3	2	2	2	0	2	1	19
(CPAP)	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	7
心拍出量測定(エスクロン)	件	0	5	3	2	4	6	2	8	6	11	9	0	56
ABPM	件	0	0	0	1	0	0	0	0	3	1	4	3	12
間接熱量計	件	3	5	0	0	1	0	0	0	3	0	0	2	14
医療機器 点検総数	件	768	764	712	693	924	816	713	678	853	633	674	735	8,963
(定期点検)	件	62	103	45	45	334	211	48	89	82	4	34	52	1,109
(始業点検、回路接続確認等)	件	706	661	667	648	590	605	665	589	771	629	640	683	7,854
医療機器 修理対応総数	件	63	60	35	69	55	54	56	49	46	67	46	51	651
(院内修理/対応)	件	55	55	27	58	49	44	39	39	38	47	37	41	529
(メーカー修理依頼)	件	8	5	8	11	6	10	17	10	8	20	9	10	122

◆スタッフ

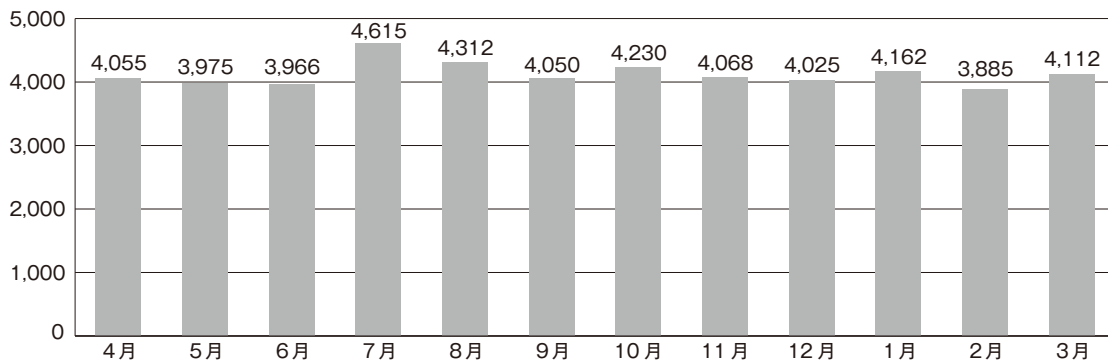
(看護師長) 藤原千佳

◆概要

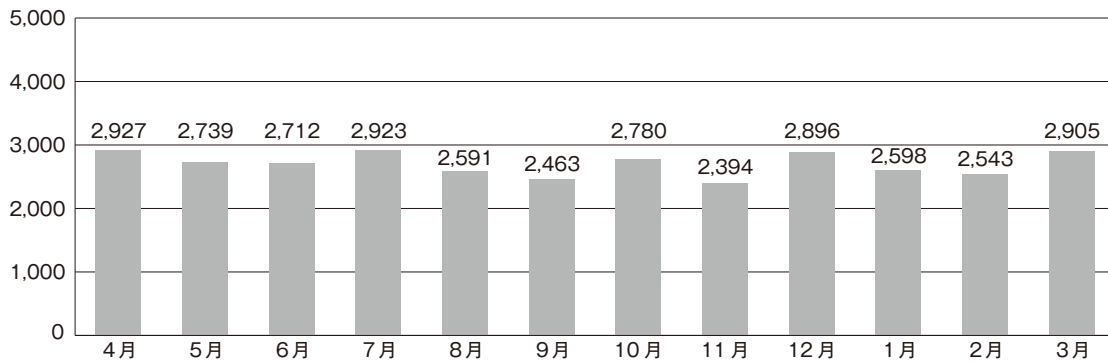
中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

◆実績

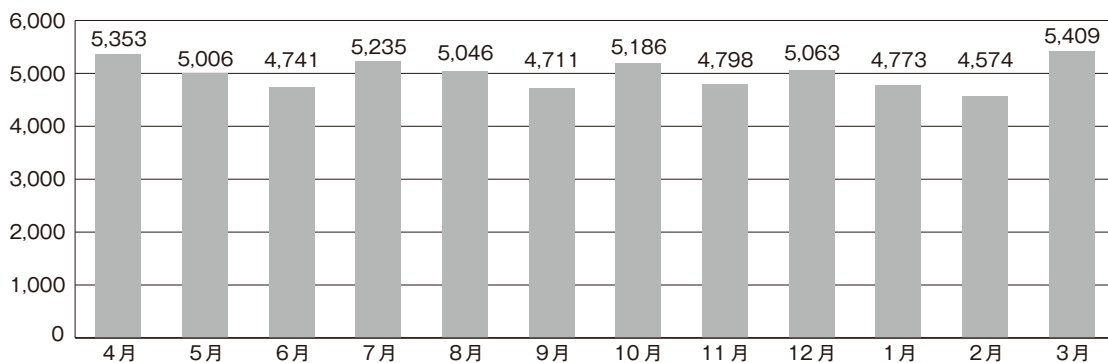
手術室への滅菌物払出数



病棟への滅菌物払出数



外来への滅菌物払出数



◆スタッフ

(部長) 畑中信良、(室長) 三村麻紀子、他看護師7名、医療社会福祉士5名

◆概要

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

2018年4月より、入院時支援を開始。入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、入院が予定された患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるように努めている。退院支援では、入院後早期に退院困難要因のスクリーニングを行い、困難がある、もしくは予測される場合は退院計画を立案、病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

◆実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2019年度
入院時支援件数	212	210	204	241	195	145	165	135	172	155	140	155	2,129	940
退院調整件数	66	64	47	58	66	79	71	77	82	66	78	61	815	626
医療福祉相談件数	232	257	233	257	167	157	165	135	144	161	119	140	2,167	2,821
入院時支援加算 算定件数	169	171	193	202	201	161	135	126	146	86	109	113	1,812	659
入退院支援加算 算定件数	812	744	801	903	883	768	605	476	526	393	473	473	7,857	6,318

◆スタッフ

(部長) 畑中信良、(室長) 三村麻紀子、看護師1名、事務員5名

◆概要

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携パスの管理、広報活動などをおこなっている。特に、救急紹介患者の対応については、今年度より看護師を配置、より素早い対応を行っている。

その他、大阪府がん診療拠点病院として、がん診療地域連携パスを採用、また脳卒中、大腿骨頸部骨折の地域連携パスも採用している。普及、利用拡大に向け努力し、地域医療機関の先生方と情報共有をおこない、協力して患者さんの治療にあたっている。

◆実績

紹介率と逆紹介率の推移(%) 医事統計参照

開放型病床の利用率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	88.4	75.0	75.5	74.8	78.0	82.6	81.5	66.4	73.1	76.9	86.4	69.8	77.4
2019年度	61.1	51.6	47.7	77.6	70.3	61.5	73.1	85.5	71.6	70.3	88.3	88.3	70.6

検査依頼の推移(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	39	26	36	32	19	13	22	20	31	21	18	22	299
MR	42	32	41	42	36	31	37	25	15	24	35	30	390
胃カメラ	19	6	18	6	16	10	15	5	5	11	8	11	130
その他	12	13	11	15	14	13	10	12	8	10	6	9	133
合計	112	77	106	95	85	67	84	62	59	66	67	72	952

◆スタッフ

看護部長：谷岡美佐枝、副看護部長2名、教育担当師長1名、他部署配置表の通り

◆看護部の理念

《看護部の理念》

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

《看護部の方針》

1. 患者の生命の尊厳と権利を尊重し、生活の質を高める看護を実践します。
2. 看護の質的向上を図り、地域住民のニーズに応じた看護の提供をします。
3. 多職種と協働し、チーム医療の向上に努めます。
4. 自己啓発や看護研究活動を推進します。
5. 人を癒し人を活かす職場づくりに努めます。

◆2019年度の重点目標・取り組み

《2019年度の看護部重点目標》

1. 地域医療支援病院として、効果的な病床運営を行う。
 - 1) 入院患者1日平均480名以上、病床稼働率85%以上を達成する
 - 2) 重症度、医療・看護必要度の精度を保ち平均30%以上を維持する
 - 3) 入退院支援センターの拡充に努める
 - 4) 他職種と連携し、早期から入退院支援を行う
2. チーム医療のキーパーソンとして、看護実践能力を発揮できる人材を育成し活用する。
 - 1) 中堅看護師がリーダーシップを発揮できるための取り組みを行う
 - 2) チーム医療の核となる認定看護師の実践力向上のための取り組みを行う
 - 3) 看護管理職を育成するための教育計画の実施と評価を行う
 - 4) 看護研究の支援と取組みを継続する
 - 5) 特定行為研修の実施と特定行為修了者が実践できる体制を整備する
 - 6) 患者の立場に立ってケアを提供できる人材を育成するために、接遇と倫理教育を継続する
3. 患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う。
 - 1) 安心して退院できるよう、在宅療養支援を充実させる
 - 2) 内服に関するインシデントを20%減少する
 - 3) 構造評価・看護過程評価・患者満足度評価の結果に基づく対策を実施する
 - 4) 看護の質と診療報酬の連動を検討し活用する
4. 看護の楽しさ・やりがいを実感でき働きやすい職場環境づくりを行う。
 - 1) 看護のやりがいや達成感を感じる取り組みを行う
 - 2) 職員一人ひとりが‘お互いさま’という意識を持って働き、個々のWLBが充実する
 - 3) 有給休暇・時間外勤務の適正管理やメンタルヘルスに取り組み、健全な職場環境を整える

4) 安全で効率的な働き方を構築するために業務改善を行う

5. 地域への保健医療福祉活動を推進する。

- 1) 地域の医療・介護福祉施設との連携強化の取り組みを行う
- 2) 地域住民のヘルスケアへの関心が高まるような取り組みを行う
- 3) 地域の医療従事者に対する研修の計画・実施・評価を行う

《目標の評価》

1. 地域医療支援病院として、効果的な病床運営を行う

- 1) 入院患者1日平均480名以上、病床稼働率85%以上を達成する ➡ 未達成
 - ・在院日数の低下により患者数が減少したことが要因であった。そのため、空床が増加し、赤字決算であった。稼働率増加に向け、退院延長に向けた取り組み、CPの見直し、地域・救急患者のスムーズな受け入れを医師や地域連携室と協働で行ったが、著効には至らなかった。
- 2) 重症度、医療・看護必要度の精度を保ち平均30%以上を維持する ➡ 達成
- 3) 入退院支援センターの拡充に努める ➡ 達成
 - ・前方と後方支援を統合し、室長に看護師長を配置した。そして、PFM拡充に向けて、医科歯科連携、トリアージナースの前方配置による地域連携強化と救急外来との協働に向けて取り組んだ。
- 4) 他職種と連携し、早期から入退院支援を行う ➡ 達成
 - ・日々、MSW・退院調整看護師の部署巡回により、8月以降退院支援が急増。
(昨年度月約50件程度から80件程度へ)

2. チーム医療のキーパーソンとして、看護実践能力を発揮できる人材を育成し活用する

- 1) 中堅看護師がリーダーシップを発揮できるための取り組みを行う ➡ 未達成
 - ・リーダーシップ研修は行われているが、「中堅看護師がリーダーシップを発揮できるための取り組み」には至らず。教育支援体制の整備・OJTが機能する臨床へ。
- 2) チーム医療の核となる認定看護師の実践力向上のための取り組みを行う ➡ 一部達成
 - ・看護ケア推進会議の目的や構成員の検討は実施できたが、個々の実践力向上への取り組みはあまり実施できなかった。個々のCN/CNSのレディネス、現場のニーズに応じた活動計画を立案、実施する。
- 3) 看護管理職を育成するための教育計画の実施と評価を行う ➡ 一部達成
 - ・副看護師長登用試験受験者への研修を16回実施し、結果、10名受験し8名合格となり全施設平均を上回る結果となり、合格者はすべて次年度昇格させた。
 - ・管理者研修は6回実施した。
 - ・マネジメントリーダーに関しては、今年度より導入を開始した。
 - ・第三者評価が重なり、管理職が落ち着いて自己研鑽に取り組む環境にはなかった。しかし、第三者評価を通して、管理職としての学びも大きかったと考える。
- 4) 看護研究の支援と取組みを継続する ➡ 一部達成
 - ・研究成果として知見が得られたこと、研究の意義について理解を深めたスタッフもいた。チャレンジできる環境は維持させる必要がある。
- 5) 特定行為研修の実施と特定行為修了者が実践できる体制を整備する ➡ 達成
 - ・今後は、臨床推論をできる人材、医師のタスクシェアリングに向けた取り組みを採用するためにも、

より多くの人材育成に向けた体制の整備が課題である。

6) 患者の立場に立ってケアを提供できる人材を育成するために、接遇と倫理教育を継続する ➡ 達成

3. 患者の安心・安全のために看護の質向上に関する取り組みを行う

1) 安心して退院できるよう、在宅療養支援を充実させる ➡ 一部達成

・在宅療養支援に関しては、看護部教育計画のなかでも体系的に教育が行われており、看護師個々の在宅療養支援の実践力は向上し、目標はある程度達成と評価する。

2) 内服に関するインシデントを20%減少する ➡ 未達成

・薬剤のインシデントに関しては、6Rの確認不足の要因によるインシデント減少に向けて各RMが取り組み、36%の減少が図れた。

3) 構造評価・看護過程評価・患者満足度評価の結果に基づく対策を実施する ➡ 一部達成

・質評価について、今年度は従来通りの構造・過程・結果評価を実施した。質評価委員会で検討し3側面からの評価ではなく、一連の流れとして評価すべきではという意見もあり、次年度は「JCHO大阪病院看護部の看護の質評価」について新たな検討・取り組みを検討する。

4) 看護の質と診療報酬の連動を検討し活用する ➡ 一部達成

・師長の月報提出により、各部署での取り組みやデータを共有できるのは良かった。管理統計や診療報酬関連データの共有化。各管理者がタイムリーに情報が得られる仕組みづくりを行っていきたい。

4. 看護の楽しさ・やりがいを実感でき働きやすい職場環境づくりを行う

1) 看護のやりがいや達成感を感じる取り組みを行う ➡ 一部達成

・副看護師長会では、Healthy Work Placeを目指し、生き活きと働き続けられる職場づくりにむけて活動を行った。

2) 職員一人ひとりが‘お互いさま’という意識を持って働き、個々のWLBが充実する ➡ 未達成

・離職率13.8%と目標未達成。後半期、保育所に入所できず復帰が叶わなかった者が約20名いた。次年度の対応と4月からの復帰者の働き方について要検討。

3) 有給休暇・時間外勤務の適正管理やメンタルヘルスに取り組み、健全な職場環境を整える

➡ 未達成

4) 安全で効率的な働き方を構築するために業務改善を行う ➡ 一部達成

・業務委員会では情報収集時間の短縮のための業務改善に取り組み超過勤務は減少した。現状把握から、タスクシェアリングに向けて次へとつなげていきたい。

5. 地域への保健医療福祉活動を推進する

1) 地域の医療・介護福祉施設との連携強化の取り組みを行う ➡ 未達成

・在宅療養後方支援病院の施設基準取得。

2) 地域住民のヘルスケアへの関心が高まるような取り組みを行う ➡ 達成

3) 地域の医療従事者に対する研修の計画・実施・評価を行う ➡ 達成

・今後、地域住民の背景（年齢層、望まれている医療福祉活動は何か等）を考察、検討しどのような福祉活動ニーズがあるのか、そのための活動計画を立てること、地域からの要望を待つだけでなく病院からアピールをしていく必要がある。

◆各部署の責任者

看護部長	谷岡 美佐枝		
副看護部長	喜多 由賀里 村上 博美		
所 属	看護師長	所 属	看護師長
教育担当	谷口 智子	11階東病棟	田中 真由美
看護ケア推進室	柴谷 涼子	11階西病棟	長辻 玲子
ICU	中村 明美	12階東病棟	遠藤 聖美
8階東病棟	中野 美佳	12階西病棟	北 由美
NICU	中野 美佳(兼)	13階東病棟	森本 富美子
8階西病棟	中筋 葉子	13階西病棟	玉置 ひろみ
8階南病棟	杉 佳子	外来(一般診療)	今井 康乃
9階東病棟	中島 佐和	外来(治療検査)	福永 花子
SCU	森本 結美	手術室	藤原 千佳
9階西病棟	狩野 智恵	血液浄化センター	酒井 圭子
10階東病棟	東城 夏恵	医療安全管理室	堀 美和子
10階西病棟	土岐 昌世	医療福祉相談室	三村 麻紀子

◆看護部の委員会の活動状況

各種会議・委員会名	委員長	各種会議・委員会名	委員長
看護師長会	谷岡 美佐枝	記録委員会	中村 明美
副看護師長会Ⅰ・Ⅱ	谷岡 美佐枝	業務委員会	柴谷 涼子
看護ケア推進会議	柴谷 涼子	安全管理委員会	森本 富美子
看護の質評価委員会	村上 博美	看護部倫理委員会	土岐 昌世
教育委員会	谷口 智子	看護研究推進委員会	中野 美佳
新人研修委員会	谷口 智子	地域連携企画委員会	三村 麻紀子

1. 看護師長会

看護部の最高決定機関として位置付けている。2019年度は、5種の評価機構による第三者評価を受審した。その準備や評価後の課題について検討を重ね、いずれも良い評価を得ることができた。他には、病床稼働率向上に向けた取り組みやリテンションマネジメントの検討が主であった。

2. 副看護師長会

生き活きと働き続けることができる職場づくりを目指すために、日本看護協会が提唱しているHealthy Work Placeに参画した。4つのWG（①勤務体制 ②魅力ある職場 ③若手看護師の対応 ④業務改善）を設立し、それぞれが自律的に課題に取り組み、次年度へと活動を継続している。

3. 看護ケア推進会議

推進会メンバーをCN/CNSのみに縮小し、推進会のあるべき姿について模索をしながらの活動年度になった。CN/CNS活動を行う上での事例検討、活動報告会の開催、推進会より発刊を行った。活動報告会は、介入事例2例を報告し、患者が入院されていた病棟スタッフや関わっていたメディカルスタッフ、担当医などの参加もあり、参加者のアンケート結果は好評であり、報告会のねらいは達成したと評価する。

4. 看護の質評価委員会

前半は、キャリアパスのデザインやキャリアラダー等、看護の評価ツールの検討を行った。後半は、構造評価の結果を踏まえ、構造だけでなく結果も含めた過程を結び付けた一連の評価の在り方について検討を行ったが、成果を出すには至らなかった。次年度は具体的にNI公表に向け取り組む予定である。

5. 教育委員会

ラダー別教育計画に基づき研修を実施した。今年度は、Healthy Work Placeの推進により勤務時間内に研修が実施できるよう変更した。研修内容については、ディスカッションを多く取り入れ自らの言葉で語る機会を増やし、アクティブラーニングを意識しながら取り組んだ。次年度は、教育目標の変更に伴い自律した看護師の育成に向け教育計画再構築の予定である。

6. 新人研修委員会

今年度は、6か月研修で多重課題シミュレーション研修を実施した。時間切迫における状況判断やメンバーシップの発揮など時期に応じた学びに繋がった。引き続き研修での学びをOJTに結び付けていくことが課題である。

7. 記録委員会

目標として「一患者一看護計画に基づいた看護過程を展開することができる」を掲げ、活動した。各委員とともに、看護過程の展開における問題点を抽出し、①プロフィール用紙の改善、②プロフィール記録モデルの作成、③退院時を含めた看護サマリーの見直し、という対策を講じることができた。

8. 業務委員会

「情報収集の時間短縮」に焦点を絞った業務量調査を行い、その結果から、部署ごとの課題の明確化とアクションプランを立案、実行し、再度業務量調査を実施して評価することとした。多くの部署が業務量調査からの分析、課題の抽出、業務改善策を導き出し、取り組めたと評価する。時間短縮まで至らなかった部署もあったが、更なる課題が明確化されていた。

9. 安全管理委員会

薬剤関連のインシデント減少、各部署の安全に関する問題解決、マニュアル厳守に向けた取り組みを実施し、薬剤に関しては18%減少が図れた。インシデント報告の傾向や看護の質向上に繋がるような安全に関する研修を企画・実施し、いずれも楽しく学べ、実践に活かすことができている。

10. 看護部倫理委員会

倫理的感受性と行動力を養い、倫理問題の顕在化を図るために、委員会内での倫理検討・各部署の倫理検討への支援・倫理研修を実施した。部署内ケアカンファレンス報告を通して、委員が倫理問題を言語化・要約する取り組みを行ったことで、ケアカンファレンスも増加し、倫理的視点での発言や行動につながりつつある。

11. 看護部研修推進委員会

支援会の開催10回、相談者なく開催中止1回、総相談件数18件であった。相談する場所があって良かったという意見がある一方で、活用する部署が限られており、同じ研究者が複数回活用していた。年間計画で研究発表を予定していても研究に取り組めていない部署もあり、各部署での看護研究への取り組みの活性化が望まれる。

◆ワーキンググループの活動状況

各種会議・委員会名	委員長	各種会議・委員会名	委員長
感染予防実行委員会	小井里香	栄養管理実行委員会	吉田文子
褥瘡対策実行委員会	清水加世子	緩和ケア実行委員会	志方優子
入退院支援実行委員会	三村麻紀子	認知症ケア実行委員会	伊坪恵

1. 感染予防実行委員会

末梢留置カテーテルの安全な管理を目的に動画作成を行った。留置時の患者説明の定型文作成と日々の観察記録がしやすくなるようにケア予定が統一して入力できるようシステムを整えた。CD感染症について会議内で学習会を企画し、便形状スケールの導入とマニュアル改訂を行った。

2. 褥瘡対策実行委員会

各部署の特殊性を踏まえて褥瘡予防対策を立案し実施した。今年度は医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）、スキンテアの発生状況を把握し、リスクの高い患者や医療機器に着目して予防・ケア実践ができるように取り組んだ。

3. 入退院支援実行委員会

患者・家族が安心して療養生活を送ることができるよう、入退院支援、在宅療養支援、地域連携の質向上を図ることを目的に活動した。各部署の退院困難要因と支援計画の特徴を分析したうえで、効果的な支援、院内外多職種との連携を検討・実践できた。

4. 栄養管理実行委員会

低栄養状態にある患者に対して栄養評価を行い、栄養改善、QOLの向上を目指し、看護ケアの質の向上を図ることを目標に、委員長と各部署の委員16名で活動した。症例検討は6例実施、栄養介入が必要な患者に目を向けケアを実践、摂食嚥下障害患者の特徴、摂食嚥下機能療法算定患者について理解できるように取り組んだ。

5. 緩和ケア実行委員会

改訂版苦痛のスクリーニングシートを導入し対応フローやアセスメントのポイントまでマニュアル化した。徐々にではあるが看護実践につなぐことができた症例数は増加しているが質に関しては次年度の課題である。また、実行委員自身の教育に重点をおき、委員会内で疼痛やせん妄などに関する講義や事例検討を行った。

6. 認知症ケア実行委員会

「総合的機能評価（CGA7）を活用することで、早期に認知症ケアを提供できる」「認知症ケアを振り返り、学んだ知識を自部署で活用できるよう事例検討を実施する」を目標に活動を行った。CGA7の活用までは至らず現状把握にとどまった。しかし、行ったケアや立案した看護計画について事例検討を通して振り返り、実践に活用できた。

◆大阪病院における看護評価

前身である旧厚生団では1978年より看護水準の向上と発展を図ることを目的として看護共同研究としての会を発足させた。1983年からは中央看護評価学会として看護の評価を開始した。大阪病院では、JCHO移管後も継続して看護評価として構造・過程・結果の3側面からの評価を継続して実施している。

—構造評価—

評価対象：13病棟、ICU、SCU、NICU、手術室、血液浄化センター、外来（一般・治療）、医療福祉相談室

評価者：看護部長、副看護部長

評価方法：構造評価ツール追加修正版を使用して実施

各部署の看護師長・副看護師長による自己評価後、評価者による現場視察と面接により評価した。

	全項目			基本に関する事項 (B: Basic)			安全に関する事項 (S: Safety)			看護ケアに関する事項 (N: Nursing)			教育、研修に関する事項 (E: Education)		
	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし	出来ている	出来ていない	該当なし
看護部	95%	5%	0%	94%	6%	0%	97%	3%	0%	△	△	△	93%	7%	0%
病棟平均	82%	14%	3%	81%	17%	3%	82%	12%	4%	86%	11%	3%	80%	18%	2%
一般外来	78%	16%	5%	74%	26%	0%	85%	6%	10%	82%	16%	1%	72%	18%	10%
治療検査	84%	14%	2%	84%	13%	3%	88%	10%	2%	84%	15%	1%	80%	20%	0%
救急室	72%	22%	6%	48%	42%	10%	86%	9%	5%	74%	18%	9%	80%	18%	2%
手術室	93%	6%	2%	95%	0%	5%	92%	6%	2%	91%	9%	0%	92%	8%	0%
血液浄化センター	90%	5%	4%	94%	7%	0%	86%	5%	9%	96%	2%	2%	86%	8%	6%
在宅	33%	23%	45%	44%	14%	42%	32%	15%	53%	17%	39%	44%	39%	22%	39%
全部署平均	78%	13%	8%	77%	16%	8%	81%	8%	11%	76%	16%	9%	78%	15%	7%

—過程評価—

1. 評価実施期間：令和元年9月2日～令和元年9月20日
2. 評価対象期間：平成31年1月1日入院～令和元年6月30日退院
3. 評価対象カルテ：クリニカルパス対象・入院期間7日以下・死亡・入院中の転棟、を対象外として病歴士より抽出されたカルテ
4. 評価者：看護部長をリーダーとして、副看護部長・看護師長評価者が2名～3名の組になって各4冊評価を行う
5. 評価方法：看護過程評価ツール（厚生年金事業振興団 看護評価の指針 第5版の改訂版、別紙）に沿って評価

◆看護師現員数

看護部長	谷岡 美佐枝						
副看護部長	喜多 由賀里 村上 博美						
所 属	看護師長	看護師数	看護補助者数	所 属	看護師長	看護師数	看護補助者数
ICU	中村 明美	27	0	12階西病棟	北 由美	24	3
8階東病棟	中野 美佳	25	2	13階東病棟	森本 富美子	24	3.8
NICU	中野 美佳(兼)	12	0	13階西病棟	玉置 ひろみ	21	3
8階西病棟	中筋 葉子	14	2	手術室	藤原 千佳	39	1
8階南病棟	杉 佳子	24	3	血液浄化センター	酒井 圭子	7	0
9階東病棟	中島 佐和	25	4	外来(一般診療)	今井 康乃	27.5	19.8
SCU	森本 結美	17	0	外来(治療検査)	福永 花子	19	3
9階西病棟	狩野 智恵	28	5	救 急	松山 佳子	11	1
10階東病棟	東城 夏恵	23	4	看護部長室	清水 加世子 清谷 口智子	14	1
10階西病棟	土岐 昌世	28	4	看護ケア推進室	柴谷 涼子	6.9	
11階東病棟	田中 真由美	27	4	医療安全管理室	堀 美和子		
11階西病棟	長辻 玲子	23	3	医療福祉相談室	三村 麻紀子		
12階東病棟	遠藤 聖美	22	3	合 計		488.4名	69.6名

◆職員の動向

1. 看護職員数

2019年度			
看護職員数(名)	488	全体離職率(%)	14.4
産休・育児休暇者(名)	20	新人看護師退職率(%)	5.8
新採用者数(名)	65	在籍者平均年齢(歳)	32.3
中途採用者数(名)	23	平均経験年数(年)	10.0
退職者数(名)	75	既婚率(%)	28.7

2. 看護師背景

1) クリニカルラダー別割合

ラダー	2019年度
I	12%
II	32%
III	33%
IV	18%
V	5%

2) 学歴

学 歴	2019年度
看護専門学校卒	71%
短期大学卒	3%
看護大学卒	24%
看護系大学院卒	2%

◆資格取得者・長期研修修了者(人) 3月末

	2019年度
専門看護師	3
認定看護師	15
認定看護管理者	1
サードレベル修了者	0
セカンドレベル修了者	18
ファーストレベル修了者	27
特定行為研修修了者	5

◆看護学校など実習受け入れ状況 2019年度

学校名	実習科目	延べ人数(人)
JCHO 大阪病院附属看護専門学校	基礎・成人・老年・母性・小児・統合	6期生 2,297
		7期生 1,417
		8期生 277
大阪大学大学院医学系研究科	助産	45
兵庫医療大学	統合	12
摂南大学	母性	80
大阪医療保険福祉専門学校	母性・小児	22
甲南女子大学	母性・基盤	332
千里金蘭大学	母性・小児	192
武庫川女子大学	成人慢性期	254
	老年	278
	母性	75
	統合	20

◆教育全般

1. 院内研修

新採用者研修プログラム

今年度、4月の新人は52名であった。新人看護職員研修として、以下13研修、コアレクチャーとして13研修を計画実施した。新採用者の離職率は5.8%と昨年度よりは減少したが、休職する新人看護師もあり、研修以外でも職場適応、メンタルサポートの面での継続した関わりが重要である。

研 修 名		研 修 名	
新採用時研修		看護倫理 I	
3ヶ月研修		看護過程 I	
6ヶ月研修		看護記録	
9か月研修		フィジカルアセスメント I	
1年目研修		救急看護 I	
2か月間ローテーション研修		コミュニケーションスキル I	
看護研究 I			
コア レク チャー 後 期	呼吸状態の観察	コア レク チャー 後 期	摂食・嚥下障害看護
	心臓の解剖・生理と心電図		在宅療養支援
	循環動態の観察		認知症・高齢者看護
	周手術期アセスメント・観察		がん看護
	意識レベル・麻痺状態の観察		褥瘡予防対策
	糖尿病と血糖コントロール		感染管理
	水・電解質バランス		

1人あたりの研修合計時間 400時間
51名が受講を修了した。

■クリニカルラダー別教育計画

研 修 名	受講者数(人)	研 修 名	受講者数(人)
看護倫理Ⅱ	24	リーダーシップⅡ	32
看護倫理Ⅲ	10	プリセプターシップ	29
コミュニケーションスキルⅡ	34	プリセプター交流会 Part1	35
看護過程Ⅱ	25	プリセプター交流会 Part2	36
看護過程Ⅲ	8	新人看護職員実地指導者研修 Part I	14
フィジカルアセスメントⅡ	30	新人看護職員実地指導者研修 Part II	14
救急看護Ⅱ	24	新人看護職員実地指導者研修情報交換会	8
救急看護Ⅲ	9	新人看護職員教育担当者研修 Part III	5
在宅療養支援Ⅱ	28	臨床指導者研修 Part I	12
在宅療養支援Ⅲ(講義編)	14	臨床指導者研修 Part II	12
在宅療養支援Ⅲ(実習編)	9	指導案研修	5
認知症高齢者看護Ⅱ	25	看護研究Ⅱ	10
認知症高齢者看護Ⅲ	13	看護研究Ⅲ Step I・Step II	14
2年目看護師研修	30	キャリア研修	19
臨床推論	17		

■エキスパートコース研修

研 修 名	受講者数(人)
スキンケアⅡ	27
スキンケアⅢ	6
がん看護Ⅱ	18
がん看護Ⅲ	4
摂食嚥下Ⅱ	23
摂食嚥下Ⅲ	7

■看護管理者研修

研 修 名	受講者数(人)
新人看護師長	4
労務管理	20
経営分析	18
教育体制	18
医療安全	21

2. 院外研修

NO	研 修 名	受講者数(人)
1	認定看護管理者教育課程研修 セカンドレベル	3
2	認定看護管理者教育課程研修 ファーストレベル	5
3	大阪府専任教員養成講習会	1
4	保健師助産師看護師実習指導者講習会	2
5	大阪府看護協会短期研修	70
6	JCHO 特定行為研修	3

3. 訪問します! 健康講座

住民の皆さまや医療機関、介護施設の皆さまの健康づくりのお手伝いとして無料で訪問し健康講座を8回実施した。

	開催日	テーマ	依頼元	参加人数
1	7月12日	3年生向け 性教育	下福島中学校	200人
2	7月16日	認知症 うつ病予防について日々できること	福島区社会福祉協議会 海老江西コミュニティ なにわ元気塾	20人
3	9月30日	いつまでも元気に過ごせるためには	此花区健康づくり協議会 なでしこ会	22人
4	10月3日	2年生向け 性教育	下福島中学校	200人
5	11月26日	認知症 うつ病予防について日々できること	福島区社会福祉協議会 野田コミュニティ なにわ元気塾	18人
6	12月6日	認知症 うつ病予防について日々できること	福島区社会福祉協議会 吉野コミュニティ なにわ元気塾	18人
7	2月6日	1年生向け 性教育	下福島中学校	200人
8	2月12日	透析看護	グッドライフケア福島	20人

4. ケア連携の会・情報交換会

地域と施設との顔の見える連携を深めるため「事例検討会」3回・「医療・看護トピックスの情報提供」を3回、情報交換・意見交換会を4回実施した。

	開催日	講座名称	テーマ	参加人数
1	4月11日	此花区訪問看護 ステーション 連絡会	連携強化にむけた情報交換・意見交換	地域：7 院内：2 合計：9名
2	6月21日	第25回 ケア連携の会	心不全の管理と生活指導 (講師：循環器内科 部長 長谷川新治)	地域：41 院内：40 合計：81名
3	7月10日	第26回 ケア連携の会	新しく医療処置を導入した重症心身障がい児(者)の退院支援 (事例提供：8階西病棟看護師 河内久美)	地域：23 院内：21 合計：44名
4	7月11日	此花区訪問看護 ステーション 連絡会	事例検討	地域：6 院内：1 合計：7名
5	9月11日	第27回 ケア連携の会	がん患者の意思決定支援 ～ホスピス転院後、自宅退院した事例を通して～	地域：46 院内：22 合計：68名
6	10月10日	此花区訪問看護 ステーション 連絡会	連携強化にむけた情報交換・意見交換	地域：6 院内：1 合計：7名
7	10月24日	第28回 ケア連携の会	在宅委の立場から考える意思決定支援 (講師：サギス中クリニック 院長 塚本雅子)	地域：17 院内：39 合計：56名
8	11月13日	第29回 ケア連携の会	末期患者の最期を支えるには～死期が差し迫って急遽退院した患者の事例を通して～ (事例提供：クオレ訪問看護ステーション姫島 管理者 藤倉佳子、大阪病院 看護ケア推進室 志方優子)	地域：26 院内：17 合計：43名
9	1月9日	此花区訪問看護 ステーション 連絡会	今年度の評価と次年度の計画	地域：6 院内：2 合計：8名
10	1月22日	第30回 ケア連携の会	脳卒中について (講師：大阪病院 脳神経内科 部長 寺川晴彦)	地域：25 院内：23 合計：48名

(看護師長) 柴谷涼子、看護師3名

◆重点目標

1. 病院経営を意識した活動を推進する

- 1) がん患者指導管理料イ・ロ、緩和ケア診療加算など更にごん医療関連の診療報酬の算定につながる方法を検討する。
- 2) 認知症ケアチームへの依頼を促進し、認知症ケア加算1算定につなげる。

◆実績

- 1) がん相談支援センター運営フロー完成させ、がん相談の運用を開始できた。苦痛のスクリーニングシートを活用し、ケアへ反映できるよう各部署のリンクナースと協力した結果、反映率は向上した。
- 2) 認知症ケアチームへの依頼件数が342件(前年度164件)に増加した。せん妄予防にも取り組み、DELTAを導入した。せん妄予防のためのバス内の薬剤変更にも着手した

(看護師長) 中村明美、看護師25名 12床

◆重点目標と実績

ICUは全室個室12床(2019年度は8床)で運営しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。

今年度は「地域医療支援病院として患者のスムーズな受け入れができる体制づくりとともに、効果的な病床運営を行う」を重点目標とし、スタッフと共に努力した。結果、病床稼働率46.3%と未達成であった。病床数8床での稼働率は68.9%であるが、今後12床での運営を目指すために、効果的な病床管理について、今後も課題として取り組むことが重要である。

(看護師長) 中野美佳、助産師30名、看護師7名 産婦人科:20床 小児科:9床

◆重点目標と実績

8階東病棟とNICUは“母子医療センター”として一体化し、2年が経過した。母子医療センター内にとどまらず、手術室スタッフや麻酔科医とも連携・協働し、より安全な分娩環境の構築に努めている。

分娩件数は、平均46件/月、551件/年であり、2018年度(2015年新病院移転以降最低件数)と比較して約50件の増加に留まっており、2016年度(移転以降最多、平均62件/月、738件/年)と同程度の実績を目指して、今後も努力・工夫する必要がある。帝王切開率は20.1%で、横ばいであった。

NICUはのべ入室患者数が1,200名を超え、過去5年間で最多であった。在胎週数34週の児や2,000g未満の児を受け入れたことが今年度の特徴であった。

(看護師長) 中筋葉子、看護師15名、保育士1名 小児科:22床

◆重点目標と実績

8階西病棟は小児入院医療管理料2を取得しており、15歳未満の小児患者を中心に受け入れ、入院患者の約80%が緊急入院を始めた。その半数は地域医からの紹介入院であり、小児救急対応病院として緊急入院の受け入れを行えるように病床運営を行った。主な疾患は、呼吸器感染症・胃腸炎・けいれんなどの急性期患者であった。また15歳未満の整形外科(骨折やスポーツによる関節疾患)、耳鼻科(扁桃摘出術)、眼科(斜視、網膜疾患)等の科が全体の20%を占め、周術期患者が始めた。入院生活がより安全・安楽に過ごせ、子どもの成長発達を家族とともに支えるために医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、保育士、訪問学級教師など多職種で協働した。

8階南病棟

(看護師長) 杉 佳子、看護師24名 婦人科・乳腺内分泌外科：42床

◆重点目標と実績

当病棟は産婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性病棟である。がん患者が多く、緩和ケアに対する看護に力を入れている。また、短期入院や慢性期、終末期の患者が混在し、多職種との連携を図り患者や家族の希望に沿った、寄り添った看護に努めている。病床稼働率73.4%、1日平均入院患者30.8人、病床回転率55.5、重症度、医療・看護必要度Ⅱは24.5%であり、目標の達成には至らなかった。病院全体の患者数が減少したことも原因のひとつであった。直入患者を年間390名、月平均32.5人を受け入れ対応を行った。今年度は、患者が安心して退院できるよう、在宅療養支援を充実させることを目標とし、退院前訪問を2件行い、地域との情報交換や連携を図ることができた。

9階東病棟

(看護師長) 中島佐和、看護師23名 脳神経外科・神経内科・消化器内科：39床

◆重点目標と実績

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科の混合病棟である。入院患者の半数以上は脳卒中の患者でSCUでの急性期治療を受けた後の転入となっている。様々な入院目的の患者に対し、安心、安全な医療・看護が提供できるよう多職種で連携しながら介入を行った。また、脳神経疾患の専門病棟として、様々な機能障害を発症した患者に生活の再構築を見据えた機能回復への援助や家族を含めた再発予防に対する指導の充実に努めた。

1. 地域医療支援病院として、効果的な病床運営を行う

SCUをはじめ関連部署との連携をはかり転入患者の計画的な受け入れや、直入患者の積極的な受け入れを行ったが、入院患者1日平均32.4人、病床稼働率83.1%と前年度より低下した。

SCU(脳卒中ケアユニット)

(看護師長) 森本結美 看護師16名 脳神経外科・神経内科：9床

◆重点目標と実績

脳卒中ケアユニットでは全室個室9床での運営で急性期の脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症早期から医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどが協働し、脳卒中急性期患者の回復促進を図っている。今年度の疾患割合は脳梗塞72%、脳出血16%、くも膜下出血3%、その他9%であった。

1. 地域医療支援病院として、患者のスムーズな受け入れができる体制づくりと効果的な病床運営を行う

今年度から脳卒中ホットラインの開始に伴い、9階東病棟、医師と共に効果的でスムーズな受け入れができるようにベッドコントロールの強化を行った。今年度1日平均患者数8.3人、病床稼働率は91.7%であった。

9階西病棟

(看護師長) 狩野智恵、看護師28名 循環器内科・心臓血管外科・消化器内科：46床

◆重点目標と実績

1. 1日平均入院患者1日39.1名、重症度、医療・看護必要度平均40%以上を維持する

5月～11月の新入院患者数減少により1日平均入院患者38名/日、病床稼働率82.5%と目標達成には至らず。必要度は42.3%で急性期の基準は満たした。

2. 循環器疾患・心臓血管外科疾患患者に関する看護実践力の育成、中堅看護師がリーダーシップを発揮できるように人材育成する

異動者を対象とした教育計画を立案し実行。ACLSプロバイダー取得2名

3. 地域医療支援病院として、かかりつけ医・地域の社会福祉サービスと連携した心不全患者の継続看護の体制づくりに取り組む

院内心不全教室を通年実施。大阪心不全地域連携の会西部地区の拠点病院となった。

(看護師長) 東城夏恵、看護師22名 消化器内科：45床

◆重点目標と実績

10階東病棟は消化器内科単科の病棟で、内視鏡等検査および治療・処置を目的とした短期入院患者、悪性・慢性疾患に対し繰り返し治療を継続する患者、消化器疾患が急性増悪する患者、消化器疾患を抱えた状態で療養生活に臨む患者、急性期から慢性期を経て終末期に移行していく患者が入院している。急性期で短期入院の患者と慢性期・終末期が混在する病棟であり、「入院時から多職種と連携し、患者家族の思いを考慮した退院支援を行う」を目標として掲げ、医師や多職種と協働し、患者・家族の希望に沿った治療・看護を提供し、退院を迎えられるように努めている。

(看護師長) 土岐昌世、看護師28名 消化器外科：45床

◆重点目標と実績

当病棟は、消化器外科病棟で、入院患者の約60%が手術目的の患者である。しかし、悪性腫瘍患者への化学療法や放射線療法、緩和治療を中心に行う患者など繰り返し入院される患者や緊急入院（37.2%）される患者が多いのも特徴である。そのため、周術期看護に加えて、幅広いがん看護の知識と技術の習得と質の高い看護実践の提供を重点目標としている。消化器外科看護の看護実践能力を発揮できる人材を育成し活用するため、指導観・教材観・学習者観を明らかにし、基本的な看護を中心に教育計画の見直しを行い実施し、看護手順やマニュアルなど活用し実践に活かすことができつつある。また、ケアカンファレンスを積極的に行い、CNS/CNや多職種と連携を図り、患者が安心して退院できるような支援を行う取り組みを行った。さらに連携を強化し、学びを深め実践力向上に努めていきたい。

(看護師長) 田中真由美、看護師22名 呼吸器外科・呼吸器内科：45床

◆重点目標と実績

当病棟は呼吸器内科・外科の呼吸器疾患の患者が入院している病棟である。呼吸器内科は、肺がん・肺炎の患者が多い。中でも肺がんの患者が62%を占めており、主に化学療法・放射線療法を受ける患者やがんの終末期の患者が多く重症度が高いのが特徴である。また、呼吸器外科の手術は年間32件実施された。主に肺がん・気胸の手術であった。

1. 救急患者のスムーズな受け入れと効果的運営を行う

病棟稼働率85%を目標とし、退院支援の強化を図り効果的な病床管理に努めると共に直入患者の受け入れを積極的に行ったが、80.4%と目標は達成できなかった。

(看護師長) 長辻玲子、看護師23名 整形外科・泌尿器科：45床

◆重点目標と実績**1. 予定入院患者、救急患者をスムーズに受け入れ、効果的な病床運営を行う**

- 1) 入院患者1日平均39名、病床稼働率85%を達成する。
- 2) 重症度、医療・看護必要度の精度を保つための対策を立案、実施、評価する。
- 3) 救急患者を受け入れられるようベッドコントロールを行う。
 - 医師と情報共有を行い、退院日を決定、ラウンドや回診を通して得た情報、問題点をスタッフと情報共有し退院目標達成に向け取り組み、目標達成できた。
 - 看護必要度監査を実施、問題点を部署内で共有、入力間違いの件数を減らすことができた。
 - ベッドコントロールを行っていたが前年度より直入患者数は減少、目標達成できなかった。

12階東病棟

(看護師長) 遠藤聖美、看護師22名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

1. 整形外科手術予定入院患者、救急患者を受け入れ、効率的な病床管理を行う

1日平均入院患者数38.5名、整形外科3病棟との調整、また個室を有効に利用して術当日の転入をなくしたことで術前の状態を十分に把握し術当日術直後の安全・安心なケアを提供出来た。

2. 整形外科疾患の看護実践力の向上と、リーダーシップを発揮できる人材を育成する

新人教育を「整形外科に配属ですか」(メディカ出版・編著 JCHO 大阪病院)を主に使用し、病棟勉強会、OJTで整形外科看護技術の習得を図った。

12階西病棟

(看護師長) 北 由美、看護師21名 整形外科：45床

◆重点目標と実績

整形外科病棟3病棟でのベッドコントロールを実施し、個室を含めた空床状況を確認しながら入院患者の受入れを積極的に行った。1日平均入院患者39.0名、病床稼働率86.6%、重症度、医療・看護必要度20.4%と年度目標を達成することができた。

チーム活動の目標に退院支援を挙げ、入院支援の情報を活かした支援の継続、他職種との連携を行うことを目指し取り組むことができた。緊急入院患者の退院支援が遅れる傾向にあるため次年度の課題とした。

整形外科疾患看護の勉強会を実施し、知識を深めるとともに、整形外科の経験年数の多いスタッフが中心となって実践場面で後輩を指導し、人材育成に努めることができた。

13階東病棟

(看護師長) 森本富美子、看護師24名 眼科・耳鼻咽喉科・腎臓内科：45床

◆重点目標と実績

1. 直入院患者のスムーズな受け入れをすることにより、効果的な病床管理を行う

2020年平均で入院患者数34.6人、病床稼働率76.9% (2019年度2月末 入院患者数34人、病床稼働率75.5%)と昨年より増加したものの目標達成できなかった。退院支援に関して、在宅カンファレンスを通して早期から退院先を考慮できるようになり、それをもとにリハビリカンファレンスでリハビリの目標を確認できるようになった。

2. 看護の楽しさ・働く楽しさを実感できる職場環境づくりを行う

勤務終了後の時間を有効活用できるように超過勤務時間を減らす、委員会・チーム活動を効率よく効果的に行う等を目標としていたが、達成とはならなかった。看護を語る機会をつくらなければならないが、業務時間内では難しいので、なにか工夫する必要がある。

13階西病棟

(看護師長) 玉置ひろみ、看護師19名 糖尿病内分泌内科・皮膚科・形成外科：45床

◆重点目標と実績

1. チーム医療のキーパーソンとして、看護実践能力を発揮できる人材を育成し活用する

糖尿病・フットケアに関する知識・技術チェックリストを活用し実践力の向上に取り組んだ。経験件数の差によって習得レベルに差は生じているが、実践や振り返りの場で指導を行い技術の向上に努めている。

2. 患者の安全・安心のために、看護の質向上に関する取り組みを行う

退院後の生活を見据えた療養指導を充実させるため、インスリン関連の指導の充実が図れるよう取り組みを開始。これまでは口頭でのみ説明し文書を用いた説明が実施できておらず、医師と協働し文書の作成と説明手順を検討し実施した。チームで協力して文書での指導漏れを予防できるよう取り組んだ。今後、実施忘れの予防に対する対策の検討が必要である。

外来(一般診療)

(看護師長) 今井康乃、看護師28名

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院として、スムーズに在宅と病院が繋がるように関連部署との連携体制を強化し、一般診療外来看護師に必要な看護実践能力を発揮できる人材を育成する。

一般診療外来は、17診療科で運営しており、2019年度外来患者総数は243,210名・1日平均外来患者数は1,010名、地域からの紹介患者総数は11,597名、入院支援室との連携件数は2,129件(昨年度940件)であった。早期から必要な患者へ入院支援が出来る体制を整え、地域包括ケア推進に向けた外来教育計画と各チーム会の活動計画の立案・実施・評価を行った。外来でもケアカンファレンスや看護の振り返りを行い、倫理的視点を養い意思決定支援に活かしている。

外来(治療検査)

(看護師長) 福永花子、看護師20名

◆重点目標と実績

外来(治療検査部門)は、内視鏡センター、放射線科、外来治療センターの3つのユニットを一つの部署としている。今年度は以下の目標に対してスタッフとともに努力した。

1. 地域支援病院として効果的な病床運営を行う

治療検査数・内容の変化に応じた応援・教育・支援体制を整えた。内視鏡センターでは、年間10,439件(ESD 278件)の検査・治療が実施された。アンギオ件数は年間1,031件、全身麻酔下で行われるアブレーションおよび脳血管治療の件数が増加した。リニアックの年間治療延べ照射件数は3,128件であり高精度放射線治療が増加した。外来治療センターにおける化学療法実施件数は年間3,227件であった。カンファレンスを活発に行い多職種で協働できた。

外来(救急)

(看護師長) 松山佳子、看護師11名

◆重点目標と実績

1. 地域医療支援病院として、円滑な救急患者の受け入れ体制の整備を行う

地域の救急患者を早急に受け入れるため、医師及び多職種との協働や一般診療、地域連携室との連携の強化を行った。また、重症患者にも安全で安心な看護が提供できるように院内トリアージ技術を含めた知識・技術の向上や倫理的配慮、家族へのケアなどの教育にも力を入れ、強化を図った。

結果、救急搬送患者数は目標の3,000件を超えることができた。

救急患者総数(救急搬送患者数)	8,622人(3,023人)
院内トリアージ アンダートリアージ率	0.673%

◆スタッフ

(課長) 宮川広行、他事務職員11名、技能職員7名、非常勤職員3.7名

◆概要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係の4つの係で構成されています。

主な業務として、総務係は関係官公庁への許認可申請、届出および連絡調整、会議および諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書クレーム対応、電話交換業務、図書、医局など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務を受け持っています。

また、給与係は人事・給与事務や賞罰に関する業務を、職員係は職員の労働条件や研修に関する業務を、厚生係は職員の健康管理や福利厚生に関する業務などを中心に職員に直接関係する業務を受け持っています。これら業務の遂行にあたり、事務系業務を行うスタッフ（派遣職員含む）は職員10名、再雇用職員2名、非常勤職員4名、派遣職員2名の計18名で、技能系業務を行うスタッフは職員5名、任期付職員1名、再雇用職員1名、非常勤職員1名の計8名で構成され、総務企画課を運営しています。

◆実績（主な課目標）

●増収ならびに費用節減対策

令和2年度診療報酬改定への対応。
現行施設基準の維持及び上位基準の取得。
施設管理の徹底による営繕費用の削減。
光熱水料等費用削減。

●人員管理

病院運営に必要な人員確保、適正配置。
次年度に向けた人員配置計画の作成。
法令等諸規程に基づく委託及び派遣関係の調整。

●働き方改革を見据えた勤務時間の適正管理

出退勤管理業務の実施、時間外勤務の適正管理、年次有給休暇の取得促進。
同一労働同一賃金への対応。
医師勤務化の推進。

●課内業務管理

課内業務の効率化、省力化の推進による負担軽減。
将来を見据えた人材育成。
業績評価制度の適正運用。

●その他

職員の健康管理への対応（過重労働の軽減、健康診断受診率の向上）。
障がい者雇用（法定雇用率を満たす人員確保）。
新人事給与システムへの円滑移行。
個人情報、コンプライアンスの適切運用。
各種監査での指摘事項に対する適切な対応。
病院機能評価受審への適切な対応。

◆スタッフ

(課長) 福田 勢、他事務員7名、非常勤事務員0.8名

◆概 要

経理課は、経理係と契約係の2部門で構成されています。

経理係は、日々の売上げから病院全体の決算業務、経営分析、各種統計資料の作成、予算策定などお金に係わる様々な事務処理を担当しています。また、独立行政法人としての透明性と説明責任を確保しつつ、JCHO大阪病院の財政状況及び運営状況を決算書に表現するという繊細な業務を行っています。

契約係は、病院運営上、無くてはならない医療機器や診療材料、各種消耗品等の調達並びに修繕などに関し、常に各部門の様々な要望に迅速に対応し、さらなるコスト削減を目指して、次のような取り組みを行っています。

- ①SPDシステムによる院内材料のスリム化を実現したデータベース管理により、診療材料委員会における通減化対策、及び定期的な価格交渉を推進しています。
- ②医療機器等の購入に関しては、職員一人一人のコスト意識を高め、費用対効果の実践に努めています。
- ③業務委託について、原則、一般競争入札を実施することにより、契約価格の減少を目指して交渉にあたっています。

経理課は、病院スタッフとのコミュニケーションを大切にしつつ、適正な会計処理を遵守することに努めています。

年度計画を達成するため、投資の基準に従い、迅速に、適正なタイミングを図り、病院機能が十分に発揮できるよう日々研鑽して業務遂行しています。

【決算概要】

(単位：千円)

科 目	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
診療業務収益	15,282,503	16,312,547	16,431,018	16,776,612	16,492,752
入院診療収益	10,127,268	10,821,767	10,925,876	11,129,557	10,849,261
(平均点数)	(6,254.1)	(6,387.5)	(6,448.2)	(6,539.2)	(6,732.2)
(平均患者数)	(442.4)	(464.2)	(464.2)	(466.3)	(440.3)
外来診療収益	4,392,724	4,633,394	4,711,020	4,799,007	4,879,299
(平均点数)	(1,539.4)	(1,601.8)	(1,627.7)	(1,678.6)	(1,784.0)
(平均患者数)	(1,174.3)	(1,190.4)	(1,186.1)	(1,171.7)	(1,130.2)
【経 常 収 益】	15,543,877	16,538,539	16,654,652	16,960,749	16,654,714
診療業務費	15,865,689	16,326,785	16,458,472	16,776,989	16,583,812
給与費	7,549,992	7,822,828	7,626,845	7,878,510	7,659,753
材料費	4,785,638	5,022,054	5,206,501	5,234,125	5,335,736
設備関係費	1,648,229	1,811,166	1,782,294	1,775,328	1,672,533
(減価償却費)	1,337,495	1,386,073	1,382,821	1,325,015	1,198,310
経 費	979,393	712,587	736,789	757,390	738,345
【経 常 費 用】	16,102,229	16,529,844	16,652,985	16,941,590	16,735,483
【経 常 収 益】	△558,351	8,696	1,666	19,159	△80,769

◆スタッフ

(課長) 魚澤正克、他事務員11名、非常勤事務員6.2名

◆概要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

【外来部門】(委託)

- 初診受付
- 再診受付 (自動再診受付機)
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口 (自動精算機)
- 救急受付
- 外来レセプト (外来レセプトの作成・点検、査定対応)

【入院部門・その他】

- 入院計算 (入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応) DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。(DPC請求・平成18年4月～)
- 入院センター (入院申込手続き、入院当日受付、ベッドコントロール)
入院手続きの窓口として入院のご案内と、毎日ベッドコントロール会議へ出席し円滑な病床管理の一翼を担っています。
- 統計、システム対応 (レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス)
- 公費医療 (労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責)
- 未収金処理 (未収金の督促・管理)(未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年9月～)
- 検診 (人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求)
- 文書 (介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整)
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者 (MA)

◆実績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月1回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

また、外来看護師とのコスト算定勉強会・意見交換会を行い、診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。

経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと思えます。

医療安全管理室

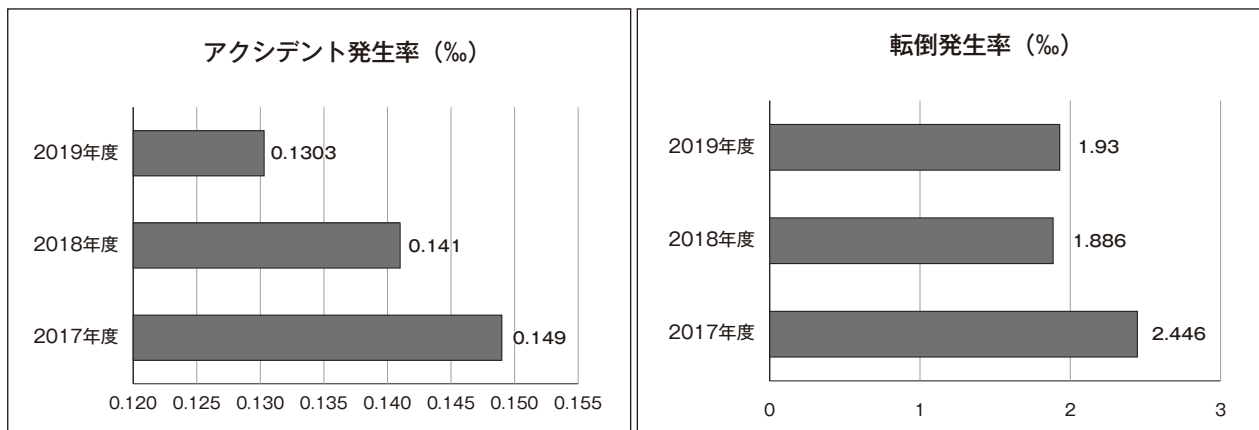
◆スタッフ

(部長) 大脇 肇、(室長) 堀 美和子、他看護師 1 名、薬剤師 1 名、臨床工学技士 1 名、事務員 1 名、放射線科部長 1 名、放射線技師 1 名

◆概要

旧大阪厚生年金病院時代の1999年10月に事故防止対策委員会が発足後、医療の安全と信頼、患者への医療サービスの改善・向上、医療事故防止を目指して活動を行ってきた。2016年より医療安全管理体制を見直し、専従で看護師 2 名、専任で 6 名の 8 名体制で安全業務全般を担っている。医療安全管理室では、統括リスクマネージャーを中心に、①医療安全に関する職員への教育・研修の企画・実施、②医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・職員へのフィードバック・評価、③医療事故発生時の対応、④全死亡事例の把握、⑤患者からの暴言・暴力対応、⑥患者・家族からの医療に関わる苦情・相談対応を主に行っている。

◆実績



※診療部へ医療安全情報として回覧板を配布

※他施設で起こった事故や院内で発生した事象で看護部全体に緊急でお知らせを行う緊急警告の配布

※RCA分析：2007年度より導入開始

※院内リスクパトロール（1回/月、多職種合同でテーマを決めて）

※医療安全教育：2回/年の講演会と各職種に対して多様に開催



◆スタッフ

(部長) 伊藤敏文、事務員 1 名

◆概 要

医療情報室は1989年6月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダーリング、電子カルテシステムと拡張され、現在では大半の部署が電子カルテを中心に部門ごとに専用システムが導入され、院内のシステム化・インフラ整備は一通り完了いたしました。院内のシステム・インフラの維持には、更新・メンテナンスなど業務は多岐に及び、その規模も端末台数が1,000台を超える大規模なものへと成長して参りました。また、個人情報保護の観点からセキュリティの強化に奔走した日々を経て、現在は新型コロナウイルス感染症対策にWEB会議・オンライン診療等の充実が求められています。更に2022年にはシステム・インフラの更新時期を迎えます。何かと忙しい日々が続きそうです。

◆実 績

1988(昭和63)/12	医事会計システム導入
1994(平成6)/3	医事会計システム更新
2004(平成16)/3	オーダーリングシステム (NEC Ordering system) 導入
2008(平成20)/5	電子カルテシステム (NEC MegaOakHR2.5) 導入
2015(平成27)/5	新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム (NEC MegaOakHR R9.0.1) 更新
2022(令和4)/5	電子カルテシステム等の更新予定

◆スタッフ

(部長) 伊藤敏文、診療情報管理士5名、事務員1名

◆概要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との2部門で構成されています。

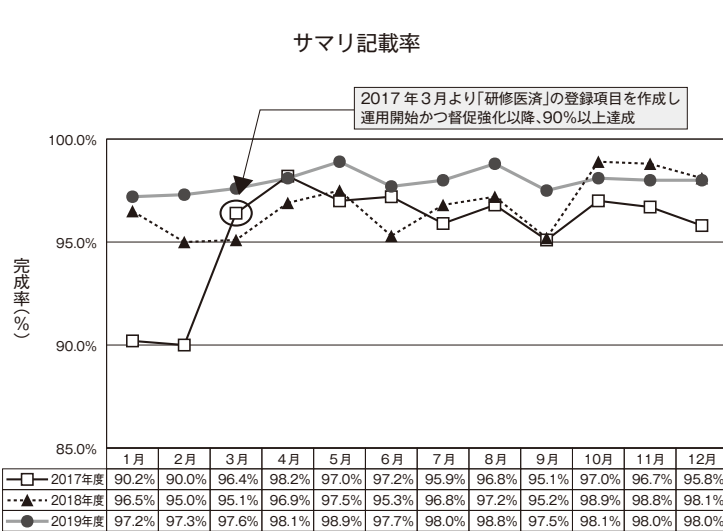
【診療情報管理】

- ①入退院患者における統計業務(病歴統計)
 - 月次統計(退院患者統計:退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・分娩新生児情報集計等)
 - 年次統計(国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数・退院患者数等)
 - 診療情報管理システムメンテナンス
 - 患者情報抽出(手術別・病名別等)
- ②がん登録
 - がん登録(内容登録・督促・府および国への提出・分析・予後調査参加・QI研究参加)
- ③入院患者情報入力および質的点検
 - 診療情報管理システム(メディバンク)への入院患者情報入力
電子カルテ・退院サマリを点検し、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録
 - 院外死亡登録
 - 退院時サマリ(未サマリの記入依頼・サマリ達成率等)
- ④DPC請求の病名確認
 - 退院患者及びDPC包括期間終了間近の入院患者のDPC病名「ICDコード」の確認
 - DPC基礎調査 付加コード・OP初再回・がん登録のチェック
- ⑤カルテ開示
- ⑥電子カルテ監査
- ⑦電子カルテへの文書・新規スキャンの管理

【カルテ管理】

- ①書類のスキャン取込
- ②カルテ庫へID別の患者ファイル書類保管
- ③患者ファイル管理(書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促)
- ④紙カルテ管理(依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促)
- ⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル保管(永久保存管理・廃棄)

◆実績



サマリ記載率(科別)
(2019/04/01~2020/03/31 退院分)

診療科	総数	退院後14日以内		現在	
		作成数	作成率(%)	作成数	作成率(%)
総数	13,046	12,796	98.1%	13,046	100%
整形外科	1,888	1,856	98.3%	1,888	100%
外科	1,143	1,135	99.3%	1,143	100%
脳神経外科	376	376	100.0%	376	100%
内科	1,407	1,397	99.3%	1,407	100%
皮膚科	182	172	94.5%	182	100%
泌尿器科	386	386	100.0%	386	100%
産婦人科	1,307	1,264	96.7%	1,307	100%
眼科	971	962	99.1%	971	100%
耳鼻いんこう科	283	281	99.3%	283	100%
小児科	994	979	98.5%	994	100%
歯科・歯科 口腔外科	57	57	100.0%	57	100%
形成外科	189	189	100.0%	189	100%
脳神経内科	274	272	99.3%	274	100%
循環器科	920	881	95.8%	920	100%
消化器内科	2,268	2,195	96.8%	2,268	100%
乳腺内分泌 外科	240	238	99.2%	240	100%
心臓血管 外科	161	156	96.9%	161	100%

健康管理センター

◆スタッフ

(センター長) 千葉三保、看護師(保健師) 1名、臨床検査技師 1名、スタッフ 1名

◆概要

当健康管理センターは1959年(旧大阪厚生年金病院時代)に創設され、病院併設の人間ドックとしてこれまで多くの皆様にご利用いただきました。

二日ドック、一日ドックの基本コースには、人間ドック学会で推奨されている健診項目に準じた検査項目が含まれます。二日ドックには糖負荷試験に加え、甲状腺超音波検査、ロコモ度テスト(体力測定)が基本項目に含まれています。二日ドックは宿泊なしで受診することもできます。いずれの基本コースでも、経口胃カメラ・経鼻胃カメラ・胃透視は差額なしで選択可能です。

オプション項目には、脳ドック、肺がんドック、骨ドック、腫瘍マーカー(CEA・CA19-9)、ピロリ抗体他、2016年度から大腸CT、大腸カメラが追加されました。2019年度からは女性がん検診、喀痰細胞診がオプション項目に加わりました。マンモグラフィーはこれまでの1方向撮影から2方向撮影となり、より精密な検査になりました。

2020年3月に、「人間ドック健診施設機能評価」の認定を取得しました。

～病院併設の健康管理センターならではの丁寧な対応～

1. 検査結果は当院各診療科の医師による専門的な判定
2. 人間ドックで要精査判定があった場合は、当センターから当該科へ院内紹介
3. 至急受診が必要な場合は、健診受診当日に外来へ案内

質の高い検査と判定を提供し、生活習慣病を含む各種疾患の早期発見・早期治療によって、地域の方々の健康維持と健康寿命の延長のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

○センター内：保健師による問診・保健指導、医師による診察・面談、健康運動指導士による体力測定・運動指導

○主な検査：各診療部門で実施

●当センターでは白を基調とした、清潔でゆったりとした休憩室や個室ロッカーを備え、受診者の快適性・利便性を高める努力をしています

◆実績

2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)利用者数

【基本ドック】		【オプション項目】			
一日ドック	895名	脳ドック	93名	骨ドック	66名
二日ドック	61名	肺がんドック	176名	女性検診セット	240名
シルバー半日ドック	11名	大腸CT	54名	婦人科健診	75名
脳ドック(単独)	12名	大腸カメラ	56名	乳腺超音波	50名
		腫瘍マーカー	386名	マンモグラフィー	59名
		ピロリ抗体検査	96名	喀痰細胞診	109名

大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

(学校長) 山崎芳郎、(副学校長) 谷岡美佐枝、(教務主任) 坂井直美、専任教員8名、事務員1名

◆概要

昭和33年4月1日に厚生年金病院大阪高等看護学院として開校した。その後、昭和51年専修学校移行の認可を受け、昭和53年4月1日に専修学校となった。それに伴い「大阪厚生年金看護専門学校」と名称を変更している。平成6年には専修学校の専門課程の修了者に専門士の称号が付与された。また、平成26年4月1日には、JCHOへ移行し「大阪病院附属看護専門学校」と名称を変更している。

平成30年に創立60周年を迎えるにあたり、看護学校創立60周年記念誌「継承」を作成し、平成30年4月に発刊した。

平成31年に大阪病院と附属看護専門学校の共通のコンセプトを「Autonomy：自律」とし、「看護師として、必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成する」ことを目的とした。

社会の変化に伴い寮の需要が少なくなり、令和2年3月に学生寮を閉寮した。

◆実績

1. 令和元年度卒業者の状況（令和2年3月卒業）

卒業者数	就職者数				進学・大学編入者数			その他
	大阪病院	JCHO 関連病院	その他病院	合計	助産師学校 養成所	看護系大学	合計	
34人	23人	7人	3人	33名	1人	0人	1人	0人

2. 109回看護師国家試験の合格率：100%（8年連続100%）

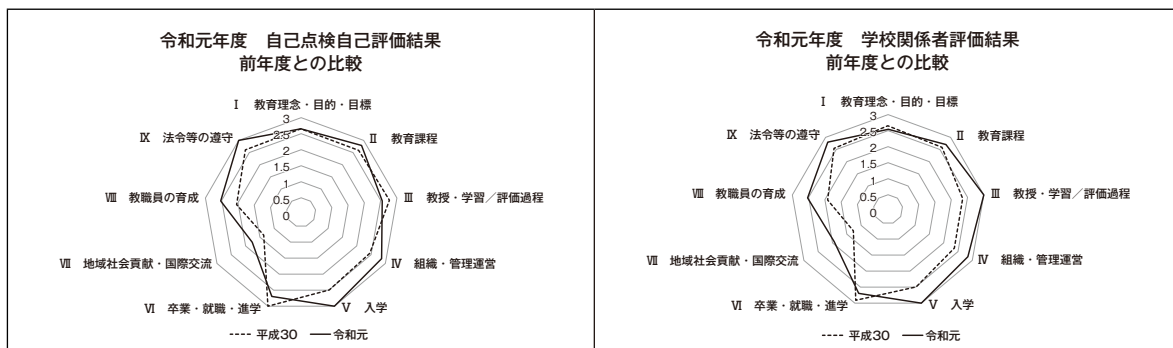
3. 令和2年度 学生数（令和2年4月10日現在）

	1年	2年	3年	計
学生数	41人	41人	37人	120人

4. 令和2年度 入試状況

学年定員数	方法	受験者数	実施日
40人	推薦入試	26人	令和元年11月11日
	一般入試	49人	令和2年1月9日・10日
	計	75人	

5. 令和元年度自己点検・自己評価および学校関係者評価（学校関係者評価 令和2年3月26日実施）



【学校関係者評価総評】

教育理念・目的として「Autonomy」をコンセプトに体系的に取り組まれていることがそれぞれの評価項目の中で理解することができた。病院関係者と連携を図り、前年度の評価をもとに取り組まれた成果が今年度の評価となっていた。

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務員

◆概要

＜重点目標＞

1. 薬剤耐性グラム陰性菌対策— 環境整備の徹底と評価
2. 手指衛生環境の改善
3. 血管内留置カテーテル関連血流感染（CLABSI）対策強化

◆実績

1. ICNと委託会社との清掃ラウンドでは、以前より清掃不備は減少している。
今年度より退院時清掃に紫外線照射の実施、およびクロスを変更しており、耐性菌、CDIは低値で経過。効果については継続して確認していく。
2. サンプルングを実施し、評価の上、製品変更したが、手指衛生回数が減少した。看護師対象にアンケートを行ったところ、半数が「嫌」と回答。使用感の悪さが手指衛生回数の減少要因とわかった。ただし、変更後手荒がましになったスタッフもあり、新製品の使用は続けながら、3種類目の製品を検討していく。
3. 1%クロルヘキシジンエタノールに変更。血培サーベイランス結果では、
2018年度：CLABSI 16件（内末梢1件）
2019年度：CLABSI 10件（内末梢5件）
CLABSIサーベイランスを実施していないため、件数のみで比較は困難だが、今年度は末梢カテーテルが原因と思われるBSIが増加している。高齢者やせん妄、認知症患者の増加に伴い、スポットでの点滴も難しいことから、入れ替えができない症例や長期留置もみられるため、末梢カテ挿入時もクロルヘキシジンエタノールを使用することも検討する。

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

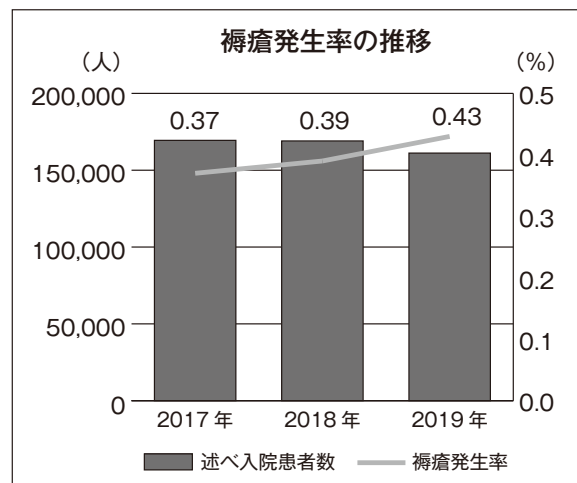
◆概要

【目的】褥瘡発生を予防し病院の提供する医療の質向上を目指す。

【活動内容】

- 褥瘡対策委員会 月1回（第2月曜日）開催
- 褥瘡回診・カンファレンス（毎週）
- 褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定
- 除圧用具の適正使用、管理
- 褥瘡に関するコスト算定状況の把握
- 褥瘡対策講演会開催 日時：2019年7月22日
参加者：128名
- 看護師対象ラダー別研修実施
- 褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生のリスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実績



褥瘡発生率＝褥瘡発生数/延べ入院患者数×1000

◆メンバー構成

医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・言語聴覚士

◆概要

「栄養」とは、全ての治療行為の土台になる重要なものです。NSTは主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養の評価と不足時の栄養管理を行い、手術・薬物治療など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。静脈栄養の適切なメニュー作成やカテーテルの選択、経腸栄養のための胃瘻・腸瘻、食道瘻などの経路の提案や造設など、あらゆる方法で適正な栄養管理を継続的に提案・支援していきます。各主治医や他院・在宅診療医の先生方からの依頼で、カテーテル・ポートや胃瘻・腸瘻の造設なども施行し退院後の継続的な栄養状態の維持にも取り組んでいます。

◆実績

日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設認定
 日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士認定教育施設
 栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

2019年度 NST回診 619症例



◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士

◆概要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法（内分泌療法・化学療法・分子標的治療薬など）があり、これらの治療を単独あるいは複数を組み合わせて行います。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・合併する他の病気の有無などに加え、患者さんの希望を考慮し、治療法を決定します。また、治療期間は術後の経過観察を含めると10年間と長期に及ぶため、この間、治療を納得して円滑に行うためには、治療に伴う副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要です。患者さんがより良い環境で、標準治療を安心して受けて頂けるよう医療従事者が協力・連携したチーム医療を行っています。乳がんは、早期発見できれば治療も可能な疾患です。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで、多職種医療チーム・患者会やメイクセラピーを提供しているがんサバイバーの方々とも協働しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしい生活ができるようサポートしています。

◆実績

- 第31回乳がん患者会「つながり」総会の開催
日程：2019年10月26日（土）
- 乳がん患者会「つながり」主催 患者だけの集い
日程：2019年6月22日（土）、2020年2月15日（土）
- がん体験者のおしゃべりサロン（アピアランスケア）
毎月1回開催：2019年度利用者数は59名
- ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院（2019年10月1日～31日の1か月間）
J.M.Sプログラムとして「10月第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィ検査が受診できる環境作り」に賛同し、2019年10月20日（日）に乳がん検診を実施。受診者36名
- 乳がん検診：2019年度受診者427名

緩和ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、MSW

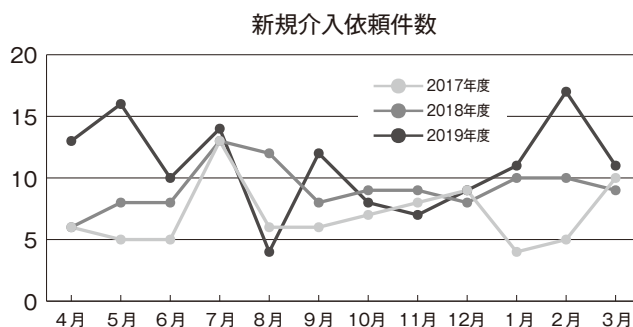
◆概要

≪活動内容≫

- 緩和ケアチーム回診およびカンファレンス
適宜回診し、薬剤提案、ケア実施、多職種連携などを行っている。
- 改訂版苦痛のスクリーニングシート導入
2019年度4月より苦痛のスクリーニングシートの改訂版を導入し、対応フローやアセスメントの視点もマニュアル化した。緩和ケアチーム看護師も適宜内容確認している。
- 緩和ケアチーム運営委員会（1回/月）
新規緩和ケアチーム介入患者、院内の医療用麻薬の使用量把握、緩和ケアに関する診療加算算定などのデータ分析、また、院内の緩和ケア体制に関する改善点の検討などを行っている。

◆実績

- 新規介入依頼件数：2018年度より20%増加した。非がん疾患を主とする診療科からも疼痛や終末期の考え方などの相談あり。依頼内容は身体・精神症状だけでなく意思決定支援や家族支援などもあった。介入時PSが0の時点からの依頼も増えており、スタッフが早期からの緩和ケアを意識できていると考える。
- 改訂版の苦痛のスクリーニングシート導入後はスクリーニングシートを元に患者とコミュニケーションを実施できている割合は約80%だが、今後は質の向上が課題である。



認知症ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。しかし、認知症高齢者が入院するとせん妄の発症をはじめとする行動心理症状の出現やもともとの中核症状のために、身体疾患に対する治療がスムーズに行えない、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADLがさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることでこのような状況を改善し、認知症の方が安心して入院でき、かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実績

認知症ケアチーム回診新規患者数・回診件数・算定件数

	H29年度	H30年度	H31年度
新規回診患者数	89	164	342
回診件数	308	590	829
認知症ケア加算I算定回数	1,623	3,494	4,230

依頼内容

せん妄・BPSDの症状コントロール	191
せん妄予防	133
ADL改善の方法について	13
コミュニケーション方法について	9
不眠の対応	6
家族支援	4
その他	7

※複数依頼含む

転帰

自宅	205
元の施設・病院	50
新規施設	14
転院	65
死亡	17

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概要

呼吸ケアチームは、2010年6月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から1カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

- ① 抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討
- ② 人工呼吸器の安全管理
- ③ 口腔内の衛生管理
- ④ 廃用予防のケア
- ⑤ 呼吸リハビリテーション
- ⑥ 人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士

◆概要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実績

1. フットケア外来

- 糖尿病合併症管理料算定件数：522件
(2019年1月～12月)

2. 血液浄化センターフットケア回診：適宜

- 1) フットケア回診実施患者数：2～5名/月

3. フットケアチームミーティング

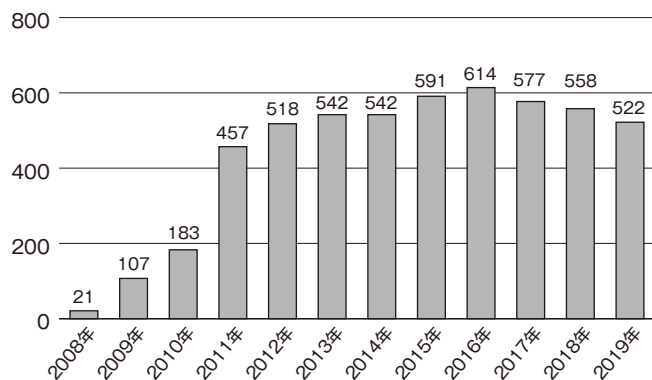
定例会（月2回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

4. フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象

- 2019年11月24日（日）参加者：73名
- 参加職種：医師（皮膚科、糖尿病内科、循環器科、形成外科、心臓血管外科）、看護師、訪問看護師、介護福祉士、理学療法士、義肢装具士、管理栄養士、ケアマネージャー、その他

糖尿病合併症管理料



【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の推進
- 院内チーム活動の連携の強化

◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概要

児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待が急増している現状の中、当院でも行政への通報や支援の依頼を行い対応している。今後も一層の発生増加が予想される中で、患者の権利を守り、患者と家族の健全な家族関係構築を目指して、2012年に虐待対策委員会を発足し、年2回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、総務企画課と多職種にわたっている。虐待症例発生時の対応を明確化するために、対応マニュアルや対応フローチャートを作成し、病院職員全体で虐待対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会としてCA（児童虐待）対策チーム、DV（家庭内暴力）対策チーム、EA（高齢者虐待）対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。虐待症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実績

●2019年度新規虐待対応件数

CA：13件（疑い3件、要フォロー10件）

DV：9件（疑い4件、要フォロー5件）

EA：1件（要フォロー1件）

●2019年度新入職員オリエンテーション

臨床研修医：15名

新規採用者：74名

●2019年度院内講演会

内 容：医療機関におけるDV被害者の発見と対応～日常診療現場を中心に～

講 師：阪南中央病院産婦人科医師・暴力救援センター大阪SACHICO代表 加藤治子先生

参加者：121名（院内111名、院外10名）

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、SW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概要

腫瘍カンファレンスでは、当院のがん患者さんについて複数診療科の医師と看護師、薬剤部、リハビリなど各部門から多職種の参加を得て検討しています。検討内容としては原発・転移巣の評価、治療方針、経済面や家族関係など社会的背景、説明内容、リハビリなど支持療法の適応など多岐にわたります。2015年12月より当初は骨転移にしぼって骨転移カンファレンスとして少数のメンバーでスタートしました。

2016年7月からは腫瘍カンファレンスとなり、対象を全がん患者とし、全職員に自由に参加してもらうようになりました。2019年は10回開催し、計30例について検討を行いました。

現在のがん対策推進基本計画においては、がんと診断されたときからの緩和ケア、がん登録、がん患者の就労などの推進に重点が置かれています。これらの事業は院内の全職種および地域の医師、医療者との協働があってはじめて十分なものとなります。したがってこのようなカンファレンスはがんのチーム医療の推進には必須のもので、多くの医療施設で、ツモールボードなどの名称で広く行われています。当院では月1回、第3水曜日の夕方、各種委員会・カンファレンスの多く行われている時間での開催となっており、多くの方に負担をかけながらの開催ですが、今後さらに多くのスタッフの参加を得て、より活発なものとなることが望まれます。また地域の医療従事者にも周知をはかり、院外からの参加者も募っていきたいとおもいます。

【各種委員会】

	委員会名	委員長	主幹課
1	学術セミナー・図書委員会	岩崎輝夫	総務企画課
2	広報・ホームページ委員会	大脇肇	総務企画課
3	研修管理委員会	島田幸造	総務企画課
4	医学倫理委員会	富士武史	総務企画課
5	院内感染予防対策委員会	長田学	総務企画課
6	医療安全管理（兼事故調査）委員会	院長	医事課/総務企画課
7	医療安全管理対策委員会	島田幸造	総務企画課
8	労働安全衛生委員会	伊藤敏文	総務企画課
9	防災対策委員会	高橋良和	総務企画課
10	医療ガス安全管理委員会	中谷桂治	総務企画課
11	放射線障害予防委員会	西多俊幸	総務企画課
12	病歴文書管理委員会	平尾隆文	診療情報管理室
13	医療情報運営管理委員会（兼）情報セキュリティ委員会	伊藤敏文	医療情報室
14	診療情報提供委員会	富士武史	総務企画課
15	保険等調整検討委員会（兼）DPCコーディング委員会	筒井建紀	医事課
16	クリティカルパス推進委員会	大脇肇	看護部
17	医療の質の評価委員会	大脇肇	医事課
18	脳死判定委員会	岩本文徳	総務企画課
19	施設整備委員会	伊藤敏文	経理課
20	診療材料委員会	富士武史	経理課
21	薬事委員会	畑中信良	薬剤部
22	治験審査委員会	畑中信良	薬剤部
23	委託研究審査委員会	塚本文音	総務企画課
24	輸血療法委員会	中田活也	中央検査室
25	外来治療センター運営委員会	塚本文音	総務企画課
26	栄養管理委員会	畑崎聖弘	栄養管理室
27	プライマリケア・救急医療運営委員会	島田幸造	総務企画課
28	中央検査室運営委員会	岡田昌子	中央検査室
29	病理科運営委員会	吉田康之	病理科
30	放射線室運営委員会	西多俊幸	放射線室
31	手術室運営委員会	中谷桂治	麻酔科
32	集中治療部運営委員会	栗田聡	集中治療室
33	リハビリテーション運営委員会	二宮晴夫	総務企画課
34	人間ドック運営管理委員会	千葉三保	医事課
35	内視鏡センター運営委員会	山本克己	経理課
36	母子医療センター運営委員会	難波範行	総務企画課
37	病床管理運営委員会	谷岡美佐枝	医事課
38	緩和ケアチーム運営委員会	岩崎輝夫	看護部
39	褥瘡対策委員会	竹原友貴	看護部
40	ボランティア活動運営委員会	高橋良和	総務企画課
41	地域医療推進運営委員会	富士武史	地域連携室
42	業務改善・業務連絡委員会	鈴木朗	看護部
43	ワークライフバランスおよびその整備に関する委員会	伊藤敏文	総務企画課
44	虐待対策委員会	富士武史	医療福祉相談室
45	院内暴力・セクシャルハラスメント対策委員会	富士武史	総務企画課
46	契約審査委員会	伊藤敏文	経理課
47	がん診療運営委員会	畑中信良	医事課
48	認知症ケアチーム運営委員会	山森英長	医事課
49	特定行為研修委員会	畑中信良	看護部
50	棚卸実施委員会	院長	経理課



業績

【原著・総説・著書】

1. Shimada K
Osteochondritis Dissecans Open Surgery
Surgical Techniques for Trauma and Sports Related Injuries of the Elbow. 2019 ; 699-706
2. Temporin K
Post-Exertional MRI Is Useful as a Tool for Diagnosis and Treatment Evaluation for Chronic Exertional Compartment Syndrome of Forearms
J Hand Surg Asian Pac Vol. 2019 ; 24 : 311-316
3. Sakaura H
Early fusion status after posterior lumbar interbody fusion with cortical bone trajectory screw fixation: A comparison of titanium-coated polyetheretherketone cages and carbon polyetheretherketone cages.
Asian Spine J. 2019 ; 13 : 248-253
4. Sakaura H
Differences in postoperative changes of cervical sagittal alignment and balance after laminoplasty between cervical spondylotic myelopathy and cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.
Global Spine J. 2019 ; 9 : 266-271
5. Sakaura H
Abdominal aortic calcification is a significant poor prognostic factor for clinical outcomes after decompressive laminotomy for lumbar spinal canal stenosis.
Global Spine J. 2019 ; 9 : 724-728
6. Sakaura H
Early cephalad adjacent segment degeneration after posterior lumbar interbody fusion: a comparative study between cortical bone trajectory screw fixation and traditional trajectory screw fixation.
J Neurosurg Spine. 2020 ; 32 : 155-159
7. Fujimori T
Responsiveness of the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire in lumbar surgery and its threshold for indicating clinically important differences
Spine J. 2019 ; 19 : 95-103
8. Nakaya R
Reproducibility of the Dorr classification and its quantitative indices on plain radiographs
Orthop Traumatol Surg Res. 2019 ; 105 : 17-21
9. Nishikawa M
Bone stock reconstruction for huge bone loss using allograft-bones, bone marrow, and teriparatide in an infected total knee arthroplasty
J Clin Orthop Trauma. 2019 ; 10 : 329-333
10. Nishikawa M
Nivolumab-induced recurrence of rheumatoid arthritis in a patient with metastatic gastric adenocarcinoma
Clin Drug Investig. 2019 ; 39 : 1251-1254
11. 島田幸造
肘関節鏡のルーチン操作
オーエス・ネクサス20・関節鏡手術の基本. 2019 ; 20 : 38-47
12. 島田幸造
編集企画にあたって
Monthly Book Orthopaedics 手根骨外傷マネジメント. 2019 ; 32 : 1-1
13. 藤森孝人
腰椎加齢性変化による臨床障害の診断プロセス
Pharma Medica. 2019 ; 37 : 13-16

14. 大浦圭一郎
小児上腕骨外顆骨折に対する関節鏡補助下手術
日本肘関節学会雑誌. 2019; 25: 15-18
15. 大浦圭一郎
小児上腕骨顆上骨折に対する深屈曲位固定による保存療法
日本肘関節学会雑誌. 2019; 26: 18-22
16. 轉法輪光
関節リウマチに対する鏡視下橈骨頭切除形成術の治療成績
日本手外科学会雑誌. 2019; 35: 614-618
17. 轉法輪光
手根管症候群における横手根靭帯厚の超音波計測 — 透析例と非透析例の比較 —
日本手外科学会雑誌. 2019; 36: 381-384
18. 北 圭介
内側膝蓋大腿靭帯再建術におけるアイソメトリックポジショナーを用いた大腿骨側骨孔作成方法と作成位置の検討
JOSKAS. 2019; 44: 66-67
19. 富士武史
周術期の自己血輸血 — 献血資源節約により日本を救う —
日本病院総合診療医学会雑誌. 2019; 15: 529-533
20. 富士武史
若い整形外科医に、ロコモへの関心を持たせる方法は？
Loco cure. 2019; 5: 128-129
21. 池上大督
後方すべりは腰部脊柱管狭窄症に対する中心除圧後の遅発性症候性椎間孔狭窄による再手術の危険因子である
整形外科. 2019; 70: 377-381
22. 池上大督
高齢者の外傷性脊椎疾患の治療
Pharma Medica. 2019; 37: 49-52
23. 中田活也
大腿骨髄腔形状と骨質からみたセメントレスシステムの適応
関節外科 基礎と臨床. 2019; 38: 82-91
24. 中田活也
変形性股関節症
今日の治療指針. 2019; 1115-1117
25. 西川昌孝
TKA術後リハビリの変更による術後早期ROM獲得の有用性 — 術後2年成績 —
日本人工関節学会誌. 2019; 49: 375-376
26. 西本竜史
烏口突起偽関節を伴うてんかん患者の反復性肩関節前方脱臼の1例
肩関節. 2019; 43: 642-644

【学会発表】

27. Shimada K
Treatment protocol of OCD and its results over 150 cases: -Japanese Experiences-
Seoul Advanced Elbow Course. 2019/04
28. Shimada K
Arthroscopy-assisted osteosynthesis for lateral humeral condyle fracture
Seoul Advanced Elbow Course. 2019/04

29. Nishikawa M
The efficacy of new total knee arthroplasty rehabilitation protocol for good range of motion after follow-up of two years
International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine. 2019/05
30. Temporin K
Volar plate buttress on bended Kirschner wire fixation for the displaced volar rim fragment of distal radius comminuted fracture
Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand. 2019/06
31. Shimada K
scaphoid non-union with the guidance of preoperative 3D simulation
Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand. 2019/06
32. Fujimori T
Clinical outcomes and union rate of 2-level PLIF
The International Society for the Study of the Lumbar Spine. 2019/06
33. Fujimori T
Cost-effectiveness of lumbar surgery in the Japanese universal health insurance system
The International Society for the Study of the Lumbar Spine. 2019/06
34. Nakata K
Comparative study on two different types of short stem
EFORT congress. 2019/06
35. Oura K
Using a Three-Dimensional Computer Model: Three Case Reports.
Congress of the International International Congress of Shoulder and Elbow Surgery. 2019/09
36. Temporin K
Arthroscopic debridement for the advanced rheumatoid elbows
Annual Meeting of American Society for Surgery of the Hand. 2019/09
37. Nishikawa M
The efficacy of new total knee arthroplasty rehabilitation protocol for good range of motion after follow-up of 2 years
British Orthopaedic Association Annual Congress 2019. 2019/09
38. Shimada K
Capitellum Osteochondritis Dissecans (OCD)-Cartilage Defect Management in 2019
Annual Conference of the Royal Collage of Orthopaedic Surgeons of Thailand. 2019/10
39. Sakaura H
A comparative study of early fusion status after PLIF with cortical bone trajectory screw fixation using carbon PEEK cages or titanium-coated PEEK cages.
Eurospine 2019. 2019/10
40. Sakaura H
Abdominal aortic calcification has significantly negative impacts on surgical outcomes after decompression surgery for lumbar spinal canal stenosis.
Eurospine 2019. 2019/10
41. 大浦圭一郎
当院における上腕骨離断性骨軟骨炎に対する保存療法の経過
第62回日本手外科学会. 2019/04
42. 轉法輪光
手根管症候群における横手根靱帯厚の超音波計測 — 透析例と非透析例の比較 —
第62回日本手外科学会. 2019/04
43. 坂浦博伸
2 椎間腰椎変性すべり症に対する CBT screw 法 PLIF の成績 — 従来の PS 固定法との比較 —
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04

44. 坂浦博伸
椎弓形成術後の頸椎矢状面アライメント・バランスの変化 CSM vs OPLL ―年齢とC7温存の影響―
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
45. 坂浦博伸
腹部大動脈石灰化は腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術の予後不良因子である
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
46. 池上大督
転移性脊椎腫瘍に対する骨修飾薬の麻痺抑制効果とその限界
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
47. 杉浦 剛
腰椎変性すべり症に対する開窓術とPLIFの手術成績の比較 ―傾向スコアを用いた検討―
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
48. 藤森孝人
医師による評価と患者による評価はどちらが臨床成績をより反映しているか？ 5段階評価の妥当性
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
49. 藤森孝人
腰仙椎部を含む2椎間PLIFの臨床成績と骨癒合率 L3/4/5PLIFとL4/5/SPLIFの比較検討
第48回日本脊椎脊髄病学会. 2019/04
50. 中矢亮太
寛骨臼に巨大骨欠損を伴った1例
第47回関西股関節研究会. 2019/04
51. 西川昌孝
胃癌術後腹膜播種、癌性腹膜炎に対するニボルマブ投与により関節リウマチ活動性が再燃した症例
第63回日本リウマチ学会総会. 2019/04
52. 五島篤史
CCPDに化膿性関節炎を合併した一例
第63回日本リウマチ学会. 2019/04
53. 轉法輪光
拘縮肘に対する肘関節鏡を用いた関節授動術
第92回日本整形外科学会学術集会. 2019/05
54. 大浦圭一郎
Proximity mapping法による関節適合性評価を行い治療方針を決定した上腕骨遠位端骨折変形治癒後の3例
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2019/06
55. 北原貴之
距骨骨軟骨骨折に対し関節鏡視下に骨接合術を施行した一例
第58回大阪骨折研究会. 2019/06
56. 富士武史
日本整形外科学会における男女共同参画
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06
57. 西川昌孝
TKA後術後リハビリ変更による術後ROM獲得の有効性(術後2年成績)
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2019/06
58. 轉法輪光
肩と肘に関するDebate 上腕骨離断性骨軟骨炎 骨軟骨移植術
第19回肩と肘を語る会. 2019/07
59. 島田幸造
手術治療～肋骨肋軟骨移植術の適応と限界
第45回日本整形外科スポーツ医学会. 2019/08

60. 中矢亮太
Dorr分類の再現性と単純X線画像上の定量的な指標の検討
なにわ整形外科基礎研究会. 2019/08
61. 西本竜史
鏡視下バンカート修復術後における関節窩前縁骨形態変化
第46回日本肩関節学会. 2019/10
62. 中谷宏幸
骨粗鬆症2次検診受診患者の傾向から考える検診の有効な活用法について
第21回日本骨粗鬆症学会. 2019/10
63. 北田 誠
前外側アプローチTHAにおいてCT-based navigationのsurface matchingで寛骨臼窩を用いる利点についての検討
第46回日本股関節学会. 2019/10
64. 中矢亮太
コンセプトが異なる2種のショートステムによるTHAの術後5年成績の比較研究
第46回日本股関節学会. 2019/10
65. 今井大達
診断に難渋した股関節炎の一例
第46回日本股関節学会. 2019/10
66. 北原貴之
距骨骨軟骨骨折に対し関節鏡視下手術を施行した一例
第30回日本臨床スポーツ医学会. 2019/11
67. 北原貴之
受傷から長期間が経過した大腿骨滑車部骨軟骨骨折に対して整復固定を施行した2例
第20回大阪スポーツ障害・外傷を語る会. 2019/12
68. 中矢亮太
THA後腸腰筋インピンジメントに対する治療経験
第48回関西股関節研究会. 2019/12
69. 中矢亮太
THAにおける大腿骨Patient Specific Template作成時間のラーニングカーブ
第50回日本人工関節学会. 2020/02
70. 西川昌孝
TKA術後リハビリの変更による術後2年膝機能評価
第50回日本人工関節学会. 2020/02

【学会講演】

71. K. Nakata
Concept & Design of Cementless stem
8th THA Basic Course. 2019/06
72. K. Nakata
AL-Supine Approach Advanced techniques
3rd MIS AL-Supine Approach THA. Advanced Bioskill Course. 2019/07
73. K. Nakata
AL-Supine Approach Tips & Pitfalls
21st MIS AL-Supine Approach Standard Bioskill Course. 2019/08
74. 轉法輪光
肘関節周囲の外傷の診断と治療
春季整形外科生涯研修コース. 2019/05

75. 富士武史
周術期における抗凝固療法 —止めても危険・続けても危険—
2019年度春季大阪整形外科生涯研修コース. 2019/05
76. 島田幸造
「血友病と運動機能障害」 —いい運動、よくない運動—
ヘモフィリアセミナー大阪. 2019/06
77. 島田幸造
「血友病と運動機能障害」 —いい運動、よくない運動—
第10回姫路骨・関節疾患研究会. 2019/06
78. 島田幸造
肘関節の可動域制限 —種々の病態とその治療—
第70回七隈ハンドカンファレンス. 2019/11
79. 島田幸造
変形性肘関節症治療のすべて —鏡視下手術から創外固定まで—
栃木上肢の外科研究会. 2019/11
80. 北 圭介
Modern Management of the Patellar Instability
第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS). 2019/06
81. 中田活也
セメントレス固定. インプラントの表面加工とデザイン・DDHに対する術前計画(2D・3D)・THAにおける
脱臼の現状と対策
第8回Zimmer Biomet THA Basic Course. 2019/06
82. 富士武史
スポーツ愛好者における脊椎疾患の手術タイミング —抗血栓薬休薬も含めての医療安全対策—
VTE診療UP TO DATE ～高齢者疾患を地域で考える～. 2019/06
83. 坂浦博伸
椎弓形成術後の頸椎矢状面アライメント・バランスの変化 CSM vs OPLL
Kansai Cervical Spine 研究会. 2019/06
84. 坂浦博伸
腎機能、動脈硬化の視点からみた運動器変性疾患の手術成績と安全な鎮痛剤の使い方
第32回日本臨床整形外科学会学術集会. 2019/07
85. 坂浦博伸
腎機能障害・動脈硬化が脊椎変性疾患の手術成績に及ぼす影響
第55回大阪脊椎外科フォーラム. 2019/07
86. 中田活也
AL-Supine Approach Advanced techniques
第3回MIS AL-Supine Approach Standard Bioskill Course. 2019/07
87. 中田活也
術前計画で知っておくべきこと・執刀医が助手に望むこと
第22回EC Hip Standard Course. 2019/07
88. 中田活也
カーブドショートステムの選択とその有用性について
Corin Hip Meeting. 2019/07
89. 西川昌孝
関節リウマチ治療における生物製剤の意義
福島区医師会講演会. 2019/07
90. 富士武史
周術期における抗血栓療法 —止めても危険・続けても危険—
VTE Seminar Up to date in Osaka. 2019/08

91. 中田活也
AL-Supine Approach Tips & Pitfalls
第21回MIS AL-Supine Approach Standard Bioskill Course. 2019/08
92. 中田活也
AL-Supine Approach ～総論(Advanced)～
第3回ALSA Advance Learning Seminar. 2019/08
93. 中田活也
アプローチに求めること(適応、活動性、可動域、脚長差)
第9月ジンマー・バイオメット Hip Symposium. 2019/09
94. 富士武史
周術期の抗血栓療法中断における医療安全 —高齢者脊椎疾患を例にして—
高知県整形外科勤務医会学術講演会. 2019/10
95. 中田活也
Fitting first theoryに基づいたカーブドショートステムの選び方
第46回日本股関節学会. 2019/10
96. 中田活也
初回THAでの脚長補正・人工股関節周囲骨折
第12回OEC Hip Advance Course. 2019/10
97. 富士武史
周術期の抗血栓療法中止に関する医療安全 —スポーツ愛好者における脊椎疾患の手術タイミングを例として—
第20回星ヶ丘病診連携研究会. 2019/11
98. 富士武史
診療に伴う事故・トラブルへの対応 —医療倫理の視点から—
第160回神奈川県臨床整形外科医会学術講演会. 2019/11
99. 中田活也
ショートステムのコンセプトと選択
第46回日本臨床バイオメカニクス学会. 2019/11
100. 中田活也
THAにおける脱臼の本態
第11回Round Table Case Discussion Advance THA. 2019/11

形成外科

【原著・総説・著書】

1. 高瀬一葉
尿閉を伴う閉経後陰唇癒着症の1例
日本形成外科学会誌. 2019; vol.39 No.7: p670

リハビリテーション科・室

【原著・総説・著書】

1. 二宮晴夫
多職種連携による心臓リハビリテーションにおける中止理由の検討
日本職業・災害医学会誌. 2019年67巻6号; 510p～516p
2. 二宮晴夫
腎臓術後に腫瘍随伴症候群としてリウマチ性多発筋痛症症状を呈した重複がん(大腸癌)の1例
日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2019年42巻3号; 162p～166p

【学会発表】

3. 二宮晴夫
急性期病院における運動器リハビリテーションの必要性について
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06/16, 神戸コンベンションセンター
4. 二宮晴夫
透析患者の胸部下行大動脈瘤手術後に脊髄梗塞をきたした症例に対するリハビリテーションの一例
第19回日本病院総合診療医学会学術総会. 2019/09/15, 佐賀市文化会館
5. 二宮晴夫
自家骨軟骨柱移植術を施行した変形性肘関節症の2例のリハビリテーション経験
第67回日本職業・災害医学会学術大会. 2019/11/10, 一橋大学一橋講堂学術総合センター
6. 丸本明彬
胸部大動脈ステントグラフト内挿術後に遅発性不全対麻痺を呈した一例
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06/15, 神戸コンベンションセンター
7. 永富孝幸
肩関節挙上困難症例に対する運動療法 Table Flexion Exercise
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06/13, 神戸コンベンションセンター
8. 永富孝幸
腱板広範囲断裂修復術後症例への運動療法 Table Flexion Exercise
第16回肩関節学会肩の運動機能研究会. 2019/10/26, ホテル国際21(長野県)
9. 木村宏隆
長期人工呼吸管理から離脱に成功した高度肥満の右被告出血の一症例
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06/13, 神戸コンベンションセンター
10. 荒木直哉
糖尿病性筋委縮症の理学療法経験
第56回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/06/15, 神戸コンベンションセンター
11. 池田凌佑
右橋上部内側梗塞に装具療法を行った一症例
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/01, パシフィコ横浜会議センター
12. 田中建毅
ロコモティブシンドロームと柔軟性・下肢関節可動域の男女別検討
第38回日本臨床運動療法学会学術集会. 2019/09/01, 新潟大学医学部旭町キャンパス

【学会講演】

13. 二宮晴夫
がんのリハビリテーション概論(第6回大阪府がんのリハビリテーション研修会)
対象：医師・看護師・PT・OT・ST. 2019/07/20, 大阪府がんのリハビリテーション研修会(大阪)

消化器外科

【原著・総説・著書】

1. 大橋朋史, 酒井健司, 吉田眞之, 原修一郎, 高山慶太, 米田和弘, 大澤日出樹, 井出義人, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
術前診断に苦慮した嚢胞性胆管性過誤腫の1例
癌と化学療法. 2019; 46: 2345-2347
2. 志村雄飛, 平尾隆文, 原修一郎, 高山慶太, 寺西立冴, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 安政啓吾, 野呂浩史, 岩崎輝夫, 西岡陽介, 畑中信良, 山崎芳郎
胃癌の治療経過中に腹部リンパ節腫大を契機に発見されたCastleman病の1例
癌と化学療法. 2019; 46: 739-741

3. 大橋朋史, 酒井健司, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立冴, 大澤日出樹, 安政啓吾, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
 十二指腸乳頭部癌の肝転移に対して集学的治療を繰り返すことにより長期生存を得た1例
 癌と化学療法. 2019; 46: 306-308
4. 寺西立冴, 畑中信良, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 安政啓吾, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 山崎芳郎, 藤本宜正
 腎癌膀胱転移に対して膀胱切除術を施行した2例
 癌と化学療法. 2019; 46: 561-563
5. 大澤日出樹, 井出義人, 吉田眞之, 原修一郎, 高山慶太, 米田和弘, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
 Bevacizumab投与中に上腸間膜静脈血栓症を認めた1例
 癌と化学療法. 2019; 46: 2491-2493
6. 原修一郎, 大澤日出樹, 寺西立冴, 大橋朋史, 酒井健司, 井出義人, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
 無ガンマグロブリン血症に合併した消化管多発癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例
 癌と化学療法. 2019; 46: 2571-2573
7. 大澤日出樹, 渡邊 光, 原修一郎, 酒井健司, 野呂浩史, 山崎芳郎
 腸管壊死との鑑別が困難であった汎下垂体機能低下症患者に発症したサルモネラ腸炎の1例
 日腹部救急医学会誌. 2019; 36: 1171-1174
8. 酒井健司, 大橋朋史, 原修一郎, 高山慶太, 吉田眞之, 米田和弘, 志村雄飛, 寺西立冴, 大澤日出樹, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
 直腸癌術後異時性膀胱転移の1切除例
 癌と化学療法. 2019; 46: 2306-2308

【学会発表】

9. 大橋朋史, 酒井健司, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立冴, 大澤日出樹, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
 術前診断に苦慮した嚢胞性胆管性過誤腫の1例
 第41回日本癌局所療法研究会. 2019/06/21, 岡山
10. 大澤日出樹, 畑中信良, 原修一郎, 寺西立冴, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 山崎芳郎
 高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下手術における術後合併症の検討
 第74回日本消化器外科学会. 2019/07/17-19, 東京
11. 大澤日出樹, 畑中信良, 原修一郎, 高山慶太, 寺西立冴, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 山崎芳郎
 Bevacizumab投与中に上腸間膜静脈血栓症を認めた1例
 第41回日本癌局所療法研究会. 2019/06/21, 岡山
12. 大澤日出樹, 井出義人, 原修一郎, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
 市中病院における技術認定医にむけた取り組み
 第32回近畿内視鏡外科研究会. 2019/09/21, 大阪
13. 大澤日出樹, 井出義人, 原修一郎, 高山慶太, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
 浣腸による直腸穿孔に対して 保存的加療で軽快し得た1例
 第74回日本大腸肛門病学会学術集会. 2019/10/11-12, 東京
14. 大澤日出樹, 畑中信良, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立冴, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 山崎芳郎
 当院における大腸ステント留置後の手術症例に関する検討
 第119回日本外科学会定期学術集会. 2019/04/18-20, 大阪
15. 福田優人, 大澤日出樹, 高山慶太, 吉田眞之, 原修一郎, 米田和弘, 大橋朋史, 酒井健司, 井出義人, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
 診断に苦慮したS状結腸間膜結節の一例
 第631回外科集談会. 2019/09/14, 大阪
16. 酒井健司, 大橋朋史, 原修一郎, 高山慶太, 寺西立冴, 大澤日出樹, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
 直腸癌術後異時性膀胱転移の1切除例
 第41回日本癌局所療法研究会. 2019/06/21, 岡山

17. 酒井健司, 大橋朋史, 高山慶太, 大澤日出樹, 井出義人, 野呂浩史, 畑中信良, 山崎芳郎
後腹膜腫瘍と成熟奇形腫に対して腹腔鏡下に同時切除し得た一例
第32回日本内視鏡外科学会. 2019/12/07, 横浜
18. Kenji Sakai, Tomofumi Ohashi, Masayuki Yoshida, Shuichiro Hara, Keita Takayama, Kazuhiro Yoneda, Hideki Osawa, Yoshihito Ide, Hiroshi Noro, Takafumi Hirao, Nobuyoshi Hatanaka, Yoshio Yamasaki
A Resected Case of Fibrolamellar hepatocellular carcinoma in a 26-year-old Vietnamese
The 31st Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. 2019/06/13-15, 香川
19. 酒井健司, 原修一郎, 大橋朋史, 井出義人, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
特異な転移及び浸潤形式を認めた胃癌胆管転移の1例
第74回日本消化器外科学会. 2019/07/17, 東京
20. 原修一郎, 畑中信良, 平尾隆文, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立牙, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 安政啓吾, 野呂浩史, 山崎芳郎
後下脘十二指腸動脈瘤破裂に対し保存的加療にて救命しえた1例
第55回日本腹部救急医学会総会. 2019/03/07-08, 仙台
21. 原修一郎, 大澤日出樹, 志村雄飛, 寺西立牙, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
無ガンマグロブリン血症に合併した消化管重複癌に対して腹腔鏡下手術を施行した1例
第41回日本癌局所療法研究会. 2019/06/21, 岡山
22. Shuichiro Hara, Hideki Osawa, Nobutaka Hatanaka
A case of retroperitoneal leiomyosarcoma resected by laparoscopic surgery
第74回日本消化器外科学会. 2019/07/17-19, 東京
23. 原修一郎, 大澤日出樹, 井出義人, 高山慶太, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
術前診断に苦慮した虫垂神経鞘腫の1例
第74回日本大腸肛門病学会学術集会. 2019/10/11-12, 東京
24. 原修一郎, 平尾隆文, 野呂浩史, 大澤日出樹, 大橋朋史, 酒井健司, 井出義人, 畑中信良, 山崎芳郎
術前化学療法が奏功し、病理学的完全奏功が得られた食道胃接合部癌の1例
第49回胃外科・術後障害研究会. 2019/10/31-11/01, 鹿児島
25. 高山慶太, 平尾隆文, 大橋朋史, 吉田眞之, 原修一郎, 米田和弘, 大澤日出樹, 酒井健司, 井出義人, 野呂浩史, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
胃癌術後6か月で発症した大網梗塞の1例
第81回臨床外科学会総会. 2019/11/14-16, 高知
26. 米田和弘, 熊川靖章, 宮尾大樹, 中島紳歴史, 大須賀章倫, 黒木雄一, 上山昌史
85% TBSA 熱傷患者での植皮戦略
第45回日本熱傷学会総会学術集会. 2019/05/23-24, 福岡
27. 米田和弘, 大澤日出樹, 井出義人, 吉田眞之, 原修一郎, 高山慶太, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
保存加療で軽快した浣腸による直腸穿孔
第202回近畿外科学会. 2019/09/28, 大阪
28. 平尾隆文, 野呂浩史, 畑中信良, 山崎芳郎
胸部食道癌術後、後縦隔経路再建胃管癌の1切除例
第73回日本食道学会. 2019/06/06, 福岡
29. Tomofumi Ohashi, Kenji Sakai, Masayuki Yoshida, Shuichiro Hara, Keita Takayama, Kazuhiro Yoneda, Hideki Osawa, Yoshihito Ide, Hiroshi Noro, Takafumi Hirao, Nobuyoshi Hatanaka, Yoshio Yamasaki
A case of elderly patient who underwent combined surgery for intrahepatic cholangiocarcinoma (ICC) and intraductal papillary mucinous carcinoma (IPMC).
The 31st Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. 2019/06/13-15, 香川
30. 川野祐輝, 酒井健司, 大橋朋史, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立牙, 大澤日出樹, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
Fibrolamellar hepatocellular carcinomaの1切除例
第627回大阪外科集談会. 2019/01/19, 大阪

31. 井出義人, 大澤日出樹, 吉田眞之, 原修一郎, 高山慶太, 米田和弘, 大橋朋史, 酒井健司, 野呂浩史, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 空谷友香子, 佐々木洋, 山崎芳郎
高度認知症併存完全直腸脱に対する術式選択の工夫
第81回臨床外科学会総会. 2019/11/14-16, 高知
32. 野呂浩史, 原修一郎, 高山慶太, 志村雄飛, 寺西立冴, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 山崎芳郎
中心静脈カテーテル留置・管理におけるカテーテル関連血流感染の検討
第44回日本外科系連合学会総会. 2019/06/20-21, 金沢
33. 野呂浩史, 原修一郎, 高山慶太, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 平尾隆文, 岩崎輝夫, 畑中信良, 柴谷涼子, 山崎芳郎
安全な適切な中心静脈栄養投与経路の造設・管理について
第11回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会. 2019/06/29, 大阪
34. 野呂浩史, 大澤日出樹, 原修一郎, 高山慶太, 大橋朋史, 酒井健司, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
皮下埋め込み型中心静脈ポートの留置方法・目的別の現状の検討
第9回栄養管理指導者協議会学術集会. 2019/03/23, 東京
35. 佐藤和佳, 野呂浩史, 本田美和子, 田野岡文子, 西川晴子, 奥野雅崇, 玉置まどか, 吉田大地, 前田 香, 畑崎聖弘, 酒井健司
経口・経管・経静脈栄養投与を併用して最終的に経口・自宅退院可能となった肝切除術後長期人工呼吸管理症例
第10回栄養管理指導者協議会学術集会. 2019/09/22-23, 神戸

呼吸器外科

【原著・総説・著書】

1. 田中陽子, 藤並 舞, 田子謙太郎, 竹嶋 好, 岩崎輝夫, 中井千晶, 吉田康之
無治療で縮小を認めた肺カルチノイドの1例
癌と化学療法. 2019. 11; 46(11): 1771-1774

【学会発表】

2. 山本陽子, 神崎 隆, 船越康信, 池田直樹, 高見康二, 岩崎輝夫, 岩澤 卓, 横内秀起, 塩野裕之, 児玉 憲, 奥村明之進, 新谷 康
慢性血液透析患者に対する肺癌手術の治療成績：多施設共同後方視的解析
第36回日本呼吸器外科学会学術集会. 2019/05/17, 大阪
3. 岩崎輝夫, 高山慶太, 原修一郎, 米田和弘, 吉田眞之, 大橋朋史, 大澤日出樹, 酒井健司, 井出義人, 野呂浩史, 平尾隆文, 畑中信良, 山崎芳郎
当科における特発性血気胸3手術例の検討
第81回日本臨床外科学会総会. 2019/11/14, 高知

心臓血管外科

【学会発表】

1. Katsukiyo Kitabayashi
Assessment of the arterial stiffness change after endovascular aortic repair
27th ASCVTS. 2019/02/21-24, Chennai India
2. Katsukiyo Kitabayashi
Assesment of arterial stiffness/change during thoracic endovascular aortic repair (pulse wave velocity or cardio-ankle vascular index)
20th ASVS. 2019/10/22-26, Bali Indonesia
3. 丸本明彬
包括的チームアプローチによる重症下肢虚血に対する治療の現状と課題
第49回日本心臓血管外科学会. 2019/02/11-13, 岡山

- 丸本明彬
胸部大動脈ステントグラフト内挿術後に遅発性不全対麻痺を呈した一例
第56回日本リハビリテーション医学会. 2019/6/12-16, 神戸

脳神経外科

【学会発表】

- 呉村有紀, 山際啓典, 岩本文徳
卵巣癌からの転移性脳腫瘍の1例
第78回日本脳神経外科学会総会. 2019/10/11, 横浜

【学会講演】

- 岩本文徳
脳神経外科医から見た昨今のてんかん治療について
此花区医師会学術講演会. 2019/07/25, 大阪

糖尿病

【学会発表】

- 是松望美
複数の陽転化の原因が考えられた抗インスリン抗体陽性糖尿病の1例
第63回日本糖尿病学会年次学術集会. 2019/05/23, 仙台
- 出口有近
GAがHbA1cに比し低値の症例におけるCGMの検討
第63回日本糖尿病学会年次学術集会. 2019/05/23, 仙台
- 是松望美
慢性炎症性脱髄性多発神経炎の治療経過中に緩徐進行1型糖尿病を発症した1例
第56回日本糖尿病学会近畿地方会. 2019/10/19, 大阪
- 正廣紀衣
ダパグリフロジンを併用した1型糖尿病の2症例
第56回日本糖尿病学会近畿地方会. 2019/10/19, 大阪
- 小椋紫芳
健診指摘の心房細動から甲状腺ホルモン不応症を疑った1例
第29回臨床内分泌代謝 Update in Kochi. 2019/11/29

【学会講演】

- 畑崎聖弘
2型糖尿病の初期治療 専門医への初回タイミングを含めて
対象：医師. 2019/06/26, 大阪
- 畑崎聖弘
糖尿病薬の歴史と動脈硬化を考えた糖尿病の治療
対象：医師s. 2019/06/13, 大阪

腎臓内科

【原著・総説・著書】

- Suzuki A, Obi Y, Hayashi T, Kotani N, Uemura Y, Imai E, Makino H, Hishida A
Visit-to-visit variability in estimated glomerular filtration rate predicts hospitalization and death due to cardiovascular events
Clin Exp Nephrol. 2019 ; 23(5) : 661-668

【学会発表】

2. 松井 翔, 伊東明香根, 加藤紗香, 森岡史行, 前田志穂美, 釘宮愛子, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
HD導入時におけるC3値と心血管イベント発症リスクとの関連
日本腎臓学会学術総会. 2019/06/22, 名古屋
3. 森岡史行, 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 前田志穂美, 釘宮愛子, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
血液透析導入後ApoB/ApoA1比と導入後心血管イベントとの関連
日本腎臓学会学術総会. 2019/06/23, 名古屋
4. 岩橋恵理子, 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 森岡史行, 前田志穂美, 釘宮愛子, 鈴木 朗
血液透析導入期の睡眠呼吸障害と心血管イベント発症に関する検討
日本腎臓学会学術総会. 2019/06/23, 名古屋
5. 釘宮愛子, 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 森岡史行, 前田志穂美, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
透析患者における感染巣不明の菌血症の起因菌はグラム陰性菌が多い傾向にある
日本腎臓学会学術総会. 2019/06/23, 名古屋
6. 前田志穂美, 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 森岡史行, 釘宮愛子, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
尿中procollagen type III N-terminal propeptideにおけるステロイド治療の影響
日本腎臓学会学術総会. 2019/06/24, 名古屋
7. 森岡史行, 宮川博光, 加藤紗香, 松井 翔, 岩橋恵理子, 青木克憲, 鈴木 朗
顕微鏡的多発血管炎に第5因子欠乏症を合併した1例
日本腎臓学会西部学術集会. 2019/10/28, 高知
8. 鈴木 朗, 小尾佳嗣, 林 晃正, 高谷尚人, 上村夕香理, 今井圓裕, 槇野博史, 菱田 明
CKD患者におけるeGFR変動と心血管イベントの関連(CKD-JAC研究)
日本透析医学会学術総会. 2019/06/28, 横浜
9. 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 森岡史行, 前田志穂美, 釘宮愛子, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
ステロイド抵抗性アクアポリン4抗体陰性のNMOSDに対し血漿交換が奏功した1例
日本透析医学会学術総会. 2019/06/30, 横浜
10. 釘宮愛子, 伊東明香根, 加藤紗香, 松井 翔, 森岡史行, 前田志穂美, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
末梢浮腫で発症し強皮症腎クリーゼ関連TMAを呈した全身性强皮症の1例
日本透析医学会学術総会. 2019/06/30, 横浜
11. 加藤紗香, 伊東明香根, 松井 翔, 森岡史行, 前田志穂美, 釘宮愛子, 岩橋恵理子, 鈴木 朗
ANCA関連血管炎の経過中に左内頸静脈カテーテル挿入に伴う左反回神経麻痺をきたした1例
日本透析医学会学術総会. 2019/06/30, 横浜

呼吸器内科

【原著・総説・著書】

1. 馬場希一郎
Experimental model for the irradiation-mediated abscopal effect and factors influencing this effect
Am J Cancer Res. 2020 ; 10(2) : 440-453
2. 田中陽子
自然退縮を認めた肺腺癌の1例
肺癌. 2019年59巻5号
3. 田中陽子
無治療で縮小を認めた肺カルチノイドの1例
癌と化学療法. 2019年46巻11号

【学会発表】

4. 高井勝代, 田子謙太郎
セフトリアキソンの投与によって生じた偽胆石による急性膵炎の1例
第226回日本内科学会近畿地方会. 2019/12/21, 大阪国際交流センター

感染症

【原著・総説・著書】

1. Manabu Nagata

Acute Tubulointerstitial Nephritis Caused by Rifampicin: An Increasing and Often Overlooked Side Effect in Elderly Patients

International journal of clinical pharmacology and therapeutics. May 2019 ; Vol. 57-No.5/2019(264-369)

【学会講演】

2. 長田 学

急増するインバウンドへの医療提供と感染対策

大阪市感染対策支援ネットワーク会議 西部ブロック参加病院. 令和2年1月20日(月) 16:00~17:30,

日本生命病院1階「あったかふれあいホール」(大阪市西区江之子島2丁目1-54)

消化器内科

【原著・総説・著書】

1. Hiyama S, Iijima H, Sakakibara Y, Yamada T, Mukai A, Otake Y, Yamaguchi T, Araki M, Kawai S, Tsujii Y, Inoue T, Hayashi Y, Shinzaki S, Takehara T

Endoscopic alterations in Peyer's patches in patients with ulcerative colitis: A prospective, multicenter study
J Gastroenterol Hepatol. 2019 First published : 16 November 2019. <https://doi.org/10.1111/jgh.14933>

2. Hayashi Y, Iijima H, Isohashi F, Tsujii Y, Fujinaga T, Nagai K, Yoshii S, Sakatani A, Hiyama S, Shinzaki S, Makino T, Yamasaki M, Ogawa K, Doki Y, Takehara T

The heart's exposure to radiation increases the risk of cardiac toxicity after chemoradiotherapy for superficial esophageal cancer: a retrospective cohort study

BMC Cancer. 2019 ; 19(1): 195. 2019

3. Kawai S, Iijima H, Shinzaki S, Hiyama S, Yamaguchi T, Araki M, Iwatani S, Shiraishi E, Mukai A, Inoue T, Tsujii Y, Hayashi Y, Tsujii M, Takehara T

Usefulness of intestinal real-time virtual sonography in patients with inflammatory bowel disease.

J Gastroenterol Hepatol. 2019 ; 34(10): 1743-1750. 2019

4. Yoshii S, Hayashi Y, Iijima H, Inoue T, Kimura K, Sakatani A, Nagai K, Fujinaga T, Hiyama S, Kodama T, Shinzaki S, Tsujii Y, Watabe K, Takehara T

Exosomal microRNAs derived from colon cancer cells promote tumor progression by suppressing fibroblast TP53 expression

Cancer Sci. 2019 ; 110(8): 2396-2407. 2019

5. Yamamoto K, Tanaka K, Hayashi S, Sawamura M, Tatsumi N, Ito T

A novel handmade "multi-bending endoscope system" for endoscopic submucosal dissection of difficult-to-approach superficial gastric neoplasms

Endoscopy. 2019 ; 51 : E83-E84

6. Niikura R, Nagata N, Yamada A, Honda T, Hasatani K, Ishii N, Shiratori Y, Doyama H, Nishida T, Sumiyoshi T, Fujita T, Kiyotoki S, Yada T, Yamamoto K, Shinozaki T, Takata M, Mikami T, Mabe K, Hara K, Fujishiro M, Koike K

Efficacy and Safety of Early vs Elective Colonoscopy for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding

Gastroenterology. 2020 ; 158 : 168-175. JANUARY 01, 2020

7. 伊藤敏文

「医療機関における働き方改革について」

J The Fukushima-ku Medical Association in OSAKA 福島区医師会雑誌. No.73(令和元年12月)Page24-26

8. Yamada R, Hiramatsu N, Oze T, Urabe A, Tahata Y, Morishita N, Kodama T, Hikita H, Sakamori R, Yakushijin T, Yamada A, Hagiwara H, Mita E, Oshita M, Itoh T, Fukui H, Inui Y, Hijioka T, Inada M, Katayama K, Tamura S, Inoue A, et al.

Incidence and risk factors of hepatocellular carcinoma change over time in patients with hepatitis C virus infection who achieved sustained virologic response

Hepatol Res. 2019 May ; 49(5) : 570-578. doi: 10.1111/hepr.13310. Epub 2019 Feb 6.

9. Shigefuku R, Iwasa M, Katayama K, Eguchi A, Kawaguchi T, Shiraishi K, Ito T, Suzuki K, Koreeda C, Ohtake T, Tokumoto Y, Endo R, Kawamura N, Shiraki M, Habu D, Sakai H, Kato A, Nishiguchi S, Moriwaki H, Suzuki K, Takei Y

Hypozyncemia is associated with human hepatocarcinogenesis in hepatitis C virus-related liver cirrhosis

Hepatol Res. 2019 Oct ; 49(10) : 1127-1135. doi: 10.1111/hepr.13388. Epub 2019 Jul 16.

【学会発表】

10. Katsumi Yamamoto, Yasuhiro Takagi, Nobuyuki Tatsumi, Tomoki Michida, Toshifumi Ito
Feasibility of a new electrosurgical unit “AUTOCON III 400” for endoscopic submucosal dissection
The Annual Meeting of European Society of Gastroenterological Endoscopy (ESGE) 2019. 2019/04/04-06, Prague, Czecho
11. Yasuhiro Takagi, Katsumi Yamamoto, Tomoki Michida, Yu Sato, Yuki Tokuda, Satoshi Hiyama, Nobuyuki Tatsumi, Toshifumi Ito
LONG TERM SURVIVAL OF EARLY GASTRIC CANCER WITH SUBMUCOSAL INVASION AFTER ESD
The Annual Meeting of European Society of Gastroenterological Endoscopy (ESGE) 2019. 2019/04/04-06, Prague, Czecho
12. 日山智史(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 奥村りさ, 高木康広, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 林 三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
潰瘍性大腸炎患者における血清亜鉛と内視鏡活動度との関連
第105回日本消化器病学会総会日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116巻臨増総会 Page A330. 2019/05/09-11, 金沢
13. 伊藤敏文(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 奥村りさ, 谷口舞子, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 河合知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之
C型慢性肝炎と慢性膵炎との対比による生物学的指標としての血漿中アミノ酸濃度の検討
第55回日本肝臓学会総会肝臓(0451-4203)60巻Suppl.1 Page A495. 2019/05/30-31, 東京
14. 大西良輝(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 徳田有記, 石見亜矢, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
B型慢性肝疾患におけるHBs抗原消失の意義
第55回日本肝臓学会総会肝臓(0451-4203)60巻Suppl.1 Page A370. 2019/05/30-31, 東京
15. 山本克己(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 田中康平, 伊藤敏文
ワークショップ3 消化管ESD手技の最新の工夫(食道・胃)胃ESDの近接困難病変に対する手製マルチベンディングスコープの有用性
第97回日本消化器内視鏡学会総会 Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)61巻 Suppl.1 Page805 (2019.05). 2019/05/31-06/02, 東京
16. 大西良輝(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 山本克己, 伊藤敏文, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 西口恭平, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 徳田有記, 澤村真理子, 石見亜矢, 貫野知代, 濱野美奈, 日山智史, 千葉三保, 巽 信之
胃粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAの有用性
第97回日本消化器内視鏡学会総会 Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)61巻 Suppl.1 Page988. 2019/05/31-06/02, 東京

17. Yoshiki Onishi, Risa Okumura, Yasuhiro Takagi, Maiko Taniguchi, Kyohei Nishiguchi, Takahiko Nakamura, Hiroki Nakamura, Mariko Sawamura, Yuki Tokuda, Aya Ishimi, Tomoyo Kanno, Satoshi Hiyama, Mina Hamano, Miho Chiba, Katsumi Yamamoto, Nobuyuki Tatsumi, Toshifumi Ito
Do nab-Paclitaxel and FOLFIRINOX improve the outcome of the pancreatic cancer chemotherapy in the real world?
51st Annual Meeting of the European Pancreatic Club Pancreatology, 19(S1): S116, 2019. 2019/06/26-29, Bergen, Norway
18. Risa Okumura, Toshifumi Ito, Yasuhiro Takagi, Maiko Taniguchi, Kyohei Nishiguchi, Takahiko Nakamura, Akiko Asakura, Manaka Mori, Mariko Sawamura, Yuki Tokuda, Yoshiki Oonishi, Aya Ishimi, Tomoyo Kanno, Satoshi Hiyama, Miho Chiba, Katsumi Yamamoto, Nobuyuki Tatsumi
Clinical characteristics of chronic pancreatitis in an out-patient clinic
51st Annual Meeting of the European Pancreatic Club Pancreatology, 19(S1): S138, 2019. 2019/06/26-29, Bergen, Norway
19. 西口恭平, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
遺伝性毛細血管拡張症(HHT)の2例
第102回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会プログラム・抄録集 Page27. 2019/07/02, 大阪
20. 西口恭平, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
上部消化管内視鏡検査が診断に有用であった特発性食道破裂の1例
第102回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会プログラム・抄録集 Page29. 2019/07/02, 大阪
21. 奥村りさ, 巽 信之, 高木康宏, 中村孝彦, 西口恭平, 谷口舞子, 森麻奈加, 朝倉亜希子, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 伊藤敏文, 大橋朋史, 酒井健司, 畑中信良
Fibrolamellar hepatocellular carcinomaと診断し得た若年ベトナム人男性の1例
第55回日本肝癌研究会プログラム・抄録集 Page248. 2019/07/04-05, 東京
22. 徳田有記, 巽 信之, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 澤村真理子, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 大橋朋史, 酒井健司, 畑中信良, 伊藤敏文
肝血管腫と鑑別困難であった肝細胞癌の1例
第55回日本肝癌研究会プログラム・抄録集 Page253. 2019/07/04-05, 東京
23. 巽 信之(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 朝倉亜希子, 奥村りさ, 高木康弘, 中村孝彦, 西口恭平, 谷口舞子, 森麻奈加, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 伊藤敏文
ERCP後に膵炎と門脈血栓症の出現を認めた総胆管拡張の1例
第50回日本膵臓学会大会膵臓(0913-0071)34巻3号 Page A304. 2019/07/12-13, 東京
24. 大西良輝(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 西口恭平, 日山智史, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 中村孝彦, 朝倉亜希子, 森麻奈加, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 貫野知代, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
ステロイド投与により膵癌との鑑別ができたIPMNに合併した自己免疫性膵炎の1例
第50回日本膵臓学会大会膵臓(0913-0071)34巻3号 Page A306. 2019/07/12-13, 東京
25. 伊藤敏文(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 奥村りさ, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之
当院における慢性膵炎(CP)の臨床的解析
第19回日本病院総合診療医学会学術総会日本病院総合診療医学会雑15巻6号 Page599. 2019/09/14-15, 佐賀
26. 山田慶貴, 奥村りさ, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
腹部大動脈瘤により十二指腸狭窄をきたした1例
第225回日本内科学会近畿地方会. 2019/09/21, 大阪
27. 中村孝彦(地域医療機能推進機構大阪病院), 山本克己, 野呂浩史, 伊藤敏文
胃・十二指腸腫瘍に対する内科・外科合同手術の現状と展望 当院における胃粘膜下腫瘍に対する局所切除術施行例の検討
日本消化器病学会近畿支部例会第111回プログラム・抄録集 Page49. 2019/10/05, 大阪

28. 中本蓮之助(地域医療機能推進機構大阪病院), 伊藤敏文, 巽 信之, 山本克己, 千葉三保, 濱野美奈, 日山智史, 貫野知代, 石見亜矢, 大西良輝, 徳田有記, 澤村真理子, 中村弘樹, 西口恭平, 中村孝彦, 谷口舞子, 高木康広, 奥村りさ
内視鏡的粘膜切除術にて診断し得た十二指腸Gangliocytic Paragangliomaの1例
日本消化器病学会近畿支部例会第111回プログラム・抄録集 Page74. 2019/10/05, 大阪
29. Katsumi Yamamoto, Shiro Adachi, Shiro Hayashi, Yasuhiro Takagi, Nobuyuki Tatsumi, Tomoki Michida, Toshifumi Ito
A rare case of local recurrence caused by tumor cell implantation after rectal endoscopic submucosal dissection and showing remarkable histopathological findings
United European Gastroenterology Week (UEGW) 2019. 2019/10/19-23, Barcelona, Spain
30. Takagi Y, Yamamoto K, Michida T, Tokuda Y, Hiyama S, Tatsumi N, Ito T
LONG TERM SURVIVAL OF EARLY GASTRIC CANCER WITH SUBMUCOSAL INVASION AFTER ESD
United European Gastroenterology Week (UEGW) 2019. 2019/10/19-23, Barcelona, Spain
31. 小井エミ¹⁾, 飯田正彦¹⁾, 石川浄也¹⁾, 加藤里緒¹⁾, 西川晴子¹⁾, 小川祐司¹⁾, 岡田昌子²⁾, 伊藤敏文³⁾
JCHO大阪病院 ¹⁾中央検査室, ²⁾臨床検査科, ³⁾消化器内科
肝炎ウイルス初回陽性に対する電子カルテ付箋掲示によるアラートの効果
JCHO学会. 2019/11/01-02, 横浜
32. Yuki Tokuda, Miho Chiba, Katsumi Yamamoto, Nobuyuki Tatsumi, Toshifumi Ito
Clinical Characteristics of Early Stage Chronic Pancreatitis (eCP): A Single-center Study
50th Joint Annual Meeting of the American Pancreas Association and Japan Pancreas Society.
2019/11/06-09, Maui, Hawaii
33. 金部公美(地域医療機能推進機構大阪病院内視鏡センター), 山本隆子, 森光彩絵, 宮下正恵, 村上浩実, 梅垣美樹, 芳村直美, 稲田明美, 福永花子, 山本克己, 伊藤敏文
ESDを受ける患者の情報収集とチーム内共有方法の検討
第98回日本消化器内視鏡学会総会(JDDW2019)(第4回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会)
Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)61巻Suppl.2 Page2261. 2019/11/21-24, 神戸
34. 巽 信之(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 高木康宏, 奥村りさ, 中村孝彦, 谷口舞子, 西口恭平, 中村弘樹, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 伊藤敏文
実臨床における非代償性肝硬変に対するソホスブビル／ベルバタスビル治療症例の経過に関する検討
日本肝臓学会西部会肝臓(0451-4203)60巻Suppl.3 Page A918. 2019/12/12-13, 下関
35. 徳田有記(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 奥村りさ, 谷口舞子, 中村孝彦, 西口恭平, 中村弘樹, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
酢酸亜鉛製剤(Zinc Acetate(ZA))投与による肝硬変症例の肝機能障害改善効果について
日本肝臓学会西部会肝臓(0451-4203)60巻Suppl.3 Page A938. 2019/12/12-13, 下関
36. 高井勝代¹⁾, 田子謙太郎¹⁾, 田中陽子¹⁾, 竹嶋 好¹⁾, 藤並 舞¹⁾, 宮川博光¹⁾, 谷口舞子²⁾
¹⁾地域医療機能推進機構大阪病院内科, ²⁾同消化器内科
セフトリアキソンの投与によって生じた偽胆石による急性膵炎の1例
第226回日本内科学会近畿地方会. 2019/12/21, 大阪
37. 中村弘樹, 奥村りさ, 高木康弘, 谷口舞子, 西口恭平, 中村孝彦, 澤村真理子, 徳田有記, 石見亜矢, 大西良輝, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
造影CTにて内ヘルニアを診断し腸管を保存できた1例
第120回日本病院総合診療医学会学術総会日本病院総合診療医学会雑16巻Supple1 Page106. 2020/02/21-22, 福岡
38. 日山智史, 飯島英樹, 新崎信一郎, 竹原徹郎
パネルディスカッション「炎症性腸疾患診療のシンポと展望」炎症性腸疾患患者に対するパリエル板NBI拡大観察の有用性 ―多施設前向き研究―
日本消化器病学会近畿支部例会第112回プログラム・抄録集 Page68. 2020/02/29, 大阪(紙上開催)

39. 細川香菜(地域医療機能推進機構大阪病院), 中村孝彦, 奥村りさ, 高木康宏, 谷口舞子, 西口恭平, 中村弘樹, 澤村真理子, 徳田有記, 大西良輝, 石見亜矢, 貫野知代, 日山智史, 濱野美奈, 千葉三保, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
心窩部痛、臍周囲脂肪織炎を呈し、臍炎との鑑別を要したTAFRO症候群の一例
日本消化器病学会近畿支部例会第112回プログラム・抄録集 Page88. 2020/02/29, 大阪(紙上開催)
40. 高木康宏(地域医療機能推進機構大阪病院消化器内科), 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
シンポジウム2「高齢者症か肝腫瘍に対する低侵襲治療の現状と問題点」高齢者消化管腫瘍に対する低侵襲治療の現状と問題点 高齢者に対する早期胃癌ESD、eCuraC2症例の治療成績
日本消化器病学会近畿支部例会第112回プログラム・抄録集 Page88. 2020/02/29, 大阪(紙上開催)

【学会講演】

41. 日山智史
潰瘍性大腸炎の治療戦略
UCライブセミナー. 2020/02/27
42. 山本克己
第14回北摂内視鏡治療研究会ESD Hands on Seminar ESDハンズオンセミナー指導医師
対象：医師・医療関係者. 2019/06/01, 大阪・千里ライフサイエンスセンター
43. Katsumi Yamamoto
CURRENT MANAGEMENT OF EARLY COLORECTAL NEOPLASIA Tricks and practical aspects to perform endoscopic submucosal dissection (ESD) in the West. Is it implementation viable in your environment?
対象：医師・医療関係者. 2019/10/24, ALMERIA, SPAIN
44. Katsumi Yamamoto
CURRENT MANAGEMENT OF EARLY COLORECTAL NEOPLASIA Colonic ESD live demonstrator
対象：医師・医療関係者. 2019/10/24, ALMERIA, SPAIN
45. 山本克己
第15回北摂内視鏡治療研究会ESD Hands on Seminar ESDハンズオンセミナー指導医師
対象：医師・医療関係者. 2019/12/01, 大阪・千里ライフサイエンスセンター
46. 巽 信之
プライマリケアコアレクチャー 肝胆膵疾患の初期対応
対象：医師・医療関係者. 2019/08/07, JCHO大阪病院・大阪
47. 巽 信之
第17回西部大阪肝疾患地域連携会 当院における肝細胞癌の分子標的治療の現状
対象：医師・医療関係者. 2019/12/01, 大阪市・ホテル阪神
48. 巽 信之
西部大阪肝疾患地域連携会・市民公開講座 脂肪肝・アルコールと代謝
対象：一般市民. 2019/12/07, 大阪市・ホテル阪神
49. 染田 仁・村本 理・巽 信之
市民公開講座 ～肝臓病を知る～「患者さんの疑問に答える Q&A」
対象：一般市民. 2019/12/07, 大阪(ホテル阪神)
50. 巽 信之
モーニングレクチャー 非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の治療
対象：医師. 2020/03/06, JCHO大阪病院・大阪
51. 伊藤敏文
第16回西部大阪肝疾患地域連携会「C型慢性肝疾患の院内での掘り起こしの取組」
対象：医師・医療関係者. 2019/02/21, 大阪(ホテル阪神)
52. 伊藤敏文
第55回日本肝臓学会総会ランチョンセミナー「肝臓医として、知っておきたい亜鉛お話—亜鉛補充による肝機能の改善を考える」
対象：医師・医療関係者. 2019/05/30, ホテル京王プラザ・東京

53. 伊藤敏文
セミナー 大腸内視鏡検査と前処置
対象：医師・医療関係者。2019/07/05, 大阪科学技術館・大阪
54. 伊藤敏文
第47回消化器系疾患研究会 教育講演「肝性浮腫治療の最新の話題」
対象：医師・医療関係者。2019/07/20, リーガロイヤルNCB・大阪
55. 伊藤敏文
2019年度第3回大阪府病院薬剤師会 第2支部研修会 特別講演「便秘治療の新しい考え方」
対象：薬剤師・医療関係者。2019/11/28, UMEDAI大阪梅田・大阪
56. 伊藤敏文
肝疾患セミナー ウイルス性慢性肝疾患 最新の治療「HBV・HCV感染症について一知らないといけないよ」
対象：医師・医療関係者。2019/12/02, TKPカンファレンスセンター・大阪
57. 伊藤敏文
サイエンスサミット&TOBIRAシンポジウム 医療イノベーションTOBIRAシンポジウム
「病院への(PAIRS)Medicine実装への課題」
対象：医師・医療関係者。2020/02/21(Covid-19を配慮し中止), エクシブ湯河原離宮・神奈川
58. 伊藤敏文
令和元年度 医学生、研修医等をサポートするための会 「本院での取組、現在・過去・未来～よりよい明日へ」
対象：医師・医療関係者。2020/02/29(Covid-19を配慮し中止), 大阪大学医学部銀杏会館
59. 高木康宏, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
第47回消化器系疾患研究会 教育講演「粘膜下層への浸潤を伴う胃癌ESD症例の長期予後」
対象：医師・医療関係者。2019/07/20, リーガロイヤルNCB・大阪
60. 中村孝彦, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
第48回消化器系疾患研究会「当院における胃粘膜下腫瘍に対する診断と治療の現状」
対象：医師・医療関係者。2020/01/18, リーガロイヤルNCB・大阪
61. 金森恵子, 東城夏恵, 伊藤敏文
第5回肝胆膵疾患チーム医療フォーラム「チーム医療を目指した病棟勉強会」
対象：医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・医療関係者。2020/01/30, BREEZE PLAZA・大阪
62. 中村孝彦
第7回大阪消化器内科レジデントフォーラム「大腸内視鏡的粘膜切除術施行翌日に敗血症を発症した一例」
対象：医師。2019/07/20, TKPガーデン大阪梅田・大阪
63. 谷口舞子
第7回大阪大学消化器内科レジデント成果発表会「C型慢性肝疾患の生物学的指標としての血漿中アミノ酸濃度の検討」
対象：医師。2019/10/06, 大阪(大阪大学医学部)
64. 中村孝彦
第7回大阪大学消化器内科レジデント成果発表会「当院における胃粘膜下腫瘍に対する局所切除施行例の検討」
対象：医師。2019/10/06, 大阪(大阪大学医学部)
65. 伊藤敏文
消化器病懇話会 膵の会 慢性膵炎 ～最近の話題～
対象：一般市民。2019/07/28, JCHO大阪病院・大阪
66. 巽 信之
消化器病懇話会 知ってほしい慢性肝疾患の基礎知識
対象：一般市民。2019/09/14, JCHO大阪病院・大阪
67. 山本克己
消化器病懇話会 早期胃がん、早期大腸がん、早期食道がんの内視鏡治療
対象：一般市民。2019/11/30, 大阪(JCHO大阪病院)
68. 伊藤敏文
消化器病懇話会 肝硬変とのつきあい方 ―最近の話題―
対象：一般市民。2020/01/25, 大阪(JCHO大阪病院)

69. 巽 信之
消化器病懇話会 知ってほしい肝臓の基礎知識と最新の治療法
対象：一般市民. 2020/03/14(Covid-19を配慮し中止), 大阪(JCHO大阪病院)
70. 奥村りさ, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 食道・胃癌の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/06/11, 大阪(JCHO大阪病院)
71. 中村弘樹, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 大腸癌の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/07/09, 大阪(JCHO大阪病院)
72. 伊藤敏文, 山本克己, 巽 信之
消化器内科勉強会 肝炎の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/08/13, 大阪(JCHO大阪病院)
73. 谷口舞子, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 胆道系疾患の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/09/10, 大阪(JCHO大阪病院)
74. 西口恭平, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 膵炎の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/10/18, 大阪(JCHO大阪病院)
75. 高木康宏, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 肝硬変の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/11/12, 大阪(JCHO大阪病院)
76. 中村孝彦, 山本克己, 巽 信之, 伊藤敏文
消化器内科勉強会 肝臓の治療と看護
対象：医師・医療関係者. 2019/12/10, 大阪(JCHO大阪病院)

循環器内科

【原著・総説・著書】

1. Arita Y, Okada M, Ogasawara N, Hasegawa S
Patients With Obesity Exhibit a Plateau Pattern of the Right Ventricular Waveform.
Cardiol Res. 2019 Jun ; 10(3) : 165-171
2. Eda Y, Arita Y, Ogasawara N, Hasegawa S
Tolvaptan for the Treatment of Elephantiasis Nostris Verrucosa.
Intern Med. 2019 Nov 15 ; 58(22) : 3347-3348
3. 有田 陽
「一目瞭然！ 目で見る症例」問題編
日本内科学会雑誌. 2019年10月 ; 108 : 2193-2195
4. Enrico Ammirati, Yoh Aritaら
Fulminant Versus Acute Nonfulminant Myocarditis in Patients With Left Ventricular Systolic Dysfunction
J Am Coll Cardiol. 2019 Jul 23 ; 74(3) : 299-311

【学会発表】

5. 有田 陽
冠動脈バイパス手術前後の管理に関して
Tocilizumab Expert Meeting 2019. 2019/11/22, 大阪市
6. 小笠原延行
この症例をどうするか？
エクスパートセミナー. 2019/04/06, ホテル阪急インターナショナル

7. 福井智大
Two Cases of Kinked Diagnostic Catheters during Transradial Coronary Angiography : Successful Case and Failed Case
近畿心血管治療ジョイントライブ(KCJL)2019. 2019/04/13, ナレッジキャピタル(大阪市)
8. 福井智大
三尖弁中隔尖へのペースメーカーリード癒着による重度三尖弁逆流を経食道心エコーと心電図同期CTにより観察しえた1例
日本心エコー図学会第30回学術集会. 2019/05/10, 松本キッセイ文化ホール(松本市)
9. 福井智大
右心系コントラスト心エコーにより診断に至った肝肺症候群の一例
日本超音波医学会第92回学術集会. 2019/05/24, グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)
10. 福井智大
糖尿病合併症のため治療に難渋した心不全の1症例
第10回心血管糖尿病合同カンファランス. 2019/07/16, リーガロイヤルホテル大阪(大阪市)
11. 福井智大
左室収縮能と拡張能の低下を経時的に観察できたALアミロイド心筋症の1例
日本超音波医学会第46回関西地方会学術集会. 2019/10/26, 大阪国際会議場(大阪市)
12. 福井智大
F-Pバイパス(SVG)再狭窄に対してVIABAHNを用いた1例
第9回Kobe Peripheral Intervention Conference (KoPIC). 2019/11/21, ANAクラウンプラザホテル大阪(大阪市)
13. 安村かおり
Oozing型左室破裂を合併した急性心筋梗塞に対し、経皮的冠動脈形成術先行で良好な心機能予後を得られた一例
第127回日本循環器学会近畿地方会. 2019/06/22, 京都テルサ
14. 山本将平
レボフロキサシンの関与が疑われたTorsade de Pointesを発症した1例
第127回日本循環器学会近畿地方会. 2019/06/22, 京都テルサ
15. 廣瀬江祐
当院における心房細動アブレーション中の心タンポナーデ発生についての検討
第127回日本循環器学会近畿地方会. 2019/06/22, 京都テルサ
16. 廣瀬江祐
労作性狭心症を主訴とする完全左脚ブロックの一症例
第24回 関西心臓核医学セミナー. 2019/10/19, 大阪第一ホテル
17. 廣瀬江祐
下大静脈フィルターの中枢側が腎静脈に入り込み抜去に難渋した一例
第34回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会. 2020/02/15, ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
18. 江田優子
難治性WPW症候群の1症例
大阪不整脈カンファレンス. 2019/11/02, ホテルグランビア大阪
19. 末谷悠人
PSVTに対してアブレーション施行後に偽痛風を発症した高齢女性の一例
日本循環器学会近畿地方会. 2019/11/30, 大阪国際会議場
20. 佐伯 一
A case report suspected of complication of Nonocclusive mesenteric ischemia (NOMI) after atrial fibrillation ablation
第66回日本不整脈心電学会学術大会. 2019/07/26, パシフィコ横浜

21. 江田優子
2：1房室ブロックを伴ったslow-fast AVNRTが疑われた一症例
第15回関西EPカンファレンス. 2019/04/06, 大阪ブリーゼプラザ

【学会講演】

22. 小笠原延行
外来で診る心不全
対象：此花区医師. 2020/02/13, 此花会館
23. 長谷川新治
慢性虚血を主訴に来院する患者の画像診断による鑑別診断、リスクの層別評価
対象：大阪地区医師・放射線技師. 2019/08/24, AP大阪梅田茶屋町
24. 三好美和
高齢化社会における心房細動マネージメント 様子見る？ 紹介する？
対象：医師. 2019/11/27, アートホテルベイタワー(大阪市)
25. 三好美和
当院でのExTra Mappingの治療経験
対象：医師. 2019/12/03, Web講演会
26. 三好美和
2019AHA/ACC/HRS心房細動マネージメントガイドラインのアップデートと最新のDOAC管理について
対象：医師. 2019/04/27, ホテルグランビシア大阪

皮膚科

【原著・総説・著書】

1. Asako Ota
Contact Allergy to Tinuvin 770, a Hindered Amine Light Stabilizer in Sandals Contributing to Hyperkeratotic Foot Dermatitis
contact dermatitis. 2019 ; 8 : 281-290
2. 竹原友貴
臨床例 hobnail hemangioma (targetoid hemosiderotic hemangioma)
皮膚病診療. 2019 ; 41 : 949-952

【学会発表】

3. 西平守明
多様な症状を呈したヒトパルボウイルスB19感染症の4例
第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2019/10/05, 石川県
4. 太田朝子
イソチアゾリン系防腐剤による接触皮膚炎の2例
第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 2019/11/29, 神奈川県
5. 西平守明
腓管内乳頭粘液腫瘍に伴った皮下結節性脂肪壊死症
第477回日本皮膚科学会大阪地方会. 2020/02/01, 大阪

泌尿器科

【原著・総説・著書】

1. 小角幸人, 花房 徹, 高原史郎, 野々村祝夫, 東 治人, 仲谷達也, 山口誓司, 花井 禎, 金 卓, 植村天受, 能勢和宏, 西岡 伯, 松田公志, 阪口勝彦, 客野宮治, 熊田憲彦, 岡田卓也, 藤本宜正
大阪府で行われた腎移植に関する実態調査
大阪透析研究会会誌. 2019 ; 37 : 167-179

【学会発表】

2. 伊藤拓也, 林 哲也, 山口唯一郎, 藤本宜正
当院における根治切除不能な尿路上皮癌に対する Pembrolizumab の初期治療経験
第241回日本泌尿器科学会関西地方会. 2019/05/25, 大阪市
3. 伊藤拓也, 山口唯一郎, 藤本宜正
尿管坐骨孔ヘルニアにより腎盂腎炎を発症した1例
第243回日本泌尿器科学会関西地方会. 2020/02/15, 京都市

産婦人科

【原著・総説・著書】

1. 梅澤奈穂, 尹 純奈, 常弘あずさ, 大八木知史, 福田 綾, 筒井建紀
当科で管理した卵巣過剰刺激症候群の3症例
産婦の進歩. 2019; 71(1): 30-36
2. 永井麻衣, 八田幸治, 沈 嬌, 尾上昌世, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 細井文子, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 橋本奈美子
腹腔鏡下に治療し得た原発性腹膜妊娠の1例
日本生命病院医学雑誌. 2019; 47: 24-26
3. Soonna Yoon, Hiroaki Tsubouchi, Azusa Tsunehiro, Chifumi Ohyagi, Aya Fukuda and Tateki Tsutsui
Uterine cervical ulceration caused by group C streptococcal infection during pregnancy: A case report
J Obstet Gynecol Res. 2019; 45(8): 1593-1596

【学会発表】

4. 田伏真理, 清原裕美子, 永井麻衣, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 常弘あずさ, 尹 純奈, 梶本恵津子, 大八木知史, 安政啓吾, 筒井建紀
腸閉塞を来し、腹腔鏡下に加療した腸管新旧内膜症の1例
第71回日本産婦人科学会学術集会. 2019/04/12, 名古屋
5. 那須瑞貴, 筒井建紀, 常弘あずさ, 田伏真理, 永井麻衣, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 梶本恵津子, 清原裕美子, 大八木知史
境界悪性卵巣腫瘍再発の手術時に卵巣組織凍結を試みた1例
第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 2019/04/12, 名古屋
6. 永井麻衣, 梶本恵津子, 田伏真理, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
流産処置後に全胎状奇胎と診断された1例
第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 2019/04/12, 名古屋
7. 梅澤奈穂, 筒井建紀, 田伏真理, 那須瑞貴, 永井麻衣, 尹 純奈, 常弘あずさ, 梶本恵津子, 清原裕美子, 大八木知史
当科で管理した卵巣過剰刺激症候群の3症例
第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 2019/04/12, 名古屋
8. 那須瑞貴, 筒井建紀, 常弘あずさ, 田伏真理, 永井麻衣, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 梶本恵津子, 清原裕美子, 大八木知史
境界悪性卵巣腫瘍再発手術時に卵巣組織凍結を試みた1例
第140回近畿産科婦人科学会学術集会. 2019/06/16, 大阪
9. 田伏真理, 常弘あずさ, 永井麻衣, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 梶本恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
分娩直後の子宮収縮不良に対し Hayman uterine compression suture で対応した9症例の検討
第140回近畿産科婦人科学会学術集会. 2019/06/16, 大阪
10. 永井麻衣, 梶本恵津子, 田伏真理, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
流産処置15日後に出血・子宮内腫瘍を認め完全胎状奇胎と診断された1例
第140回近畿産科婦人科学会学術集会. 2019/06/16, 大阪

11. 永井麻衣, 梶本恵津子, 田伏真理, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
流産処置後に性器出血を伴う子宮内腫瘍を認め完全胎状奇胎と診断した1例
第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 2019/07/05, 新潟
12. 那須瑞貴, 大八木知史, 田伏真理, 梶本恵津子, 筒井建紀
当院におけるRetained Products of Conception(RPOC)に対する治療法の検討
第55回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2019/07/13, 松本
13. 田伏真理, 那須瑞貴, 梶本恵津子, 大八木知史, 筒井建紀
卵巣子宮内膜症性嚢胞術後に発症した後屈陥頓子宮に対し選択的帝王切開術を施行した1例
第55回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2019/07/14, 松本
14. 須賀清夏, 永井麻衣, 梶本恵津子, 田伏真理, 那須瑞貴, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
稽留流産で流産処置後, 性器出血を伴う子宮内腫瘍を認め全胎状奇胎と診断した1例
第37回日本絨毛性疾患研究会. 2019/11/29, 岡山
15. 服部瑞貴, 大八木知史, 須賀清夏, 田伏真理, 永井麻衣, 梅澤奈穂, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 筒井建紀
当院におけるRetained Products of Conception(RPOC)に対する治療法の検討
第27回日本胎盤学会学術集会. 2019/11/30, 岡山
16. 梅澤奈穂, 田伏真理, 須賀清夏, 永井麻衣, 服部瑞貴, 尹 純奈, 中尾恵津子, 清原裕美子, 大八木知史, 筒井建紀
子宮中隔・陰縦中隔を有する双頸子宮に対し子宮鏡下中隔切除術を行った2例
第3回日本子宮鏡研究会学術集会. 2019/11/09, 京都

【学会講演】

17. 筒井建紀
婦人科がんの最新診療 妊孕性温存
第83回成人病公開講座. 2019/02/12, 大阪
18. 筒井建紀
異所性妊娠
産科婦人科 専攻医クルズス 特別講義. 2019/03/28, 大阪

眼科

【学会発表】

1. 眞下 永
壊死性強膜炎が診断の契機となった90歳の多発血管炎性肉芽腫症の一例
フォーサム2019京都. 2019/07/05, 国立京都国際会館
2. 眞下 永
サイトメガロウイルス角膜内皮炎・虹彩炎の治療経過
第73回臨床眼科学会. 2019/10/24, 国立京都国際会館
3. 河 共美
当院における非感染性ぶどう膜炎に対するアダリムマブの治療成績
第123回日本眼科学会総会. 2019/04/19, 東京国際フォーラム

【学会講演】

4. 眞下 永
鼻の所見が診断の契機となった強膜炎の2例
第17回兵庫県眼科オープンカンファレンス. 2019/09/21, 神戸ポートピアホテル
5. 眞下 永
強膜炎合併ぶどう膜炎
第3回HUMIRA Expert Summit. 2019/10/05, 梅田スカイビル

6. 眞下 永
ぶどう膜炎続発緑内障の診断と治療
第8回GONの会. 2019/05/11, ANAクラウンプラザホテル 大阪
7. 大黒伸行
ぶどう膜炎における全身治療アップデート
GOIW2019. 2019/06/30, 北海道大学
8. 大黒伸行
非感染性ぶどう膜炎に対する治療
第62回近畿眼科先進医療研究会. 2019/09/27, 近畿大学
9. 大黒伸行
アタリムマブの使用経験について
Uve Expert Meeting in Sanuki. 2019/10/19, 丸亀
10. 大黒伸行
ぶどう膜炎続発緑内障
Kobe General Ophthalmologist Café. 2019/11/21, ホテル ラ・スイーツ神戸

耳鼻いんこう科

【原著・総説・著書】

1. 小川 真
咽喉頭逆流症の病態, 喉頭への影響
ENTONI. 2019 ; 238 : 31-38
2. 小川 真
嚥下機能改善手術
耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2019 ; 91 : 842-847
3. Hosokawa K, von Latoszek BB, Ferrer-Reesgo CA, Iwahashi T, Iwahashi M, Iwaki S, Kato C, Yoshida M, Umatani M, Miyauchi A, Matsushiro N, Inohara H, Ogawa M, Maryn Y
Acoustic Breathiness Index for the Japanese-speaking population: validation study and exploration of affecting factors.
Journal of Speech Language Hearing Research. 2019 ; 62 : 2617-2631

【学会発表】

1. Ogawa M, Tom de Hoop, Umatani M, Iwahashi T, Hosokawa K, Inohara H
Characterization of the laryngeal condition during the humming-crescendo task as hypothetical hygienic loud voice phonation.
48th Annual Symposium: Care of the Professional Voice. 2019/05/29-06/02, Philadelphia
2. Ogawa M, Tom de Hoop, Umatani M, Iwahashi T, Hosokawa K, Inohara H
Humming facilitates a gradual increase in vocal intensity by alleviating the enhancement of vocal fold contact and supraglottic compression.
13th Pan European Voice Conference. 2019/08/27-30, Copenhagen
3. Ogawa M, Umatani M, Hosokawa K, Inohara H
Continuous and simultaneous evaluation of glottal contact and expiratory effort during phonation using electroglottography and manometry.
15th Japan-Taiwan Conference on Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery. 2019/12/06-07, Fukuoka
4. Korematsu M, Fujii T, Ogawa M, Yoshii T, Otozai S, Suzuki M, Cho H, Kimura T
Factors affecting conversation and swallowing function following tumor resection and reconstruction in patients with tongue cancer.
15th Japan-Taiwan Conference on Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery. 2019/12/06-07, Fukuoka

5. 吉田大地, 細川清人, 北山一樹, 北山一樹, 加藤智絵里, 小川 真, 猪原秀典
Acoustic Voice Quality Indexによる音声障害評価 —規定文章とは異なる文章を用いた場合の診断精度—
第64回日本音声言語医学会総会. 2019/10/17-18, さいたま
6. 小川 真
ワークショップ「日本気管食道科学会における基礎・臨床研究」大声発声における腹腔・胸腔内圧および声帯接触時間率の連続的評価法の開発
第71回日本気管食道科学会総会. 2019/11/28-29, 宇都宮

小児科

【原著・総説・著書】

1. Ohata Y, Takeyari S, Nakano Y, Kitaoka T, Nakayama H, Bizaoui V, Yamamoto K, Miyata K, Fujiwara M, Kubota T, Michigami T, Yamamoto T, Namba N, Ebina K, Yoshikawa H, Ozono K
Comprehensive genetic analyses using targeted next-generation sequencing and genotype-phenotype correlations in 53 Japanese patients with osteogenesis imperfecta
Osteoporos Int. 2019 Jul 29 ; doi : 10.1007/s00198-019-05076-06
2. Ogushi K, Hattori A, Suzuki E, Shima H, Izawa M, Yagasaki H, Horikawa R, Uetake K, Umezawa A, Ishii T, Muroya K, Namba N, Tanaka T, Hirano Y, Yamamoto H, Soneda S, Matsubara K, Kagami M, Miyado M, Fukami M
DNA Methylation Status of SHOX-Flanking CpG Islands in Healthy Individuals and Short Stature Patients with Pseudoautosomal Copy Number Variations.
Cytogenet Genome Res. 2019 Jun 4 ; doi : 10.1159/000500468
3. Imel EA, Glorieux FH, Whyte MP, Munns CF, Ward LM, Nilsson O, Simmons JH, Padidela R, Namba N, Cheong HI, Pitukcheewanont P, Sochett E, Högler W, Muroya K, Tanaka H, Gottesman GS, Biggin A, Perwad F, Mao M, Chen CY, Skrinar A, San Martin J, Portale AA
Burosumab versus conventional therapy in children with X-linked hypophosphataemia: a randomised, active-controlled, open-label, phase 3 trial.
Lancet. 2019 Jun 15 ; 393(10189) : 2416-2427
4. 原田大輔, 木村美貴子, 阪本夏子, 柏木博子, 圓尾亜由美, 中野美佳, 福永花子, 筒井建紀, 田中小百合, 高橋弘枝, 佐野哲也, 難波範行
総合病院における親子の絆づくりプログラム‘赤ちゃんがきた!’(Baby Program)の取り組み
小児保健研究. 2019 ; 5 : 453-459
5. Tadahiro Yanagi, Kosuke Ushijima, Hidenobu Koga, Takeshi Tomomasa, Hitoshi Tajiri, Reiko Kunisaki, Takashi Isihige, Hiroyuki Yamada, Katsuhiko Arai, Atsushi Yoden, Tomoki Aomatsu, Satoru Nagata, Keiichi Uchida, Yoshikazu Ohtsuka, Toshiaki Shimizu
Tacrolimu for ulcerative colitis in children : multicenter survey in Japan
Intestinal Reserch. 2019 Oct ; 17(4) : 476-485
6. 原田大輔, 難波範行
ADH系機能検査 水制限試験およびバソプレシン負荷試験
小児内科. 2019 ; 51(4) : 472-474
7. 原田大輔, 難波範行
小児外来：どう診るか、どこまで診るか 易骨折性
小児科臨床. 2019 ; 72 Suppl : 214-218
8. 山田寛之
腹痛・嘔吐・下痢 —軽度～中等度の急性胃腸炎を中心に—
小児科臨床. 2019 ; 72 : 477-484
9. 難波範行
副甲状腺機能低下症および偽性副甲状腺機能低下症の診断
平田結喜緒 総監修, 竹内靖博, 杉本利嗣, 成瀬光栄 編, 副甲状腺・骨代謝疾患診療マニュアル 改訂第2版, 診断と治療社. 2019 ; 89-93

【学会発表】

10. 近藤可愛, 難波範行, 折山恭子, 埴岡由樹, 上山 薫, 阪本夏子, 原田大輔, 岸本加奈子, 泉井雅史, 長松有衣子, 柏木博子, 山田寛之
先天性Fanconi症候群で発症し、消化管合併症を認めたネフロン瘻の女児例
第122回日本小児科学会学術集会. 2019/04/19-21, 金沢
11. 原田大輔, 柏木博子, 折山恭子, 上山 薫, 清野佳紀, 難波範行
成長ホルモン治療が軟骨無形成症患者の糖代謝に及ぼす影響
第92回日本内分泌学会学術総会. 2019/05/09-11, 仙台
12. 原田大輔, 木村美貴子, 北林愛理, 中野真由, 倉谷千尋, 池内葉子, 阪本夏子, 柏木博子, 鈴木志帆, 今井康乃, 中野美佳, 中筋葉子, 大八木知史, 難波範行
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」における参加者の満足度に影響する因子の検討
第66回日本小児保健協会学術集会. 2019/06/20-22, 東京
13. Harada D, Kashiwagi H, Ueyama K, Oriyama K, Hanioka Y, Sakamoto N, Kondo K, Izui M, Nagamatsu Y, Yamada H, Seino Y, Namba N
Long-term growth hormone treatment alters glucose metabolism in achondroplasia
The 9th International Conference on Children's Bone Health. 2019/06/22-25, Salzburg, Austria
14. 山田寛之
当院のアンチバイオグラム ～こどもの細菌感染症と抗菌薬～
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2019/07/03, 大阪
15. 上山 薫
急性腎盂腎炎の一例
福島区医師会小児科関連病診連携の会. 2019/07/04, 大阪
16. 原田大輔, 難波範行, 上山 薫, 折山恭子, 柏木博子, 清野佳紀
X連鎖性低リン血症性くる病に対するBrosumabの効果 —従来治療法との比較—
第53回日本小児内分泌学会学術集会. 2019/10/26-28, 京都
17. 泉井雅史, 原田大輔, 難波範行, 上山 薫, 折山恭子, 柏木博子, 清野佳紀
骨形成不全症における心機能の検討
第54回日本小児内分泌学会学術集会. 2019/10/26-28, 京都
18. 原田大輔
ALP157IU/Lで診断した小児型低ホスファターゼ症の男児例
第11回大阪小児科Webセミナー. 2019/10, 大阪
19. 原田大輔, 柏木博子, 上山 薫, 折山恭子, 武鑑真司, 大幡泰久, 石原康貴, 窪田拓生, 清野佳紀, 難波範行
骨折治療遅延を呈した低ホスファターゼ症小児型の男児例
第37回日本骨代謝学会学術集会. 2019/11/01, 神戸
20. 木村美貴子, 原田大輔, 北林愛理, 中野真由, 倉谷千尋, 阪本夏子, 柏木博子, 鈴木志帆, 今井康乃, 中野美佳, 中筋葉子, 大八木知史, 難波範行
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」における参加者の満足度に影響する因子の検討
第5回地域医療機能推進学会学術集会. 2019/11, 横浜
21. 原田大輔, 木村美貴子, 北林愛理, 中野真由, 倉谷千尋, 柏木博子, 今井康乃, 中野美佳, 中筋葉子, 山田寛之
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた!」における参加者の満足度に影響する因子の検討
第70回大阪小児保健研究会. 2019/11, 大阪
22. 原田大輔, 柏木博子, 上山 薫, 折山恭子, 武鑑真司, 大幡泰久, 石原康貴, 窪田拓生, 清野佳紀, 難波範行
ALP 157 IU/Lから診断した小児型低ホスファターゼ症の16歳男児例
第29回臨床内分泌代謝Update. 2019/11, 高知

【学会講演】

23. Namba N
Calcium and Phosphate Metabolism
Asia Pacific Paediatric Endocrine Society (APPES) Short Term Fellow School. 2019/04/11, Hangzhou, China

24. 難波範行
小児期発症内分泌疾患の transition
AGHD Academy. 2019/05/25, 東京
25. 難波範行
小児 XLH 患者を対象とした臨床試験成績報告
KRN23 治験成績報告会. 2019/06/16, 東京
26. Namba N
Current Care and New Therapeutic Approaches to Achondroplasia
The 9th International Conference on Children's Bone Health. 2019/06/22-25, Salzburg, Austria
27. 原田大輔
医療機関が主導する「親子の絆づくりプログラム “赤ちゃんがきた!”」
第 1 回 KKI BP ファシリテーター大研修会. 2020/01, 東京
28. 原田大輔
医療機関が主導する「親子の絆づくりプログラム “赤ちゃんがきた!”」
第 2 回 KKI BP ファシリテーター大研修会. 2020/02, 大阪
29. 山田寛之
こどもの便秘
福島区学校医と養護教諭の合同勉強会. 2020/02/08, 大阪

神経精神科

【原著・総説・著書】

1. Kudo N, Yamamori H, Ishima T, Nemoto K, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Niitsu T, Numata S, Ikeda M, Iyo M, Ohmori T, Fukunaga M, Watanabe Y, Hashimoto K, Hashimoto R
Plasma Levels of Matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) Are Associated With Cognitive Performance in Patients With Schizophrenia
Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Feb 5 ; doi : 10.1002/npr2.12098

脳神経内科

【原著・総説・著書】

1. 山下和哉, 明浦公彦, 寺川晴彦, 上田周一
卵円孔開存が存在する奇異性脳塞栓症の経過中に判明した特発性肺動静脈奇形に対し、経カテーテル的塞栓術を行った一例
脳卒中. 2019 ; 41 : 505-509

【学会発表】

2. 上田周一, 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦
症候性内頸動脈閉塞例における Arterial Spin Labeling MR 画像を用いた脳梗塞病態解析
第60回日本神経学会学術大会. 2019/05/23, 大阪国際会議場
3. Kazuya Yamashita, Makoto Kinoshita, Katsuichi Miyamoto, Akiko Namba, Mikito Shimizu, Toru Koda, Teruyuki Ishikura, Yuji Nakatsuji, Atsushi Kumanogoh, Susumu Kusunoki, Hideki Mochizuki and Tatsusada Okuno
Pathogenic role of mitochondrial DNA through NLRP3 inflammasome in vitro and in vivo mouse model of neuromyelitis optica spectrum disorder
2019/09/11, Stockholm, Sweden
4. 川野祐暉, 山下和哉, 明浦公彦, 寺川晴彦, 長田 学, 大黒伸行, 上田周一
経口抗菌薬による梅毒初期治療の完遂後、早期に顕在化した神経梅毒の一例
日本神経学会第114回近畿地方会. 2019/07/27, 大阪国際会議場

5. 細川香菜, 明浦公彦, 山下和哉, 寺川晴彦, 上田周一, 宮川博光, 鈴木 朗
SIADHを合併した抗MuSK抗体陽性重症筋無力症の1例
日本内科学会第227回近畿地方会. 2020/03/07, 京都テルサ(中止)

【学会講演】

6. 寺川晴彦
パーキンソン病治療の最新の話
此花区医師会. 2019/09/12, 大阪
7. 寺川晴彦
高齢者てんかんの診断と治療
福島区医師会. 2019/09/17, 大阪
8. 寺川晴彦
てんかん移行期診療について考える
北大阪Epilepsy Case Meeting. 2019/12/07, 大阪
9. 寺川晴彦
脳卒中について
大阪病院ケア連携の会. 2020/01/22, 大阪
10. 寺川晴彦
パーキンソン病診療ガイドラインについて考える
大阪市西部パーキンソン病セミナー. 2020/02/14, 大阪

放射線診断科

【原著・総説・著書】

1. 大倉隆介
【画像診断ドリル】発熱・倦怠感を主訴に来院した50歳代男性
レジデントノート増刊. 2020; 22(2): 323-327
2. 大倉隆介
【画像診断ドリル】腹痛・腹部膨満・嘔吐を呈した80歳代男性
レジデントノート増刊. 2020; 22(2): 328-332

【学会発表】

3. 米田昌平, 白杵則朗, 田中佐織, 久保友宏, 崔 朝理, 大倉隆介
CTでの門脈、腸間膜静脈ガス例の重篤度に関する検討
第55回日本医学放射線学会秋期臨床大会. 2019/10/18-20, 名古屋市

麻酔科

【原著・総説・著書】

1. 別府曜子, 八木真美, 山間義弘, 大畑百恵, 栗田 聡, 中谷桂治
麻酔科術前診察で重症肺高血圧が明らかとなり待機的に非心臓手術を行ったOrtner症候群の1症例
麻酔. 2019; 68(6): 584-588

歯科

【学会発表】

1. 鹿島倫子, 藤本佳之, 内田修爾, 永田 恵, 安井麻美, 中田活也, 北田 誠
周術期口腔機能管理の整形外科領域への対応について
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/02, 千葉県

薬剤部

【学会発表】

1. 吉田美奈
透析患者におけるセフメタゾール投与により、痙攣発作が起きたと考えられる1症例
第29回日本医療薬学会. 2019/11/09, 福岡国際会議場
2. 植田 徹
透析期間が及ぼす腎性貧血に対するレボカルニチン製剤の有効性
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/02, パシフィコ横浜会議センター

【学会講演】

3. 中城宏子
災害医療 ～薬剤師ができること・求められること～
第15回野田藤会総会. 2020/03/13, JCHO大阪病院

放射線室

【学会発表】

1. 濱川和大
前立腺癌に対する強度変調放射線治療の治療計画に用いるMRI画像の歪みの検討
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/02, パシフィコ横浜
2. 肥田豊成
One shot DR長尺システムの使用経験
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/02, パシフィコ横浜

中央検査室

【学会発表】

1. 越智賢太
病院内検体採取容器の有効期限管理 —ちゃんと入れ替え隊の活動—について
JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/01, 横浜市
2. 小井エミ
肝炎ウイルス初回陽性に対する電子カルテ付箋提示によるアラート効果
JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/01, 横浜市
3. 石川浄也
肝炎ウイルス検査陽性患者のフォローアップのための取り組み
大臨技医学検査学会. 2020/02/01, 大阪府
4. 福田央子
子宮頸癌手術後腹腔腫瘍よりMycoplasma hominisが分離された1症例
第31回日本臨床微生物学会・学術集会. 2020/02/01, 石川県
5. 福嶋友孝
肺動脈性肺高血圧症合併した成人Eisenmenger症候群の1症例
日本心エコー学会第30回学術集会. 2019/05/10, 長野県

栄養管理室

【学会発表】

1. 佐藤和佳
経口・経管・経静脈投与を併用して最終的に経口・自宅退院可能となった肝切除術後長期人工呼吸管理症例
第10回栄養管理指導者協議会学術総会(PEN Leaders). 2019/09/23, 神戸国際会議場

【原著・総説・著書】

1. 松本景史
心臓植込み型電氣的デバイスにおける遠隔モニタリングシステムの安全性と期待
日本臨床工学技士会誌. 2019 ; 67 : 104-107

【学会発表】

2. 松本景史
至適房室伝導評価の検討
第29回日本臨床工学会. 2019/05/18, 盛岡市、マリオス(盛岡市民文化ホール)
3. 松本景史
遠隔データマネジメントシステムにおけるデータマネジメントシステム Mainspring Data Express の有用性
第66回日本不整脈心電学会. 2019/07/25, 横浜市、パシフィコ横浜
4. 松本景史
Atypical ANNRT 症例
第8回阪神コメディカル不整脈研究会. 2019/08/11, 大阪市、北野病院
5. 三沼英彦
完全房室ブロック患者における至適房室伝導機能 QuickOpt™ の評価
第53回ペーシング治療研究会. 2019/09/21, 大阪市、グランキューブ大阪
6. 南 健太
スクリーニングにて植込み不適合となったがS-ICD植込みを行った1症例
第53回ペーシング治療研究会. 2019/09/21, 大阪市、グランキューブ大阪
7. 野村千穂美
Mainspring Data Express® の有用性
第53回ペーシング治療研究会. 2019/09/21, 大阪市、グランキューブ大阪
8. 中嶋耕兵
心アミロイドーシス患者にてRV Sensing Failureを経験した一例
第2回大阪循環器カンファレンス. 2019/11/23, 大阪市、JCHO大阪病院
9. 松本景史
房室ブロック症例におけるAV delayの検討
第12回植込みデバイス関連冬季大会. 2020/02/08, 名古屋市、名古屋コンベンションホール

【学会講演】

10. 松本景史
自動チェック vs 手動チェック ～自動メジャーメントおよび診断機能の見極め～
第19回日本心臓植込みデバイスフォローアップ研究会. 2019/06/08, 福岡市
11. 松本景史
遠隔モニタリング主体のデバイス外来
近畿デバイスカンファレンス in とくしま. 2019/08/17, 徳島市
12. 松本景史
これだけは知っておこう！ アブレーション
KCCI 3rd Meeting. 2019/09/28, 大阪市
13. 松本景史
「スマートテクノロジーが変える植込み型心臓デバイス患者の管理～新たな遠隔モニタリングの実現に向けて」
デバイス管理の実際、遠隔モニタリングのワークフローについて
CCT 2019. 2019/10/24, 神戸市
14. 松本景史
発作性上室性頻拍を考える！
九州小倉&関西コメディカルカンファレンス. 2019/11/30, 大阪市

15. 松本景史
心房細動のあれこれ
北大阪コメディカル不整脈勉強会. 2019/12/07, 大阪市
16. 松本景史
「電磁干渉(EMI)への対応を再考する」
放射線治療とCT撮像への対応
第12回植込みデバイス関連冬季大会. 2020/02/07, 名古屋市

看護部

【原著・総説・著書】

1. 天野聡子
整形外科看護25巻5号 整形外科の手術とケア
メディカ出版. 2019 ; p26-27

【学会発表】

2. 高橋 唯
助産師が実施しているバースレビューの展開方法の実際
第60回日本母性衛生学会. 2019/10/11, 千葉県
3. 中野真由
助産師のバースレビューに対する理解と実施と実施の実際
第60回日本母性衛生学会. 2019/10/11, 千葉県
4. 野村 晶
産科病棟独自の患者満足度調査継続に対する助産師の希望と助産師自身の行動や感情の変化
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/02, 神奈川県横浜
5. 木村美貴子
親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」における参加者の満足度に影響する因子の検討
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/01-02, 神奈川県横浜
6. 西川佳那恵
非カフ型カテーテル関連血流感染サーベイランス結果報告
第64回日本透析医学会学術集会・総会. 2019/06/29, パシフィコ横浜
7. 村上博美
応援看護師がベッドサイドケアで必要とする患者情報について
第7回ケア環境改善フォーラム. 2019/08/22, 新潟県新潟市
8. 松枝治代
心臓カテーテル治療中に抱く患者の思い ～苦痛と不安を抱える患者へのアンギオ室でできるアプローチ～
日本心血管インターベンション治療学会. 2020/02/15, ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター
9. 金部公美
ESDを受ける患者の情報収集とチーム内共有方法の検討
第71回近畿内視鏡治療研究会プログラム. 2019/06/28, 梅田スカイビル タワーイースト
10. 金部公美
ESDを受ける患者の情報収集とチーム内共有方法の検討
第4回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会. 2019/11/24, TKP神戸三宮カンファレンスセンター
11. 堀美和子
大阪病院における医療安全管理者の取り組み状況と成果 ～リスクパトロールを通して～
第5回JCHO地域医療総合医学会. 2019/11/01, パシフィコ横浜

【学会講演】

12. 志方優子

がん看護で考える看仏連携の可能性 ～臨床で感じていることを通して～

対象：地域の僧侶及び看護・介護に従事されている方. 2020/01/18, 大阪市

医事課

【学会発表】

1. 魚澤正克

上級医療情報技師が輝く未来 ～上級医療情報技師15周年までのアクションプラン～

上級医療情報技師ワークショップ2019報告

第39回医療情報学連合大会(第20回日本医療情報学会学術大会). 2019/11/24, 千葉市(幕張メッセ)

【学会講演】

2. 魚澤正克

病院情報システムのセキュリティ事案と対策

大阪医事研究会実務者ネットワーク 会長講演. 2019/09/19, JCHO大阪病院

3. 魚澤正克

医療情報技師が知っておくべき診療報酬 ～2020年度診療報酬改定をふまえて～

関西医療情報技師会第35回勉強会. 2020/02/08, 京都市

病 院 年 報 第 4 卷

2020年10月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構 大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島4丁目2-78

TEL：06-6441-5451(代表)

<http://osaka.jcho.go.jp>

■印刷■

共進社印刷株式会社

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央2丁目9-5

TEL：06-6941-8881